2026

NIHON UNIVERSITY
COLLEGE OF
RISK MANAGEMENT

学部要覧

日本大学危機管理学部

自主創造
日本大学

この『学部要覧』は，本学部に在学する皆さんが必ず知っておかなければならない規則や科目の履修方法のほか，図書館などの利用や事務手続きをまとめたガイドです。

卒業要件等重要な事柄が記載されていますので，この『学部要覧』をよく読み，有意義な学生生活を送れるよう，卒業するまでの在学期間を通じて，十分に活用してください。

1. 教育家としての山田顕義

【教育家　山田顕義略年譜】

＊赤字は山田の事象

西暦	和暦	月	山田顕義と時代の動き
1844	弘化1	10	萩藩士山田顕行の長男として松本村に生まれる(通称市之允)。
1854	安政1	3	吉田松陰と金子重輔が伊豆下田で、米国ペリー艦隊の軍艦に密航を企て失敗。松陰は萩の野山獄へ幽閉される。
1856	安政3		藩校明倫館に入り、師範馬木勝平に剣術（柳生新陰流）を学ぶ。
1857	安政4		吉田松陰の松下村塾に入門。
1858	安政5		師・松陰より扇面詩「与山田生」を与えられる。
1859	安政6	10	吉田松陰が安政の大獄により処刑される。
1871	明治4	9	司法省明法寮設置（司法省法学校の前身）。
		11	岩倉米欧使節団に兵部省理事官として随行。アメリカ滞在。
1872	明治5		フランス･オランダ･スイス･イギリス等に滞在、諸制度を調査。
1873	明治6	4	開成学校法学科設置（東京大学法学部の前身）。
		6	ドイツ・オーストリア・ロシア滞在を経て帰国。
1874	明治7	7	司法大輔となる。
1875	明治8	9	刑法編纂委員長となる。
1878	明治11	2	刑法草案審査委員となる。
1880	明治13		東京法学社（のち和仏法律学校、法政大学の前身）、専修学校（専修大学の前身）創立。
1881	明治14	1	明治法律学校（明治大学の前身）創立。
1882	明治15	8	皇典講究所設立。山田、皇典講究所の「賛襄」(協賛者)に推挙される。
			東京専門学校（早稲田大学の前身）創立。
1883	明治16	12	司法卿となる。
1884	明治17	7	勲功により伯爵を授けられ華族に列する。
1885	明治18	12	内閣制度発足。初代司法大臣となる。
1887	明治20	10	法律取調委員長となる。
1889	明治22	1	皇典講究所所長となる。
			10月４日、日本法律学校創立（日本大学の前身／皇典講究所内、麹町区飯田町５丁目８番地）。
1890	明治23	7	皇典講究所に國學院（現國學院大學）設置。
1892	明治25	11	生野銀山視察中に死去（49歳）。

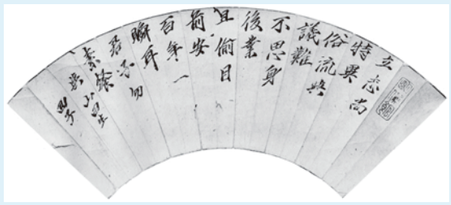
吉田松陰から与えられた扇面「与山田生」

山田顕義（通称は市之允）は、14歳の安政４年（1857）、伯父山田亦介（松陰の兵学の師）の推薦により、吉田松陰の松下村塾に入門しました。

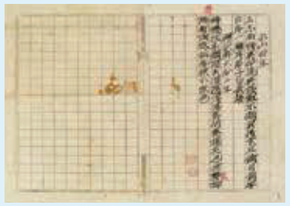
松下村塾ではほとんどが個別教育で、国学を学ぶ者、歴史を学ぶ者、漢籍を読む者などさまざまで、門弟たちは師とともに米を搗き、薪を割り、水を汲みながら古今聖人の逸話や時事問題を論じ、協同・勤労精神を養ったのでした。こうした師弟の交流のなかで、松陰の思想や信念が長州藩の若者たちを魅了し、松陰の死後も強い影響力を与えたのです。山田顕義も、師・松陰や同門の先輩たちとの交わりを通して、後年大成する素地を養ったのです。

山田顕義が吉田松陰から教えを受けたのは、安政４～５年にかけての１年余りでした。しかし、山田は松陰の教えを守り、よく勉強したようで、少年期を萩で過ごした国木田独歩がその著書のなかで富永有隣に聞き書きをしたとき、富永が「市イーは中々よく読む子であった」と、山田の勤勉振りを回想しています。

そうした多感な青年期にあった山田顕義に、師・松陰は「与山田生」と題した詩を扇面に揮毫して立志の目標を示したのでした。



扇面「与山田生」



松陰自筆詩稿〔複製〕

皇典講究所所長に就任

明治15年(1882)、古典（国典）研究と神官を養成する機関として皇典講究所が設立されます。

吉田松陰や大伯父村田清風（長州藩藩政改革者）の思想を受け継ぎ、政府首脳部の中でも神道や神社に対する尊崇の念がとりわけ強かった山田は、皇典講究所の設立にも積極的に関わっていきました。

明治14年、神道界を二分した祭神論争が勅裁により終結すると、内務省では神道界を再編しようと模索する動きが出てきました。この年10月、内務卿に就任した山田顕義は、祭神論争の反省をふまえ、政教分離思想を取り入れた、純粋な国典研究と神官養成を目的として皇典講究所の設立を認可したのです。

山田は皇典講究所発足以後もその運営を賛助していましたが、総裁有栖川宮幟仁親王が逝去すると、後任として、設立・発展に尽力した山田が所長に迎えられました。

皇典講究所飯田町校舎（明治末期）
皇典講究所は、明治15年８月に設立され、有栖川宮幟仁親王が総裁に就任。
山田顕義は、明治22年10月に講究所内に日本法律学校を創立させた後、翌23年７月には、講究所の規模を拡張し國學院(現國學院大學)を開校した。
〔國學院大學蔵〕

日本法律学校の創立

明治10年代に入ると、本格的な私立法律学校開設が社会的な要請となってきました。東京法学社（法政大学の前身）創立をはじめとして、専修学校（専修大学の前身）・明治法律学校（明治大学の前身）・東京専門学校（早稲田大学の前身）等が次々と開設されていきます。

日本法律学校設立主意及規則
〔國學院大學蔵〕

私立学校設立の必要性を痛感しながらも、その意を実現することができなかった山田でしたが、日本の伝統や文化を重んじた法学教育の実施を計画していました。

そのようなとき、山田顕義は、宮崎道三郎・樋山資之・末岡精一らの法学者たちが構想する法律学校設立の計画があることを知ります。それが、日本独自な法学理論の研究と教育を使命とする法律学校設立計画でした。

山田の全面的な支援により、日本法律学校は、明治22年(1889)10月４日に創立され、初代校長に金子堅太郎が就任しました。

創立者総代宮崎道三郎（1855～1928）

初代校長金子堅太郎（1853～1942）

日本法律学校広告（明治23年4月2日付朝野新聞）

皇典講究所の改革

明治22年(1889)、司法大臣の現職のまま皇典講究所所長に就任した山田顕義は、皇典講究所の改革を推し進めます。山田の考える改革とは、日本の人種・慣習・風俗・言語など国家成立の要因、すなわち国体を明らかにするというものです。一方で山田は、司法大臣として法典整備を進めていましたが、その基礎となる国典の研究の重要性を認識しており、このような国典・国史・国法をいっしょに研究する教育機関を皇典講究所のなかに設置しようと計画していたのです。

山田は毎週水曜日に皇典講究所に通っていましたが、ある日、司法大臣官邸に講究所所員一同を招き「諸君は乞食しても此の事を成し上げんとの覚悟はありや」と問いかけたといわれ、皇典講究所に期待するところが大きかったことが伺われます。

2. 政治家としての山田顕義

【政治家　山田顕義略年譜】

＊赤字は山田の事象

西暦	和暦	月	山田顕義と時代の動き
1844	弘化１	10	萩藩士山田顕行の長男として松本村に生まれる(通称市之允)。
1855	安政２	5	山田の大伯父で藩政改革者の村田清風病没。
1857	安政４		吉田松陰の松下村塾に入門。
1859	安政６	10	吉田松陰が安政の大獄により処刑される。
1863	文久３	8	八月十八日の政変。尊攘派公家七卿が都を落ちる。
1864	元治１	1	高杉晋作とともに脱藩。京に赴く。
		7	禁門の変で長州勢が敗北。久坂玄瑞ら死去。
		8	四カ国連合艦隊が下関沿岸を砲撃。
1865	慶應１	1	高杉晋作クーデター決行、尊王攘夷派が藩政を掌握。
1866	慶應２	1	長州と薩摩の同盟が締結。
1867	慶應３		大政奉還(10月)、王政復古の大号令（12月）。
1868	明治１	1	鳥羽伏見の戦いで長薩連合軍が幕府軍を撃破。
1869	明治２		この頃から、顕義と称するようになる。
1871	明治４	11	岩倉米欧使節団に兵部省理事官として随行。
1873	明治６	11	清国特命全権公使となる（佐賀の乱により赴任せず）。
		11	ボアソナード来日。
1874	明治７	7	司法大輔となる。
1877	明治10	3	西南戦争に別働旅団司令長官として従軍。
		5	木戸孝允死去。
1879	明治12	9	参議兼工部卿となる。
1881	明治14	10	内務卿となる。
1882	明治15	8	皇典講究所設立。
1883	明治16	12	司法卿となる。
1885	明治18	12	内閣制度発足。初代司法大臣となる。
1889	明治22	1	皇典講究所所長となる。
		10	日本法律学校創立（日本大学の前身）。
1890	明治23	4	民法の四編、民事訴訟法、商法が公布される。
		12	商法施行延期法案が貴族院を通過。
		12	司法大臣の辞表を提出するが慰留される。
1891	明治24	5	大津事件。ロシア皇太子ニコライが負傷。
		6	司法大臣を辞任。
1892	明治25	11	生野銀山視察中に死去（49歳）。

松下村塾の門下生

吉田松陰の松下村塾は、後に活躍した勤皇の志士たちを多数輩出しています。高杉晋作と久坂玄瑞は松下村塾門下でもその俊才を謳われましたが、久坂は禁門の変で敗れた際に自害し、高杉は維新を迎えることなく病で亡くなりました。伊藤博文と山県有朋は、明治期に内閣総理大臣となり、日本の国政に大きな影響を与えました。

高杉晋作（1839～67）
〔港区立港郷土資料館蔵〕

伊藤博文（1841～1909）

山県有朋(1838~1922)

法典編纂の激務

近代化を迎えた日本において、諸外国と対等な条約を結ぶ為には近代法を整備し、欧米諸国の領事裁判権を撤廃することが最大の課題でした。

山田顕義は、明治７年に司法大輔に就き、以後、刑法審査委員、法律取調委員長として各法典の制定に取り組み、その姿勢は「殆ンド寝食ヲ忘ルル」ほどだったといいます。山田がボアソナードらの協力を得て整備した民法・商法は明治23年(1890)に公布されます。

しかし、民法は日本の伝統・習慣をよく照らし合わせてから施行するべきだという意見が出され、いわゆる法典論争が起こります。

明治25年(1892)、議会の否決により民法・商法施行は延期とされます。山田顕義の死後、明治31年に新民法、明治32年に新商法が施行されますが、そこには、施行されなかった旧法に基づく部分も含まれていました。

ボアソナード（1825~1910）
1825年、フランス・ヴァンセンヌ市生まれ。パリ大学を卒業。同大学助教授を経て、明治６年（1873）、政府の法律顧問として来日。20年間にわたり法典編纂や、司法省法学校教授、外交政策への助言などに尽力しました。山田の死に際しては「日本國ノ為メニー大不幸ニシテ、悲嘆痛惜ニタヘザルナリ」と深く悼みました。
〔法政大学図書館蔵〕

錦絵「泰平有名鑑」
（豊原国周筆　明治15年）
これは、当時の政府の中枢を担っていた人物を描いた錦絵です。
山田は右中ほどにいますが、皇族、旧公家以外ではひとりだけ和装である点が注目されます。

政治家としての薫陶

政治家として山田顕義に大きな影響を与えた一人が木戸孝允（桂小五郎）です。木戸は、長州藩を代表する人物で、幕末より第一線で活躍し、薩摩の西郷・大久保とともに「維新三傑」として数えられています。

木戸と山田顕義がとくに密接な関係になるのは、岩倉使節団の欧米視察中のことです。木戸の日記によると、両人はよく面会して、ともに異国の街に散歩に出ていたようです。

木戸の開明的な思想と、欧米見聞により山田の法思想が確立したといっても過言ではないでしょう。

木戸孝允（1833~77）
〔港区立港郷土資料館蔵〕

大津事件

明治24年(1891)５月11日、日本を訪問中のロシア皇太子ニコライ（後のニコライ２世）に、滋賀県大津市で警備中の津田三蔵巡査が突然斬りかかるという事件が起こりました。

当時、日本はまだ近代化間もない時期で、被害者が大国のロシア帝国皇太子ということもあり、日本国中が大混乱に陥りました。

政府はロシアに対する配慮から、皇室罪を適用して津田巡査を死刑にすべく、司法大臣山田顕義と内務大臣西郷従道が大審院長児島惟謙の説得にあたりました。

裁判が行われる直前、児島は山田・西郷と面会し、津田を無期徒刑にすることを改めて伝えると、西郷は激怒しましたが、山田はすぐに納得したと児島の日記に記されています。

結局、津田は無期徒刑の判決を受けますが、一方で、ロシアへの配慮として内務大臣西郷従道と司法大臣山田顕義は引責辞任します。

幕末の対外的圧力を肌で感じ、日本の法律の基礎を作り上げた山田としては、政府と児島の双方の言い分が理解できていたからこそ、児島に対し敢えて反論しなかったのかもしれません。

津田三蔵（1855～91）

ロシア皇太子ニコライ
（1868~1918）

児島惟謙（1837~1908）
天保８年（1837）、宇和島生まれ。明治４年（1871）司法省に入り、明治25年（1892）に大審院長の職を辞するまで21年間の司法官生活を送りました。

2026 年度

学部要覧

日本大学危機管理学部

日本大学の目的及び使命

日本大学は　日本精神にもとづき
道統をたつとび　憲章にしたがい
自主創造の気風をやしない
文化の進展をはかり
世界の平和と人類の福祉とに
寄与することを目的とする

日本大学は　広く知識を世界にもとめて
深遠な学術を研究し
心身ともに健全な文化人を
育成することを使命とする

目次

危機の時代のリベラルでアクティブな「危機管理学」の学びへ…… 1
日本大学教育憲章…… 2
学部教育の目的・目標・ポリシー…… 3
カリキュラムの概要…… 7
カリキュラムの特徴…… 8

Ⅰ　科目の履修と手続き

1. 1 年次の学修計画 …… 10
2. 2 年次以降の学修計画 …… 11
3. 大学 4 年間の流れ…… 13
4. 授業時間 …… 14

Ⅱ　授業科目の概要と履修上の注意

1. 授業科目の分類…… 15
2. 各学年の最高履修単位数 …… 17
3. 履修登録 …… 18
4. 履修中止 …… 20
5. 成績評価と定期試験及び不正行為 …… 20
6. GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度 …… 22
7. その他…… 23

日本大学の海外留学制度 …… 26

Ⅲ　卒業の要件と履修モデル

1. 卒業の要件 …… 27
2. 外部試験等による単位認定 …… 28
3. 履修モデル …… 28

Ⅳ　図書館の利用

1. 貸出冊数と期間 …… 33
2. 開館時間 …… 33
3. 休館日（原則） …… 33
4. 相互利用サービス …… 33

Ⅴ　学生生活

窓口事務取扱時間 …… 34
クラス担任制 …… 34
ポータルサイト …… 34
ノート PC の持参について …… 35
学生証裏面シールについて …… 35
通学定期券 …… 35
自転車通学の手続き …… 35
自動車，バイクの通学禁止 …… 36
学割証 …… 36
拾得物及び忘れ物の保管 …… 36
ロッカー …… 36
学内 Wi-Fi の接続 …… 37
保健室 …… 38
学生支援室 …… 38
日本大学本部学生支援センター …… 39
ハラスメント …… 40
ハラスメントを受けたときの対応 …… 40
人権相談オフィス …… 41
校内禁煙と三軒茶屋周辺の環境美化 …… 42
盗難防止 …… 42
飲酒事故の防止 …… 42
薬物（大麻・覚せい剤・麻薬等）犯罪防止 …… 42
インターネットを利用する際の注意事項 …… 42
闇バイト等の悪質勧誘や詐欺への注意 …… 43
宗教団体からの勧誘 …… 43
その他の注意事項 …… 43
三軒茶屋キャンパス（アクセス等）…… 44
校舎見取図 …… 45
大地震発生時行動マニュアル …… 52

付　録

日本大学校歌 …… 55
日本大学学則（抜粋）…… 56

三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル

危機の時代のリベラルでアクティブな「危機管理学」の学びへ

現代は危機の時代ともいわれます。世界中で大災害が発生し，戦争紛争で多くの人々の命が失われ，感染症パンデミックでライフスタイルは大きく制限されています。平和な社会においても，進化した多様なメディアや技術により個人の人権やプライバシーが侵されるリスクに晒されています。こうした危機の時代を生き抜くために，新しいリスクリテラシーが市民ひとりひとりに求められています。危機管理学とは，こうしたあらゆる危機に対応できる能力を身につけるためのオールハザード・アプローチに基づいています。こうした危機の時代に対応する人材を育成するために，2016 年に開設された危機管理学部は，この 2026 年で開設 10 周年を迎えます。

この 2026 年度からはじまる危機管理学部の新カリキュラムの特徴は，「リベラルな危機管理学」と「アクティブな危機管理学」です。

「リベラルな危機管理学」とは，学問・研究としての危機管理学に，社会的機能としての危機管理が何のためにあるのかを考えるとき，人々の「自由」（liberty）や人権（human rights）などの民主主義的価値，多様性（diversity）や公正性（equity），包摂性（inclusion）といったリベラルな価値，人道主義（humanism）などの規範的価値に基づいた人々の幸福な生活を守るために必要なものとして位置づけることが現在求められています。戦争における「人間の安全保障」の理念も，災害における「人間の復興」の理念も，そうした価値に立脚しています。このような民主主義を支える価値や理念を守ることで，人々の幸福な生活はデザインできると考えられます。平常時から有事まで，守られるべきコンプライアンスやガバナンスのあり方を問い，それに基づいた危機管理の実践について学びます。

「アクティブな危機管理学」とは，社会において危機管理を実践する現場となるフィールドに出て，自ら具体的な社会問題や地域課題に向き合いながら，フィールドワークを通じて危機管理を学ぶアクティブ・ラーニングを取り入れた学びです。こうしたフィールドでの実践に重きを置く課題解決型の学びを PBL(Project Based Learning) といいます。危機管理学部の新カリキュラムでは，この PBL を大規模に取り入れ，学生が現場のフィールドワークで得た経験や気づきをキャンパスに持ち帰り，教室での授業・演習や，オンライン授業での学びと有機的に結び付けながら，社会での実践に活かせる危機管理学を修得します。

この新しいリベラルな危機管理学，アクティブな危機管理学の理念が中核に位置付けられた危機管理学部の新しいカリキュラムで，自分自身の未来を「自主創造」できるよう，仲間たち，教員たちとともに学びを深めましょう。

日本大学危機管理学部
学部長　福　田　　充

日本大学教育憲章

日本大学は，本学の「目的及び使命」を理解し，大学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ，「日本大学マインド」を有する者を育成する。

◆日本大学マインド

・日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質，感性及び価値観を身につけ，その特質を自ら発信することができる。

・多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し，地域社会，日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し，説明することができる。

・社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

◆「自主創造」の 3 つの構成要素及びその能力

＜自ら学ぶ＞

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

・世界の現状を理解し，説明する力

世界情勢を理解し，国際社会が直面している問題を説明することができる。

＜自ら考える＞

・論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。

・問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。

＜自ら道をひらく＞

・挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

・コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを伝えることができる。

・リーダーシップ・協働力

集団のなかで連携しながら，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

・省察力

謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。

学部教育の目的・目標・ポリシー

危機管理学部は，様々な社会的危機に柔軟かつ的確に対応できる「危機管理パーソン」の養成を教育，研究の目的としています。「危機管理パーソン」に求められる能力は，ヒューマニズムに根差した思考様式を備え，社会的危機に柔軟かつ的確に対応できる「リスクリテラシー」と，「リスクリテラシー」実践に必要な法学を始めとした知識です。この 2 つの側面を涵養することが危機管理学部の教育目標となります。そのことがディプロマ・ポリシー（学位授与の方針），アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針），カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の 3 つのポリシーに体現されています。

教育研究上の目的

危機管理学部　教育研究の目的（学部理念）

ヒューマニズムを心に刻み，グローバル化した現代社会を取り巻く様々な危機と向き合い，人々の生命や生活を守る強い信念と高い志を基に，主体的に行動し，日本の秩序の維持と国民の安全，さらには世界の平和の実現のために問題解決に向き合うリスクリテラシーを実践する人材，すなわち「危機管理パーソン」を養成します。

危機管理学科　教育研究の目的（学科理念）

現代社会で発生する多様な問題に対して，国，地方公共団体，民間企業，メディア，NGO，国際機関などそれぞれの職場において，平常時から危機管理の視点をもって予防と対処に主体的に関わり，社会の安心と安全につなげるリスクリテラシーを実践するために，必要な広い教養と深い専門知識を備えた人材を養成します。

教育目標

危機の予防と対処のための「リスクリテラシー」を涵養する

リスクリテラシーとは，複雑化する現代の危機を予防しまたは対処することができる危機管理能力のことを指します。社会をうごかすシステムの理解のうえに，危機管理に関する知識と運用能力について「理論」と「実践」を両輪にして修得します。

■卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー（DP））

日本大学危機管理学部（学士（危機管理学））は，危機管理の重責を全うしようとする使命感と高度なリスクリテラシー（危機管理能力）を備えた人材を輩出すべく，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（危機管理学））における能力を修得したものに，「学士（危機管理学）」の学位を授与する。

〔DP1〕市民的素養を基礎として，高い倫理観に根差して，法学と危機管理に関する高度な学識と技能（リーガルマインド，リスクリテラシー）を運用する能力

〔DP1-D〕市民的素養・市民的教養

市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために，知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。

〔DP1-E〕学識・専門技能

専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。

〔DP2〕国際的教養人としての感性

〔DP2-A〕日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢

地球的視点で物事を多面的に捉え，異文化との交流の重要性を認識するとともに，異文化との交流を積極的かつ多面的に行い，相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。

〔DP2-B〕自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢

自己の存在意義を知り，自らを高め続けようと努力することができる。

〔DP3〕問題を適切に把握して，合理的な判断につなげられる能力

〔DP3-G〕状況把握力・判断力

自らの置かれた状況，及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し，適切に対応することができる。

〔DP3-H〕論理的思考力・批判的思考力

理路整然とした思考を備えつつ，偏りを排除するための内省をもって，問題・課題を合理的に解決することができる。

〔DP4〕問題を探求し，状況を的確に分析する能力

〔DP4-F〕探究力・課題解決力

問を設定し又は論点を特定し，それに対する答・結論・判断を合理的に導くために，論拠の収集と分析を体系的に行うとともに，オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし，検証し実行することができる。

〔DP4-I〕理解力・分析力

文章表現，数値データを適切に扱いつつ，情報の収集と取捨選択，分析と加工を有効かつ円滑に行い，課題の解決につなげることができる。

〔DP5〕新たな可能性を追求し果敢に挑戦し続ける行動力

〔DP5-J〕創造的挑戦力・達成力

コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを，自らの思考及び行動のパターンとするとともに，既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し，リスクをとりながら，結果に結び付けることができる。

〔DP6〕グローバルに行動できるコミュニケーション能力

〔DP6-K〕表現力・対話力

文章及び口頭で，自らの考えを的確に表現し，他者に過不足なく伝達することができる。

〔DP7〕多様な価値を受容し，対立を乗り越え，協働を通じて社会の安定，安全と世界の平和を希求する公共心

〔DP7-C〕他者理解・倫理観・公共心

人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み，社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。

〔DP7-L〕協働力・牽引力

集団的に課題解決を行う際に，自己の立場や責任を認識し，互いに集団の連帯を強めることができる。

〔DP8〕課題発見・仮説構築・仮説検証・課題解決・省察のプロセスを主体的に反復する思考様式

〔DP8-M〕省察力

知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに，これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。

■教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー（CP））

日本大学危機管理学部（学士（危機管理学））は，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業の認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。

リーガルマインドに裏打ちされた多角的で着実なリスクリテラシーを開発することを目的として，「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された 8 つの能力（コンピテンシー）を中心とする危機管理に不可欠な能力を養成するために，リテラシー教育，コミュニケーション教育，探究教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学修到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の 8 つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

〔CP1-D1〕市民的素養と参加

コミュニティに積極的な変化をもたらすために，知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。

〔CP1-E1〕学識・専門技能

専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。

〔CP2-A1〕グローバル感覚

地球的視点で物事を多面的に捉え，異文化との交流の重要性を認識することができる。

〔CP2-A2〕異文化適応

異文化との交流を積極的かつ多面的に行い，相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。

〔CP2-B1〕自己啓発

自己の存在意義を知り，自らを高め続ける努力を継続することができる。

〔CP3-G1〕状況把握

自らの置かれた状況，及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し，適切に対応することができる。

〔CP3-H1〕論理的思考

理路整然とした思考によって，問題・課題を合理的に解決することができる。

〔CP3-H2〕批判的思考

論理的で偏りのない思考，そのように自らの推論を内省する態度をもって，問題・課題を合理的に解決することができる。

〔CP4-F1〕探究と論拠
問を設定し又は論点を特定し，それに対する答・結論・判断を合理的に導くために，論拠の収集と分析を体系的に行うことができる。
〔CP4-F2〕課題解決
オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし，検証し実行することができる。
〔CP4-I1〕理解・分析と読解
文章表現における意味と含意を抽出し，分析及び理解することができる。
〔CP4-I2〕量的分析
数値データを適切に扱い，様々な文脈で量的問題を推論し，課題の解決につなげることができる。
〔CP4-I3〕情報分析
情報の収集と取捨選択，分析と加工を有効かつ円滑に行うことができる。
〔CP5-J1〕継続的学修基盤
コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを，自らの思考及び行動のパターンとすることができる。
〔CP5-J2〕創造的思考
既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し，一定のリスクをとりながら，結果に結び付けることができる。
〔CP6-K1〕ライティング・コミュニケーション
文章によって自らの考えを表現し，読者に過不足なく伝達することができる。
〔CP6-K2〕オーラル・コミュニケーション
自らの考え，信念を，聞き手に口頭で的確に伝達することができる。
〔CP7-C1〕倫理的思考・社会認識
人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み，社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。
〔CP7-L1〕チームワーク
集団的に課題解決を行う際に，自己の立場や責任を認識し，互いに集団の連帯を強めることができる。
〔CP8-M1〕統合的・応用的学修
知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに，これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。

■入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

日本大学危機管理学部（学士（危機管理学））は，本学の教育理念である「自主創造」，本学部の教育研究上の目的，ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）に合致する，下記のような資質豊かな人材を求める。

危機管理に不可欠な資質として，複雑な現代社会の危機に向き合いながら，その解決方法を追究する真摯な姿勢と志を持ち，高等学校とそれに準ずる教育課程において，危機管理学の探究に必要な基礎学力，柔軟な発想と幅広い視野を身に付けている人材。

上記の人材を，①意欲・経験・適性，②知識・技能，③思考力・判断力・表現力，④主体性・計画性・協働性について評価する，多様な入学者選抜試験によって受け入れる。

① 意欲・経験・適性
知識と経験とを発展させて，意欲的に課題に向き合うことができる。
② 知識・技能
知識や技能を駆使して，課題を探求することができる。
③ 思考力・判断力・表現力
課題に対して幅広い視野でその原因と対処法を考察し，そのプロセスを適切に表現することができる。
④ 主体性・計画性・協働性
主体的かつ計画的に，他者と協働しつつ，課題解決に取り組むことができる。

カリキュラムの概要

教育方針とカリキュラム

危機管理学部は，ヒューマニズムを心に刻み，グローバル化した現代社会を取り巻く様々な危機と向き合い，人々の生命や生活を守る強い信念と高い志を基に，主体的に行動し，日本の秩序の維持と国民の安全，さらには世界の平和の実現のために問題解決に向き合うリスクリテラシーを実践する人材である「危機管理パーソン」の養成を目指しています。「危機管理パーソン」に必須の要素は次の 2 つです。

・ヒューマニズムに根差した思考様式を備え，社会的危機に柔軟かつ的確に対応できる「リスクリテラシー」
・「リスクリテラシー」実践に必要な，法学を始めとした知識

危機管理学は法学，政治学，社会学，心理学などからなる複合的学問分野です。そのため，領域に基づく多様な科目群からなる重層的なカリキュラムを構成しています。

1 年次から，広い教養を身に付けるためのリベラルアーツ科目に加えて，専門の基盤科目及び基幹科目の学修が始まります。これは基盤となる法学系科目と，基幹的な危機管理系科目からなり，危機管理の基礎的素養となります。

2 年次からは，専門性を高めた展開科目が加わります。展開科目は，(1) 災害マネジメント，(2) パブリックセキュリティ，(3) グローバルセキュリティ，(4) 情報セキュリティで構成され，これらの研究領域から要望に応じて幅広く学修することで，自分の将来の志望に合わせて必要な専門性を高めるとともに，多様な知識や考え方を身につけ，骨太な危機管理のスペシャリストを養成します。

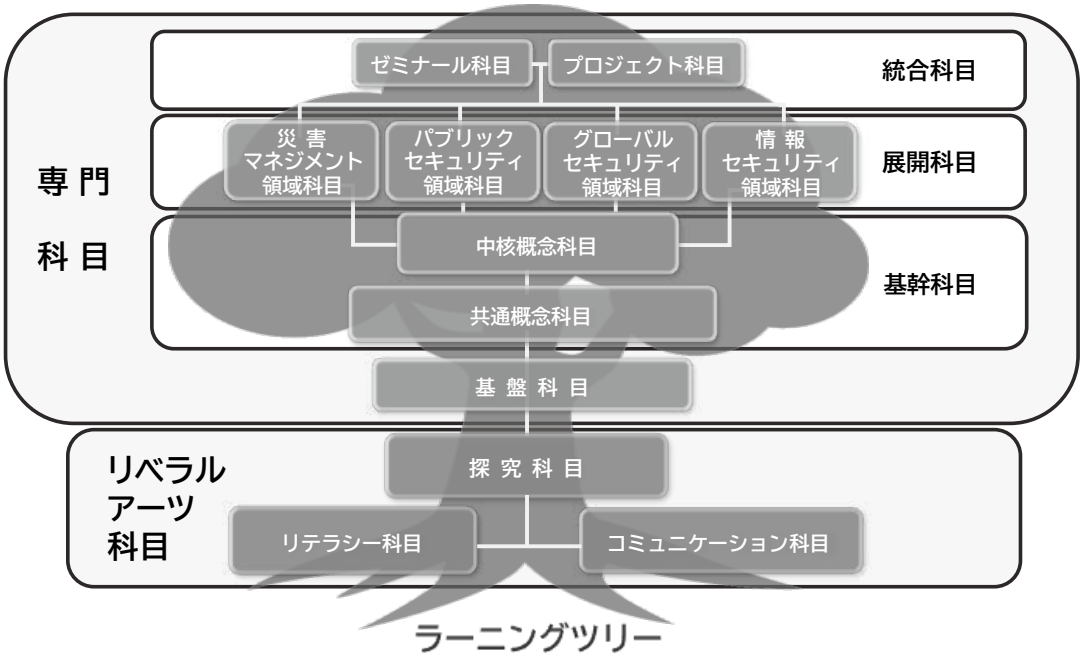


図　危機管理学部のカリキュラム・イメージ

カリキュラムの特徴

1　1年次に，必修科目「自主創造の基礎」・「ライティング・スキルズ」を設置

少人数制の演習を通じて，大学での主体的な「学び」に対応するための能力を身に付けます。

2　2年次における「リサーチ・スキルズ１・２」の必修

１年次の「自主創造の基礎」・「ライティング・スキルズ」で学んだ素養をもとに，２年次に将来のキャリアを見極めるための演習科目として，「ゼミナール（Ⅰ～Ⅳ）」への架け橋となる「リサーチ・スキルズ１・２」を設置しています。「リサーチ・スキルズ１」は今後の研究に必要となる文献研究等を実施し，「リサーチ・スキルズ２」では社会調査等を学ぶ内容であり，皆さんは２年次で異なる２つの演習科目を履修することになります。

3　1年次から４年次までの少人数制教育

１年次の「自主創造の基礎」・「ライティング・スキルズ」，２年次前学期の「リサーチ・スキルズ１」後学期の「リサーチ・スキルズ２」に加えて，３年次から４年次にかけて少人数で行う演習系科目「ゼミナール（Ⅰ～Ⅳ）」を設置することで，危機管理研究の完成まできめ細かい指導を行います。

4　科目の段階性とこれに基づく学年配当制

専門科目については，基盤科目，基幹科目，展開科目に分類し，これに基づいて学年配当を行っています。これは，皆さんの学年が上がるとともに段階的に学修を進められるようにすることを意図したものです。

5　将来を想定したキャリアを選択

２年次より，公務員を目指す学生向けの「行政キャリア」と，民間企業への就職を目指す学生向けの「企業キャリア」の２つのキャリアコースが用意されています。希望する卒業後の進路に見合った専門科目を組み合わせることで，各自のキャリアプランに合った科目を履修することができます。

6　オールハザードに即応した基幹科目の設置

基幹科目には，想定されるあらゆる危機管理（オールハザード）に対応できる要素である「インテリジェンス，セキュリティ，ロジスティクス，リスクコミュニケーション」を中核概念科目として設置し，それに加えて，コンプライアンス，ガバナンス，ダイバーシティなど，ハザード系危機のみならず様々な危機に対応した科目を置くことで，従来の大学では受講できないような数多くの専門的かつ実践的な科目を設置しています。

7　高度な専門家養成を意識した４つの研究領域

展開科目は，①災害マネジメント，②パブリックセキュリティ，③グローバルセキュリティ，④情報セキュリティの４つの研究領域で構成され，高度な専門家の養成を意識したカリキュラムとしています。

8　多様な探究科目の設置

グローバル化した現代社会で活躍するには，深い教養に根差した相互理解が必要となります。そのため，探究科目では，人文・社会・自然科学系の科目に加え，複数の学問領域を組み合わせた学際科目も設置しています。

9　実践的英語教育の実施

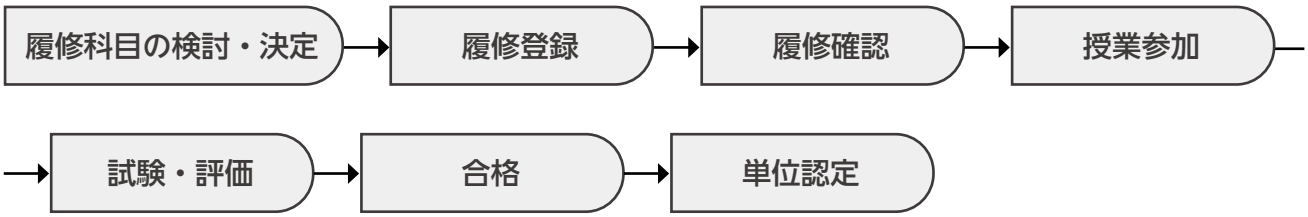
グローバル化する現代社会において，英語の運用能力は必要不可欠です。そのため，TOEIC® のスコアアップを目指す英語科目を設置しています。

10　プロジェクト科目の実施

「危機管理学」にはその学び方そのものに，現場での実践を意識した強いフィールド志向が求められます。そのため，実際にフィールドに立つことによって，実践する学問，実学としての「危機管理学」の意味を体感するためのアクティブ・ラーニングとして，プロジェクト科目を設置しています。

Ⅰ 科目の履修と手続き

大学生活で最も大切なことは，入学から卒業まで，皆さんが自分自身を管理し，責任を持つということです。授業の取り方は，高校までの時間割と異なり，大学では選択の幅がとても広くなっています。この『学部要覧』をよく読んで本学部を卒業するための条件や授業科目の単位修得までの流れを理解してください。例えば，大学で授業科目を履修し，その科目の単位が認められる流れは，次のようになります。



どのような授業を受ければよいのかを決めるには，皆さんが本学部で何を学び，卒業後にどのような職業に就きたいかということが一番大切なことですが，それと同じくらい重要なことは，本学部を卒業するために必要な条件（卒業要件）を理解しておくことです。大学生活を有意義なものにするためには，最初の 1 年間が大変重要です。1 年次のうちに，大学生活における短期的な目標や中・長期的な目標をしっかり立てて授業に臨むようにしてください。

卒業要件とは，本学部を卒業するために必要な条件のことです。各授業科目は，45時間の学修をもって1単位とされており，授業の方法に応じて必要とされる授業時間数と授業時間外の学修時間が異なります。皆さんが受講する科目も単位の科目の性質に応じて 1 ～ 2 単位が付与されます。さらに科目にはリベラルアーツ科目，専門科目，自由選択科目の区分があり，それぞれ 30 単位，84 単位，10 単位が卒業要件となります。なお，科目には必ず履修しなければならない必修科目，定められた科目群から規定の単位以上を履修する選択必修科目，定められた科目群の中から自由に履修できる選択科目があります。

1 1年次の学修計画

(1) 履修上の注意点

大学では高校までとは異なり，自分で学修計画を立てて，受講する科目を 4 月と 9 月に履修登録しなければなりません。学修計画を立てる際には，以下の点に注意が必要です。

1. 1 年間に履修登録できるのは 44 単位が上限です。
2. 以下に記載する必修科目が 1 年次の履修単位数に含まれます。
「自主創造の基礎(2単位)」,「ライティング･スキルズ(2単位)」,「英語I･Ⅱ (各1単位)」,「スポーツ理論(1単位)」,「スポーツ実技1(1単位)」,「レジリエンス(2単位)」,「リーガルシステム(2単位)」,「インテリジェンス(2単位)」,「ロジスティクス(2単位)」,「セキュリティ(2単位)」,「リスクコミュニケーション(2単位)」,「ヒューマニズム(2単位)」
これらの科目にはすでにクラス分けされているものもあります。それ以外の科目を含め,トータルで44単位を超えないように,1年間の学修計画を立ててください。

(2) 将来を意識した履修

4 年間という限られた大学生活を有意義なものにするためには，特に，最初の 1 年間が重要です。

2年次の「行政キャリア」,「企業キャリア」のいずれかのキャリア選択も，実質的に1年次後半に決定しなければなりません。そのため，入学当初から，大学生活における短期的な目標や中・長期的な目標を設定して授業に臨むようにしてください。

(3) リベラルアーツ科目

基礎教養や一般常識の修養は社会人に強く求められています。将来はもとより，在学中に専門分野を学ぶ上でも，ごく基礎的な知識や異なる学問体系からの情報は有益です。そして様々な学問体系に触れ，多様な価値観や探究心をもつことは，視野を広げ，多元的な思考能力を養い，柔軟な発想を生むためにも有効です。そのため本学部では，人文・社会・自然科学の科目に加え，複数の学問領域を組み合わせた学際科目などをバランスよく設置し，教養豊かな人材を養成していきます。

(4) 防災士について

本学部にて1年次及び2年次に開講される以下8科目の修得と，ほか5つの研修講目に関するレポートを提出することにより，特定非営利活動法人日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」の受験資格を取得できます。

受験資格取得後,「防災士資格取得試験」に合格し，全国の自治体，消防本部，日本赤十字社等の公的機関又はそれに準ずる団体が主催する「救命救急講習」を受講することで，最短で3年次に修了証を取得することができます。詳細は教学サポート課に問い合わせてください。

- 感染症対策論
- ボランティア論
- 災害情報論
- レジリエンス
- 消防救急論
- 災害対策論
- 自然災害論
- 地域防災論

※「救命救急講習」について，自動車運転免許等取得者は免除されます。

※令和9年度以降は防災士資格取得の取扱いが大幅に変更となる可能性があります。
詳細については，教学サポート課にお問い合わせください。

(5) プロジェクト科目

「危機管理学」にはその学び方そのものに，現場での実践を意識した強いフィールド志向が求められます。

フィールドワークが重要となるのは，オールハザード･アプローチに基づく4つの領域においても共通となっています。皆さんは，実際にフィールドに立つことによって，実践する学問，実学としての「危機管理学」

の意味を体感し，それが決して「他人事」ではなく「自分事」であることに気づかされるでしょう。このような狙いにより1年次からアクティブ・ラーニングを推し進めた，プロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）を中心概念とする「プロジェクト」科目群を設置しています。

2 2年次以降の学修計画

(1) 履修モデルの活用

本学部では，各自の希望進路（キャリアプラン）に基づき，どの科目をどのような順序で履修し知識を積み上げていくのかについて，具体的指針を示す意味で「履修モデル」を策定しています。これに基づき科目を履修することで，思い描く将来像に則して，必要とされる知識や能力を効率よく修得することができます。履修モデルは，行政・企業の2つのキャリアプランを念頭に置きつつ，危機管理学の4つの領域ごとに示しています。すべての学生は，1年次配当科目である「レジリエンス」，「自主創造の基礎」，「ライティング・スキルズ」における多角的なキャリア指導を参考として，行政キャリア，企業キャリアのいずれかを選択します。その後，履修モデルを手掛かりに，各領域に配当される科目及び行政キャリア又は企業キャリアの区分に従って指定される一定の選択科目を履修することになります。

(2)「行政キャリア」と「企業キャリア」の選択

行政キャリアとは，将来，政府や自治体などの業務として危機管理を担当することを念頭に置き，必要な知識とスキルを身に付けるためのキャリアプランのことです。企業キャリアとは，将来，民間企業の業務として危機管理を担当することを念頭に置き，必要な知識とスキルを身に付けるためのキャリアプランのことです。危機管理の対象としての「危機」はみる立場が異なったとしても実体としては一つであり，行政官と民間人とは，それに対する認識を共有し連携して対処しなければなりません。したがって，展開科目に主に配置される危機管理系科目の履修内容は，行政，企業の各キャリアで共有している部分が多くなっています。一方，行政官と民間人とでは，その属する組織の特性と法的な基盤が異なり，その組織の一員としての役割も変わってくるため，行政キャリアにおいては公法科目に，企業キャリアでは私法科目にそれぞれ重点が置かれることになります。

(3) 演習系科目の選択

本学部では法学や危機管理の理論だけではなく，実践的な演習科目を配置することにより，将来的に危機管理の現場において，コーディネーターとして危機をマネジメントする調整能力や交渉能力を発揮できる人材の養成を目指します。

2年次前学期の「リサーチ・スキルズ1」及び後学期の「リサーチ・スキルズ2」において，危機管理研究のための基礎力を高めるための少人数による演習が必修科目として設置されます。さらに，自分の目標に合わせて，3 年次前学期からのゼミナール（Ⅰ～Ⅳ）を選択する必要があります。「ゼミナールⅠ～Ⅳ」では最終的に，卒業論文を作成します。そのため，専門的な危機管理に関する研究テーマを設定し，学生と教員が密接に関わりながら研究を進めることになります。

(4) リサーチ・スキルズ1・2とは？

危機管理に関する多様な研究の中から，学生が自分の研究テーマを考えるために必要な，危機管理に関する基礎的な視座を学修するのが「リサーチ・スキルズ1」であり，「リサーチ・スキルズ2」となります。「リサーチ・スキルズ1」は今後の研究に必要となる文献研究等を実施し，「リサーチ・スキルズ2」では社会調査等を学ぶ内容となり，この学修を通じて3年次以降のゼミナール選択へと繋がっていくこととなります。

(5) ゼミナール（Ⅰ〜Ⅳ）とは?

危機管理に関する研究分野や専攻したい分野ごとに，指導教員の助言を受けながら，調査や研究を続け，理論分析したものを卒業論文の形にまとめ上げるのが，ゼミナールです。講義形式の授業では，教員から学生に知識の伝達を主要な目的のひとつとしているために，教員が話すことが多くなりますが，ゼミナールでは，事前の準備はもちろんのこと学生が主体となり授業に参加することになります。ゼミナールの成果である卒業論文をより良いものにするには，特に，学生自体の研究への真摯な取り組みが欠かせません。ゼミナールは 3 年次前学期以降に履修することになります。選抜を行って2年次後学期末には所属するゼミナールが決まります。

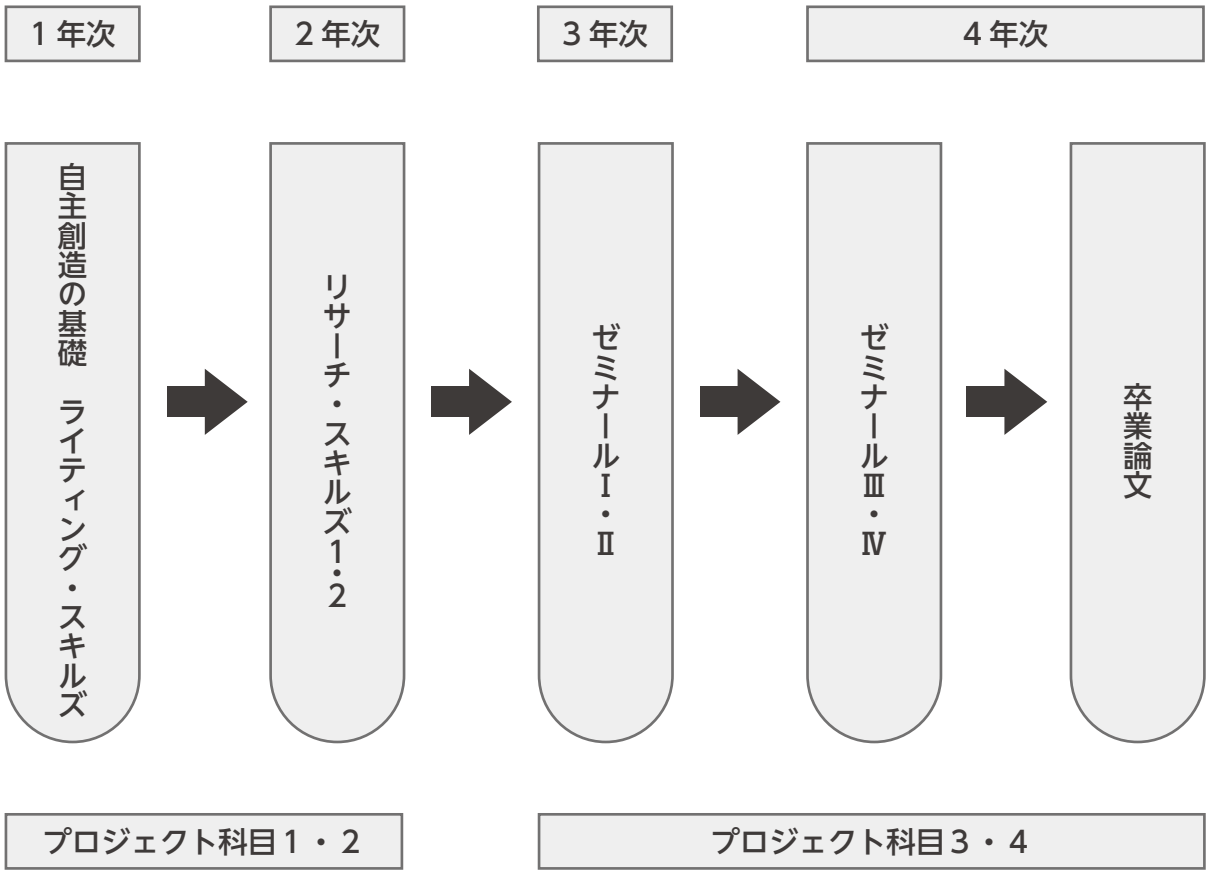


図　演習系科目のイメージ図

3 大学4年間の流れ

1年生

4月　開講式　入学式　新入生ガイダンス　健康診断　GPS アカデミックテスト　前学期授業開始
　　履修登録手続
7月　前学期末試験
　　夏季休業
9月　前学期成績発表　後学期授業開始　履修登録手続
10月　三茶祭
　　冬季休業
1月　「キャリア」選択届　後学期末試験
3月　後学期成績発表

2年生

4月　ガイダンス　健康診断　前学期授業開始　履修登録手続
7月　前学期末試験
　　夏季休業
9月　前学期成績発表　後学期授業開始　履修登録手続
10月　三茶祭
　　冬季休業
1月　後学期末試験　ゼミナール志望届提出
3月　後学期成績発表

3年生

4月　ガイダンス　健康診断　前学期授業開始　履修登録手続
7月　前学期末試験
　　夏季休業
9月　前学期成績発表　後学期授業開始　履修登録手続
10月　三茶祭
　　冬季休業
1月　後学期末試験
3月　後学期成績発表

4年生

4月　ガイダンス　健康診断　前学期授業開始　履修登録手続
7月　前学期末試験

夏季休業

9月　前学期成績発表　後学期授業開始　履修登録手続
10月　三茶祭
12月　卒業ガイダンス

冬季休業

1月　後学期末試験　卒業論文提出
2月　卒業成績発表
3月　卒業式・学位記伝達式

4 授業時間

1時限	2時限	昼休憩	3時限	4時限	5時限
9:00 ～ 10:40	10:55 ～ 12:35	12:35 ～ 13:25	13:25 ～ 15:05	15:20 ～ 17:00	17:15 ～ 18:55

授業時間　月曜～金曜日　1時限（9:00）～5時限（18:55）
　　土曜日　1時限（9:00）～2時限（12:35）

※授業最終回の50分授業回においても開始時刻は上記のとおりです。

Ⅱ 授業科目の概要と履修上の注意

1 授業科目の分類

授業科目を科目の体系から分類すると，次のようになります。

科目区分			科目区分の概要
リベラルアーツ科目	探究科目		現代社会にある危機について考えるとき，人類がこれまでに経験した様々な危機に対して向き合った「記録」が必要となります。探究科目として設置されている科目は，人間が行った様々な知的活動に基づいて，現代社会を生き抜くために必要な知識や概念を，体系に従って整理したものです。それらは，自分の内面と向き合うとき，複数の人間がそれぞれの価値をぶつけ合うとき，さらに人間を取り巻く自然の世界と対話するときの「記録」です。これらを幅広く学ぶため，本学部では人文科学，社会科学，自然科学に大別される科目及び複数の学問領域を組み合わせた学際科目を設置しています。
	リテラシー科目	全学共通教育科目	日本大学において全学的に導入した初年次教育科目です。本学の教育理念・目的である卓越した想像力・判断力・コミュニケーション力を持つ，人間力豊かな自主創造型パーソン育成のための「自主創造の基礎」や「日本を考える」，「データサイエンスの世界」の科目を設置しています。
		学部独自科目	危機管理学部独自のリテラシー科目です。全学統一科目で学んだ内容を踏まえ，さらに自主性及び創造性を伸ばすための発展的なプログラムを実践します。「アカデミック・ライティングの基礎」，「コンピュータ・情報リテラシー」，「ライティング・スキルズ」，「リサーチ・スキルズ1・2」の科目を設置しています。
	コミュニケーション科目	スポーツ科目	「スポーツ実技1」では，基礎体力測定を実施し，体力の現状を把握します。また，様々なスポーツを通して，生涯にわたってスポーツを実践する価値を理解していきます。「スポーツ理論」では，スポーツと健康に関わる科学的な理論を学修します。授業を通して，健康的な生活に対する自覚と認識を持つことができるようになることを目指します。
		英語科目	将来必要となる実践的英語力を身に付け，国際的視野から異文化を理解し，今日の社会的要請に則した「使える英語」力を強化するための科目を設置しています。能力別クラス構成の実施と，大学4年間を通じて語学を継続的に学修する科目を設置しています。
		拡張外国語科目	

科目区分			科目区分の概要
専門科目	基盤科目		社会において手続的及び実質的公正性を確保し，合意形成する仕組みと意義を学ぶ，危機管理学における基盤となる専門科目群です。リーガルマインドとリスクリテラシーを併せ持った人材を育成するための基礎的で基幹的な法学系と，危機管理系の科目を設置しています。
	基幹科目	中核概念科目	どのような危機であっても，その理解と対処のために必要な汎用的機能である，「インテリジェンス」，「セキュリティ」，「ロジスティクス」，「リスクコミュニケーション」について理解するための専門科目群です。
		共通概念科目	危機管理に関する専門教育において重視される，人々の生命と尊厳を守り，自由や人権を擁護し，互いを理解し尊重する社会を実現するための思考様式，行動様式（マインドセット）を涵養する科目群です。これには，「ヒューマニズム」のほか，「ダイバーシティ論」「プライバシー論」「ボランティア論」「哲学・現代思想（フィロソフィ）」「PR論（パブリックリレーションズ）」等の科目を配置しています。
	展開科目	災害マネジメント領域	この領域が対象とするのは，地震・津波・台風などによる自然災害，あるいは大規模事故や感染症対策など，広く災害と呼ばれる現象に対する国，地方自治体，企業または個人の対応と備えです。こうした各主体の取り組みについて，法制度や各主体の組織及び組織間関係，地域コミュニティ，災害情報と災害心理などの多角的な観点から理解を深め，具体的解決策を考えるのに必要な素養を身につけるための科目を設置しています。
		パブリックセキュリティ領域	犯罪やテロリズム等によって，人びとに深刻な被害が生じています。このような事態を回避，予防してより安全な社会を構築することは社会公共の重要な課題です。こうした課題に取り組むために，この領域では，とくに法制度と政策（対策）の両面から，理論と実践とを関連づけながら総合的に学べるように，たとえば社会安全政策やテロリズム，また国民保護や行政マネジメントなどに関する科目を配置しています。
		グローバルセキュリティ領域	日本を取り巻く今日の国際環境から発生する政治的，経済的，軍事的な紛争の予防や解決，国際テロリズムや感染症をはじめとする多様な危機や脅威への対応について，さらには国際的な取組が求められる人権問題や，難民問題，地球環境問題などの普遍的課題について，広く多角的な視野に立って学修します。国際法を基盤とし，法学，国際政治学，国際安全保障研究に関する幅広い知識と判断力を身に付けるための科目を配置しています。
		情報セキュリティ領域	情報システムは今や社会インフラを支える重要な要素であり，これらによるサービスの安定した供給には情報セキュリティの管理が前提となります。本領域では，情報セキュリティの脅威となるサイバー攻撃，情報漏洩，サービス妨害等の犯罪からシステム障害，企業間格差，デジタルデバイド等の社会的な諸問題まで取り上げ，これらを分析・対処する能力を培います。この領域では技術と法律に関する科目を基礎から実践的な範囲に亘って配置しています。
	統合科目	プロジェクト科目	プロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）を中心概念としてフィールドワークを介して社会における危機の実相をとらえながら，危機と向き合う姿勢を養います。
		ゼミナール科目	少人数制教育の演習としてゼミナール（I～Ⅳ）を設置し，専門性の高い教育指導を展開します。

なお，授業科目を卒業の要件から分類すると，次の3種類になります。

必 修 科 目	必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	選択した研究領域を学修する上で修得しなければならない科目
選 択 科 目	各自の進路や興味に合わせて自由に選択できる科目

2 各学年の最高履修単位数

第１年次 44単位

第２年次 44単位

第３年次 44単位

第４年次 44単位

●各年次の最高履修単位数は**44単位**です。

● 2 年次以降の最高履修単位数には「再履修科目」の単位数も含まれることに注意してください。再履修科目とは，過年度の成績評価で単位を認定されなかった科目の中で，次年度以降に再度履修する科目のことです。

●前年度に 36 単位以上を修得し，学年 GPA が 3.60 以上の場合，4 単位を限度として最高履修単位数に加えることができます。

3 履修登録

履修登録は，授業を受講し，成績評価を受けて単位を修得するために最も重要な手続きです。履修登録が完了していないと，授業に出席し，試験に合格しても単位は修得できません。履修登録は定められた期間内に必ず行ってください。

本学部では，学期ごとに履修登録（前学期は 4 月，後学期は 9 月）を行います。登録は学内情報システムで行います。本学部要覧をはじめ，ガイダンス時に配布される資料や説明をよく理解し，履修登録を行ってください。

病気など，やむを得ない事由で所定の期間内に手続きができない場合は，教学サポート課に相談してください。

履修登録の手続きの流れ

履修の登録は，次の手続きを経て完了します。

1. 資料の受領

ガイダンス時に「時間割表」等を配布します。

↓

2. 履修計画

「時間割表」，「シラバス」を基に検討し，履修相談を活用し，履修計画を立てます。
2 年次以降は，単位修得状況にも注意してください。

↓

3. 科目履修登録手続

指定された期間内に手続きします。

↓

4. 履修登録確認

届け出た科目が正しく登録されているか確認してください。

↓

5. 登録完了

履修登録上の注意点

1. 科目の学年配当について

授業科目にはすべて配当学年が定められていますので，必ずその指定に従ってください。現在の学年より上に配当されている科目を履修し試験を受けても，単位は付与されませんので，注意してください。なお，配当年次は履修開始年次を意味し，例えば 2 年次配当科目は 2 ～ 4 年次に履修可能です。

2. 履修条件のある科目の注意点

次の①～③に該当する授業科目は，必ずその指示に従ってください。また，該当する科目については，「学部要覧」，「時間割表」，「シラバス」，その他配布物を参照してください。

①クラス指定

1 年次設置の「自主創造の基礎」，「ライティング・スキルズ」，外国語科目など，クラス指定している科目があります。また，2 年次以降でも必修科目などで一部クラス指定しているものもあります。これは，その授業科目の形態・方法，学修効果の向上などの配慮によるものですので，指定されたクラスの時間帯で履修してください。

②定員制の授業科目

履修に定員制を設けている科目があります。履修の受付については，ガイダンス時に説明します。

③履修条件，先修条件がある科目

開講科目のうち，一部の科目で履修条件や先修条件が設定されています。これはある科目を履修するためには，事前に別の科目を履修済み又は修得していなければならないなどの条件があるというものです。詳細は「シラバス」の履修条件を参照してください。

3. その他の留意点

① 手続期間終了後の科目の追加や変更はできません。
② 既に単位を修得した科目を再度履修することはできません。
③ 同一科目を複数履修することはできません。
④ 時間割上の同一時限に設定されている科目を同時に履修することはできません。
⑤ 履修登録に誤りがあった場合，その訂正は指定された期間内に行ってください。

4 履修中止

履修中止制度は，履修登録が完了した科目の授業を受けた結果，自分が勉強したい内容とは異なる場合や授業についていけるだけの知識が不足していた場合など，以後の授業を受ける理由に乏しい場合に，当該科目の履修を中止できる制度です。履修の中止をする場合は，所定の期間内に手続きをしてください。この手続きを行わずに，試験等を受けなかった場合，不合格科目（D または E 評価）として扱われ，GPA を下げることになります。詳細は，「GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度」（P.21）を参照してください。

なお，履修中止をした場合，中止した科目分を他の科目に履修し直すことはできませんのでご注意ください。

5 成績評価と定期試験及び不正行為

成績評価の方法

各授業科目の評価方法は異なります。評価方法は，「授業参加度」「リアクション・ペーパー」「レポート」「ミニ・テスト」「授業内テスト」「定期試験」「実技・パフォーマンス」「評題」「ポートフォリオ」等となります。なおゼミナールなど少人数の演習授業では口頭による発表報告なども評価方法としてあり得ます。試験の実施方法については，授業時に科目担当教員から説明を受けてください。また「シラバス」を確認してください。

成績評価

学業成績の判定は，S・A・B・C・D・E・P・N をもって表し，S・A・B・C を合格とし，D と E を不合格とします。合格した授業科目については，所定の単位数が与えられます。また，修得単位として認定された科目は N（認定）と表し所定の単位数が与えられます。履修中止手続きをした科目は P と表します。これらを係数化して表したものが後述する GPA による評価となります。その他，成績評価に疑問がある場合には成績発表後の定められた期間内に，通知するフォームにより申し出てください。

定期試験

定期試験を実施する場合は，以下のとおりになります。

種類	実施期間	対象科目
前学期末試験	7 月下旬～ 8 月上旬	前学期科目（4 月～ 7 月を授業期間とする科目）が対象
後学期末試験	1 月下旬～ 2 月上旬	後学期科目（9 月～翌 1 月を授業期間とする科目）が対象

追試験

追試験は，病気などやむを得ない理由のために定期試験を受験できなかった学生に対して行われます。追試験の申し込みは，定められた期間内に「試験欠席届」（所定用紙）に欠席の理由を証明する書類を添えて，教学サポート課窓口へ提出してください。

前学期末試験の追試験は原則として 9 月中旬に，後学期末試験の追試験は 2 月中旬にそれぞれ実施されます。
追試験の申込みは，次のいずれかに該当する場合に受け付けます。

- 病気，交通事故等で通院又は入院を必要とした場合
- 親族の死亡により葬儀に参列した場合
- 公共交通機関の事故等による場合
- その他のやむを得ない事由による場合

ただし，受験の可否は「試験欠席届」と欠席の事由を証明する書類に基づき，審査します。

定期試験受験上の注意

①履修登録した科目のみ受験ができます。
②受験する授業科目については，事前に掲示される試験時間割により試験室を確認してください。
③学生証を，机上の通路側の見やすい位置に写真を表にして提示してください。学生証を忘れた場合は，事前に教学サポート課窓口で所定の手続きをしてください。
④試験室では，試験監督者の指示に従ってください。
⑤試験開始後 20 分以上遅刻したものは，受験することができません。途中退場は，試験開始 30 分後から認めます。なお，答案は退室時に必ず提出してください。
⑥答案には，学部，学年，氏名，学生番号，試験科目及び担当教員名をはっきりと記入してください。記入のない場合は，無効答案として扱われることがあります。
⑦不正行為を行った者は，その試験期間中の試験は全て無効となり，学則により，退学・停学・受験停止などの処分を受ける場合があります。
⑧携帯電話・モバイルツールの使用は認めません。使用した場合は不正行為とみなされます。

生成 AI について

生成 AI のみによって生成されたものを学生独自の成果物とは認めないという日本大学の基本方針の下，本キャンパスでは，その趣旨を確認して「生成 AI で生成された文章を，原文のままもしくは原文に文体や構成の修正を加えて使用したに止まり，実質的に自己の著作としての内実を有しない提出物については，採点対象としない。」以上のように取り扱います。

不正行為の取扱い

本キャンパスでは，定期試験，授業内試験に加えてレポート課題やリアクションペーパー等，授業評価として扱われるものにおいて，不正行為を行った場合は懲戒処分の対象となります。これには他人のレポートの盗用も含まれます。不正行為とみなされた場合，一部指定の科目を除き，当該学期の全ての科目が無効となることや停学，退学等の処分が下されることもありますので，このような行為は行わないでください。

成績評価基準

	素点	評価	係数	基準	GPA 計算
合　格	100 ～ 90 点	S	4	総合到達目標に対して極めて優秀な成果を収めた科目	対象
	89 ～ 80 点	A	3	総合到達目標に対して優秀な成果を収めた科目	
	79 ～ 70 点	B	2	総合到達目標に対して充分な成果を収めた科目	
	69 ～ 60 点	C	1	総合到達目標に対して最低限の成果を収めた科目	
不合格	0 ～ 59 点	D	0	総合到達目標に達しなかった科目	
	―	E	0	成績評価を判定するに充分な指標を示せなかった科目	
	―	P	―	履修中止手続をとった科目	対象外
	―	N	―	認定された科目	

6 GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度

GPA とは

GPA は，授業ごとの成績を判定基準に従い評価し，各成績評価段階に係数（Grade Point）を付与して，1 単位当たりの平均値 (Grade Point Average) を算出する方法です。

GPA により，自分の学修の実績を把握することができます。また，GPA は奨学生の選抜，派遣交換留学生の決定などの判定材料になります。近年は企業の採用にも GPA を用いる傾向にあります。したがって科目履修に当たっては GPA を考慮し，綿密な学修計画を立てる必要があります。

GPA の計算式

① GPA は，小数点以下第 3 位を四捨五入し，小数点以下第 2 位まで表示します。
② 不合格と判定された科目（D及びE評価）を次年度以降再履修した場合，累積 GPA 算出には最新の成績評価を利用します。
③ 「成績表」の GPA は，年度ごとの数値及び在籍期間中累積の平均値が記載されます。
④ 成績証明書の GPA は，在籍期間中累積の平均値が記載されます。

$$\frac{(4 \times \text{S の修得単位数}) + (3 \times \text{A の修得単位数}) + (2 \times \text{B の修得単位数}) + (1 \times \text{C の修得単位数})}{\text{総履修単位数（S + A + B + C + D + E）}}$$

※分母には P（履修中止科目），N（認定科目）は含みません。

7 その他

休講・補講

① 授業が休講となるときには，日時・科目・担当教員などを教学サポート課前の休講掲示板に提示します。
② 授業開始時刻から 30 分経過しても教室に連絡がない場合は，CANVAS LMS，休講掲示板及びポータルサイトを確認の上，講師室に問い合わせてください。
③ 休講となった授業は，原則として，補講を行います。

授業の欠席について

本学部では，下記理由によるものを除き，所定の届はありません。

病気や忌引等で授業を欠席したときは，直接担当教員に伝えてください。ただし，欠席の取扱いは，担当教員の判断に任されています。

なお，入院等により，欠席が長期にわたる場合には教学サポート課に相談してください。

種類	欠席理由
競技部所属学生用	日本大学競技部所属の学生が競技会や強化合宿※などのための欠席事由と期間を届け出るもの（※強化合宿は自身の部活動の合宿は含まない）
体育関連行事用	日本大学競技部所属の学生が上記以外の事由でやむを得ず欠席する場合の事由と期間を届け出るもの
学校感染症罹患用	学校保健安全法施行規則により定められている感染症の罹患と加療期間を証明するもの
就職活動用	学生が企業等の採用試験等のための，その事由を証明する書類を添えて欠席を届け出るもの

自然災害などによる授業措置

台風，大雪，地震などにより，東急田園都市線が運休又は運休を計画している場合，以下の基準により休講とすることがあります。なお，休講の判断には，運行状況や天候等も勘案します。また，措置の内容はポータルサイト（UNIPA）又はホームページでお知らせします。

運休時刻	授業の取扱い
当日午前6時の時点で運休	第1･2時限の授業を休講
当日午前10時の時点で運休	第3時限以降の授業を休講

証明書発行手数料・その他

就職活動，留学，その他の目的で各種の証明書が求められる場合があります。本学所定の証明書としては以下のものがあります。

なお，就職活動などに使用する「卒業見込証明書」を取得するためには，4年次進級時点で 88 単位を修得している必要があります。

各種証明書発行については，1号館1階事務室の証明書自動発行機で発行できます。

また，ホームページから郵送申請の手続きにて発行することも可能です。

種類		摘要	金額
証明書	在学証明書	1 通	100 円
	成績証明書	1 通	200 円
	卒業証明書	1 通	200 円
	卒業見込証明書	1 通	100 円
	健康診断証明書	1 通	100 円
	英文証明書	1 通	600 円
	英文証明書（コピー）	1 通	200 円
	学生証再発行	1 回	1,000 円

学籍・学生証・授業料等について

皆さんが日本大学に入学すると同時に本学部に「学籍」が発生します。学籍には，危機管理学部に入学してから卒業までの履歴や成績など，在学中の重要な情報が保存され，卒業後も大切に保管されます。在学中だけでなく，卒業後の証明書の発行等はこの情報を基に作成されます。

① 学生証

学生証は，皆さんが日本大学の学生として本学に在学していることを証明するもので，表面の個人を特定する情報が記載されたカードと学生証裏面シールとで構成されています。学生証の個人を特定する情報が記載されたカードは，入学時に交付されたものを卒業まで使用します。ただし，学籍シールは各年度のはじめ，あるいは通学経路が変わった場合に貼りかえる必要があります。詳しくは P.35 を参照してください。

1）学生証は，校舎への入構，授業の出席管理，定期試験の受験，通学定期券の購入などの際に必要なものですので，在学中は常に携帯してください。
2）学生証を紛失あるいは破損した際には，速やかに教学サポート課に申し出て，その指示に従って再発行等の手続きを行ってください。
3）紛失した学生証が見付かった場合には，速やかに教学サポート課に申し出てください。
4）卒業や退学などの際には，学生証を大学に返還してください。

② 休学と復学

病気その他やむを得ない事由のため，引き続き 3 か月以上修学できない状態の者は，学部指定の「休学願」にその事実を証明する書類を添え，保証人連署で教学サポート課を通じて，学部長に願い出て，その許可を得て原則として入学年度を除き，休学することができます。

1）入学年度の後学期については，修学困難な事由の場合は休学を認めることもあります。
2）休学期間は，1 学期又は 1 年とし，通算して在学年数の半数を超えることはできません。
3）休学期間は在学年数に算入されますが，修業年数には算入されません。
4）休学中の学費の徴収は次のとおりです。

願出期日と休学期間	学費等の取り扱い
5 月 31 日までにその学年の休学を願い出た場合	前学期及び後学期の授業料，施設設備資金，後援会費，前学期の日本大学校友会準会員の年会費は徴収しません。ただし，前学期及び後学期の休学在籍料としてそれぞれ 6 万円を徴収します。
6 月 1 日から 11 月 30 日までの間に，その学年の休学を願い出た場合	後学期の授業料．施設設備資金，後学期の後援会費の年会費は徴収しません。ただし，後学期の休学在籍料として 6 万円を徴収します。
5 月 31 日までに前学期の休学を願い出た場合	前学期の授業料，施設設備資金，後援会費，日本大学校友会準会員の年会費は徴収しません。 ただし，前学期の休学在籍料として 6 万円を徴収します。
11 月 30 日までに後学期の休学を願い出た場合	後学期の授業料，施設設備資金，後援会費は徴収しません。 ただし，後学期の休学在籍料として 6 万円を徴収します。

5）休学者が再び通学する場合には，学部指定の「復学願」を保証人連署で教学サポート課を通じて学部長に願い出て，その許可を得て復学することができます。復学は学期の始めとなります。
6）「休学願」「復学願」は教学サポート課で用意しています。

③ 退学と除籍

病気その他やむを得ない事由のため，あるいは学費等の未納や欠席が長期にわたる場合は退学あるいは除籍になります。

1）病気その他やむを得ない事由のため，自らの意志で退学しようとする者は，学部指定の「退学願」に学生証とその事実を証明する書類を添え，保証人連署で教学サポート課を通じて学部長に願い出て，その許可を得て退学することができます。
2）故なくして 3 か月以上学費の納付を怠った者，あるいは故なくして欠席が長期にわたる者を，大学は本人の意志にかかわらず除籍とすることがあります。

④ 学費

本学部では，学費・諸会費の納入は口座振替となります。前学期の振替は 4 月 27 日，後学期の振替は 9 月 27 日を予定しております。

口座振替予定日　前学期分　4 月 27 日
後学期分　9 月 27 日
※振替予定日が金融機関休業日の場合，振替日は翌営業日になります。

（お問合せ先）　管理マネジメント課（03-6453-1700）

日本大学の海外留学制度

学部の留学制度とは別に，大学全体の交換・派遣留学及び短期海外研修制度も充実しています。
詳しくは，大学ホームページ「留学・国際交流」を御覧ください。
https://www.nihon-u.ac.jp/international/

また，各プログラムの募集開始や説明会の開催などの最新のお知らせについては，大学ホームページ「トピックス」の留学・国際交流を御覧ください。
https://www.nihon-u.ac.jp/topics/international/

日本大学交換・派遣留学

交換留学先	派遣先大学名	募集時期	出発時期
英語圏	【アジア】（中国）香港教育大学，（シンガポール）ナンヤン理工大学（韓国）慶熙大学校，延世大学校，高麗大学校 【北米】（アメリカ）アラバマ大学バーミングハム，ウエスト・アラバマ大学，ウェスタンミシガン大学，エリザベスタウン・カレッジ，ケント州立大学，モンタナ州立大学ビリングス校，ワシントン州立大学（カナダ）トロント大学 【ヨーロッパ】（アイルランド）メイヌース大学，（イギリス）ロンドン大学 SOAS，（オーストリア）クレムス応用科学大学，（スイス）北西スイス応用科学・芸術大学，（スウェーデン）ストックホルム大学，（フィンランド）LUT 大学 【大洋州】（オーストラリア）ニューカッスル大学 ※交換留学以外の派遣留学：（アメリカ）ウェスタンミシガン大学	前年 10 月	8 月
韓国語圏	（韓国）慶熙大学校，延世大学校，高麗大学校	前年 10 月	8 月
中国語圏	（中国）北京大学，山東大学，鄭州大学 （台湾）国立台湾大学，国立中興大学，国立政治大学	前年 12 月～1 月	9 月
ドイツ語圏	（ドイツ）ヨハネス・グーテンベルク大学，ベルリン自由大学	前年 12 月～1 月	10 月
フランス語圏	（フランス）アヴィニョン大学	前年 12 月～1 月	9 月

日本大学短期海外研修

プログラム名	研修内容	募集時期	派遣時期
（イギリス） ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジサマースクール	①英語プレゼンテーション・ディスカッション ②ケンブリッジを事例とする専門科目課外アクティビティー	11 月及び翌年 4 月	8 月（3 週間）
（オーストラリア） オーストラリア・ニューカッスルグローバル研修 ※年度内 2 回実施	①特別講義 ②実地研修 ③語学研修 語学研修はニューカッスル大学付属語学センターで受講	①5 月 ②9 月	①8 月下旬～9 月上旬（3 週間） ②翌年 3 月（4 週間）

認定留学制度
https://www.nihon-u.ac.jp/international/certified/
※上記はいずれも現時点での最新の実績です。留学を希望する学生は早期に情報収集してください。

卒業に必要な履修科目と単位数

危機管理学部では卒業単位を124単位以上とし，年次ごとの履修上限を44単位と定めています。積み上げ式による最適な学修効果を発揮できるようセメスターによる科目配置をしています。

1　リベラルアーツ科目

科目区分＼配当年次	1年次	2年次	卒業に必要な単位数
探究科目	（哲学・思想分野）人文科学探究1②人文科学探究2②（文学・言語分野）人文科学探究3②人文科学探究4② （歴史・文化分野）人文科学探究5②人文科学探究6② （広域分野）人文科学探究7②人文科学探究8②人文科学探究9② （社会・空間分野）社会科学探究1②社会科学探究2②（法律・政治分野）社会科学探究3②社会科学探究4② （経済・経営分野）社会科学探究5②社会科学探究6② （広域分野）社会科学探究7②社会科学探究8②　社会科学探究9② （生命・地球分野）自然科学探究1②自然科学探究2②（環境・共生分野）自然科学探究3②自然科学探究4② （数理・情報・技術分野）自然科学探究5②自然科学探究6② （広域分野）自然科学探究7②自然科学探究8②自然科学探究9②	（心理・行動分野）学際探究1② 学際探究2② （スポーツ・生活分野）学際探究 3②学際探究4② （関係分野）学際探究5②学際 探究6②	14単位 ※1年次は10単位を履修上限とする。

科目区分＼配当年次	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業に必要な単位数	
リテラシー科目	◎自主創造の基礎 ② 日本を考える②※1 データサイエンスの世界②※1				必修8単位 選択2単位	計 10単位
	◎ライティング・スキルズ② アカデミック・ライティングの基礎② コンピュータ・情報リテラシー①	◎リサーチ・スキルズ1② ◎リサーチ・スキルズ2②				

科目区分＼配当年次		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業に必要な単位数	
コミュニケーション科目	外国語科目	○英語Ⅰ①　○英語Ⅱ①	○英語Ⅲ①　○英語Ⅳ①			4単位	計 6単位
	外国語科目（留学生のみ）	○日本語Ⅰ①　○日本語Ⅱ①	○日本語Ⅲ①　○日本語Ⅳ①				
	拡張外国語科目	中国語Ⅰ①　中国語Ⅱ① 韓国語Ⅰ①　韓国語Ⅱ① 英語演習1①　英語演習2① 英語演習3①　英語演習4①	中国語Ⅲ①　中国語Ⅳ① 韓国語Ⅲ①　韓国語Ⅳ①				
	スポーツ科目	◎スポーツ実技1① ◎スポーツ理論①				2単位	

2　専門科目

科目区分＼配当年次		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業に必要な単位数	
基盤科目		◎レジリエンス② ◎リーガルシステム② ○リスクマネジメント② ○市民法システムⅠ② ○行政法システム② ○国家ガバナンスⅠ②	○国家ガバナンスⅡ② ○市民法システムⅡ② ○企業法システム② ○国際法システム② ○政治システム② ○刑事司法システム② ○企業コンプライアンス② ○家族法システム②			必修4単位 選択必修16単位	計 20 単位
基幹科目	中核概念科目	◎インテリジェンス② ◎ロジスティクス② ◎セキュリティ② ◎リスクコミュニケーション②				必修8単位	
	共通概念科目	◎ヒューマニズム② ○イノベーション論② ○ボランティア論② ○エコロジー② ○社会心理学（ソーシャルサイコロジー）②	○グローバル文化論② ○ネットワーク論② ○ダイバーシティ論② ○グローバルガバナンス② ○ PR 論(パブリックリレーションズ）② ○プライバシー論② ○哲学・現代思想（フィロソフィ）②			必修2単位 選択必修10単位	計 20 単位
展開科目	災害マネジメント領域科目		○自然災害論② ○災害対策論② 地域防災論② 災害情報論②	事業継続論（BCP・BCM）② 災害マネジメント特殊研究1② 災害マネジメント特殊研究2② 災害マネジメント特殊研究3② 災害マネジメント特殊研究4②		選択必修10単位 選択22単位	計 32 単位
	パブリックセキュリティ領域科目		○社会安全政策1② ○こどもインクルージョン（行政マネジメント）② テロリズム論② 社会安全政策2②	国民保護② パブリックセキュリティ特殊研究1② パブリックセキュリティ特殊研究2② パブリックセキュリティ特殊研究3② パブリックセキュリティ特殊研究4②			
	グローバルセキュリティ領域科目		○国際政治学② ○平和構築論② 国家安全保障② 国際安全保障②	防衛政策② グローバルセキュリティ特殊研究1② グローバルセキュリティ特殊研究2② グローバルセキュリティ特殊研究3② グローバルセキュリティ特殊研究4②			
	情報セキュリティ領域科目		○情報技術② ○情報管理論② 情報法② サイバーセキュリティ②	メディアコミュニケーション② 情報セキュリティ特殊研究1② 情報セキュリティ特殊研究2② 情報セキュリティ特殊研究3② 情報セキュリティ特殊研究4②			
統合科目	プロジェクト科目	○プロジェクト1② ○プロジェクト2② ○キャリア・デザインⅠ②	○キャリア・デザインⅡ②	○プロジェクト3② ○プロジェクト4②		選択必修4単位	計 12 単位
	ゼミナール科目			○ゼミナールⅠ② ○ゼミナールⅡ②	○ゼミナールⅢ② ○ゼミナールⅣ②	選択必修8単位	

「リベラルアーツ科目」，「専門科目」及び「相互履修科目」からの自由選択科目※2	10単位

【※1】「日本を考える」「データサイエンスの世界」は大学本部による全学共通教育科目として集中授業にて開講予定。
【※2】自由選択科目は、リベラルアーツ科目、専門科目及び相互履修科目から10単位まで可。
○の中の数字は単位数，◎は必修科目，○は選択必修科目，無印は選択科目を示す。
選択必修科目のうち、展開科目10単位を超える単位については選択科目修得単位数として算入することができる。

危機管理学部　能力開発と授業科目

卒業の認定に関する方針（DP）	教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）
日本大学危機管理学部（学士（危機管理学））は，危機管理の重責を全うしようとする使命感と高度なリスクリテラシー（危機管理能力）を備えた人材を輩出すべく，日本大学教育憲章に基づき「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構築する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（危機管理学））における能力を修得したものに，「学士（危機管理学）」の学位を授与する。	日本大学危機管理学部（学士（危機管理学））は，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。 リーガルマインドに裏打ちされた多角的で着実なリスクリテラシーを開発することを目的として，「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を中心とする危機管理に不可欠な能力を養成するために，リテラシー教育，コミュニケーション教育，探究教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目のシラバスに明示される学修到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の8つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を図るための授業科目（ゼミナール，卒業論文）の修得状況やと到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

日本大学教育憲章		要素		獲得要素	授業科目
		能力（コンピテンス）	能力要素（コンピテンシー）		
自ら学ぶ	1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	〔DP1〕市民的素養を基礎として，高い倫理観に根差して，法学と危機管理に関する高度な学識と技能（リーガルマインド，リスクリテラシー）を運用する能力	〔DP1-D〕市民的素養・市民的教養 市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。	〔CP1-D1〕市民的素養と参加 コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。	アカデミック・ライティングの基礎 データサイエンスの世界 英語Ⅰ〜Ⅳ 日本語Ⅰ〜Ⅳ 中国語Ⅰ〜Ⅳ 韓国語Ⅰ〜Ⅳ スポーツ実技 1 スポーツ理論 人文科学探究 1 ～ 9 社会科学探究 1 ～ 9 自然科学探究 1 ～ 9 学際探究 1 ～ 6 政治システム
			〔DP1-E〕学識・専門技能 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。	〔CP1-E1〕学識・専門技能 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。	データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1・2 英語演習 1 ～ 4 社会科学探究 5・6 学際探究 1 レジリエンス リーガルシステム リスクマネジメント 市民法システムⅠ 政治システム 行政法システム 国家ガバナンスⅠ・Ⅱ 市民法システムⅡ 企業法システム 国際法システム 刑事司法システム 企業コンプライアンス 家族法システム インテリジェンス ロジスティクス セキュリティ リスクコミュニケーション ヒューマニズム ボランティア論 エコロジー 社会心理学（ソーシャルサイコロジー） ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス 哲学・現代思想（フィロソフィ） PR 論（パブリックリレーションズ） プライバシー論 自然災害論 災害対策論 地域防災論 災害情報論 事業継続論（BCP・BCM） 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 3 災害マネジメント特殊研究 2 災害マネジメント特殊研究 4 社会安全政策1 こどもインクルージョン（行政マネジメント） テロリズム論 社会安全政策2 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 パブリックセキュリティ特殊研究 2 パブリックセキュリティ特殊研究 4 国際政治学 平和構築論 国家安全保障 国際安全保障 防衛政策 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 グローバルセキュリティ特殊研究2 グローバルセキュリティ特殊研究4 情報技術 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 1 情報セキュリティ特殊研究 3 情報セキュリティ特殊研究 2 情報セキュリティ特殊研究 4 プロジェクト1〜4 キャリア・デザインⅡ ゼミナールⅠ〜Ⅳ
	2 世界の現状を理解し、説明する力	〔DP2〕国際的教養人としての感性	〔DP2-A〕日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。	〔CP2-A1〕グローバル感覚 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識することができる。 〔CP2-A2〕異文化適応 異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。	自主創造の基礎 アカデミック・ライティングの基礎 ライティング・スキルズ 日本を考える データサイエンスの世界 英語Ⅰ〜Ⅳ 日本語Ⅰ〜Ⅳ 中国語Ⅰ〜Ⅳ 韓国語Ⅰ〜Ⅳ 人文科学探究1・2・7〜9 社会科学探究1〜4・7〜9 レジリエンス ヒューマニズム グローバル文化論 哲学・現代思想（フィロソフィ） テロリズム論
			〔DP2-B〕自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。	〔CP2-B1〕自己啓発 自己の存在意義を知り、自らを高め続ける努力を継続することができる。	自主創造の基礎 ライティング・スキルズ リサーチ・スキルズ1・2 スポーツ実技1 スポーツ理論 人文科学探究1 自然科学探究 7 ～ 9 レジリエンス ボランティア論 情報セキュリティ特殊研究 4 プロジェクト 1 ～ 4 キャリア・デザインⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ〜Ⅳ
自ら考える	3 論理的・批判的思考力	〔DP3〕問題を適切に把握して、合理的な判断につなげられる能力	〔DP3-G〕状況把握力・判断力 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。	〔CP3-G1〕状況把握 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。	日本を考える データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ2 学際探究1・3 国際法システム 家族法システム セキュリティ ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス プライバシー論 自然災害論 地域防災論 災害情報論 事業継続論（BCP・BCM） 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 3 社会安全政策1 テロリズム論 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 平和構築論 国家安全保障 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 3 ゼミナールⅠ〜Ⅲ
			〔DP3-H〕論理的思考力・批判的思考力 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。	〔CP3-H1〕論理的思考 理路整然とした思考によって、問題・課題を合理的に解決することができる。 〔CP3-H2〕批判的思考 論理的で偏りのない思考、そのように自らの推論を内省する態度をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。	自主創造の基礎 データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1 英語Ⅲ・Ⅳ 英語演習1〜4 人文科学探究1〜4 自然科学探究1〜6 学際探究3 リーガルシステム 市民法システムⅠ 行政法システム 国家ガバナンスⅠ 国家ガバナンスⅡ 市民法システムⅡ 企業法システム 国際法システム 刑事司法システム 企業コンプライアンス 家族法システム インテリジェンス グローバル文化論 ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス プライバシー論 事業継続論（BCP・BCM） 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 2 こどもインクルージョン（行政マネジメント） テロリズム論 社会安全政策2 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 グローバルセキュリティ特殊研究2 情報技術 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 1
	4 問題発見・解決力	〔DP4〕問題を探求し、状況を的確に分析する能力	〔DP4-F〕探究力・課題解決力 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。	〔CP4-F1〕探究と論拠 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うことができる。 〔CP4-F2〕課題解決 オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。	自主創造の基礎 ライティング・スキルズ データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1 学際探究 1 レジリエンス 国際法システム 家族法システム ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス 自然災害論 災害情報論 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 2 テロリズム論 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 パブリックセキュリティ特殊研究 2 国際安全保障 グローバルセキュリティ特殊研究1 情報技術 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 1
			〔DP4-I〕理解力・分析力 文章表現，数値データを適切に扱いつつ，情報の収集と取捨選択，分析と加工を有効かつ円滑に行い，課題の解決につなげることができる。	〔CP4-I1〕理解・分析と読解 文章表現における意味と含意を抽出し、分析及び理解することができる。 〔CP4-I2〕量的分析 数値データを適切に扱い、様々な文脈で量的問題を推論し、課題の解決につなげることができる。 〔CP4-I3〕情報分析 情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行うことができる。	アカデミック・ライティングの基礎 ライティング・スキルズ コンピュータ・情報リテラシー データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1・2 英語Ⅰ〜Ⅳ 日本語Ⅱ・Ⅳ 中国語Ⅲ・Ⅳ 英語演習1〜4 人文科学探究 1 ～ 9 社会科学探究 1 ～ 4，7 ～ 9 自然科学探究 1 ～ 9 学際探究 1 ～ 6 レジリエンス リーガルシステム リスクマネジメント 市民法システムⅠ 政治システム 行政法システム 国家ガバナンスⅠ 国家ガバナンスⅡ 市民法システムⅡ 企業法システム 国際法システム 刑事司法システム 企業コンプライアンス 家族法システム インテリジェンス ロジスティクス セキュリティ リスクコミュニケーション ヒューマニズム ボランティア論 エコロジー 社会心理学（ソーシャルサイコロジー） ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス 哲学・現代思想（フィロソフィ） PR 論（パブリックリレーションズ） プライバシー論 自然災害論 災害対策論 地域防災論 災害情報論 事業継続論（BCP・BCM） 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 3 災害マネジメント特殊研究 2 災害マネジメント特殊研究 4 社会安全政策1 こどもインクルージョン（行政マネジメント） テロリズム論 社会安全政策2 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 パブリックセキュリティ特殊研究 2 パブリックセキュリティ特殊研究 4 国際政治学 平和構築論 国家安全保障 国際安全保障 防衛政策 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 グローバルセキュリティ特殊研究2 グローバルセキュリティ特殊研究4 情報技術 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 1 情報セキュリティ特殊研究 3 情報セキュリティ特殊研究 2 情報セキュリティ特殊研究 4 ゼミナールⅠ〜Ⅳ
自ら道をひらく	5 挑戦力	〔DP5〕新たな可能性を追求し果敢に挑戦し続ける行動力	〔DP5-J〕創造的挑戦力・達成力 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。	〔CP5-J1〕継続的学修基盤 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとすることができる。 〔CP5-J2〕創造的思考 既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、一定のリスクをとりながら、結果に結び付けることができる。	ライティング・スキルズ 政治システム 情報セキュリティ特殊研究 4 プロジェクト1〜4
	6 コミュニケーション力	〔DP6〕グローバルに行動できるコミュニケーション能力	〔DP6-K〕表現力・対話力 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。	〔CP6-K1〕ライティング・コミュニケーション 文章によって自らの考えを表現し、読者に過不足なく伝達することができる。 〔CP6-K2〕オーラル・コミュニケーション 自らの考え、信念を、聞き手に口頭で的確に伝達することができる。	自主創造の基礎 アカデミック・ライティングの基礎 コンピュータ・情報リテラシー データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1・2 英語Ⅰ〜Ⅳ 日本語Ⅰ〜Ⅳ 中国語Ⅰ〜Ⅳ 韓国語Ⅰ〜Ⅳ 英語演習1〜4 人文科学探究 9 政治システム グローバル文化論 情報セキュリティ特殊研究 4 プロジェクト1〜4 キャリア・デザインⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ〜Ⅳ
	7 リーダーシップ・協働力	〔DP7〕多様な価値を受容し、対立を乗り越え、協働を通じて社会の安定、安全と世界の平和を希求する公共心	〔DP7-C〕他者理解・倫理観・公共心 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。	〔CP7-C1〕倫理的思考・社会認識 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。	自主創造の基礎 ライティング・スキルズ リサーチ・スキルズ1・2 人文科学探究 2 ～ 6 学際探究 2 ～ 6 レジリエンス 政治システム 国際法システム セキュリティ ボランティア論 ネットワーク論 プライバシー論 自然災害論 地域防災論 災害情報論 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 3 社会安全政策1 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 平和構築論 国家安全保障 国際安全保障 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 3 キャリア・デザインⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ〜Ⅳ
			〔DP7-L〕協働力・牽引力 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。	〔CP7-L1〕チームワーク 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。	ライティング・スキルズ 日本を考える リサーチ・スキルズ2 プロジェクト1〜4 ゼミナールⅠ〜Ⅳ
	8 省察力	〔DP8〕課題発見・仮説構築・仮説検証・課題解決・省察のプロセスを主体的に反復する思考様式	〔DP8-M〕省察力 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。	〔CP8-M1〕統合的・応用的学修 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。	自主創造の基礎 ライティング・スキルズ 日本を考える プロジェクト1〜4 キャリア・デザインⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ〜Ⅳ

Ⅲ 卒業の要件と履修モデル

1 卒業の要件

本学部の教育課程は「単位制」を採用しています。科目には所定の単位があり，単位は定期試験，授業参加度などを担当教員が総合的に評価して合格と判定した場合に与えられます。

本学部に4か年以上在学し，リベラルアーツ科目，専門科目，その他の必修科目，選択必修科目，選択科目について定められた単位数を満たし，合計で124単位以上修得した者に「学士（危機管理学）」の学位が授与されます。1単位でも不足があれば卒業できません。また，合計で 124 単位以上の単位を修得しても，卒業要件を満たさなければ卒業できません。したがって，卒業要件区分の充足に細心の注意を払うとともに，要件単位数以上の科目を履修する等の配慮が求められます。

総計単位数 124 以上

卒業に必要な要件

リベラルアーツ科目	探究科目　14 単位	選択（14 単位）	30 単位以上
	リテラシー科目　10 単位	必修：自主創造の基礎，ライティング・スキルズ，リサーチ・スキルズ1，リサーチ・スキルズ2（8単位）＋選択（2単位）	
	コミュニケーション科目　6単位	必修：英語Ⅰ～Ⅳ（4単位） ※外国人留学生は日本語Ⅰ～Ⅳ（4単位）が必修 スポーツ理論・スポーツ実技1（2単位）	
専門科目	基盤科目　20 単位	必修：レジリエンス，リーガルシステム（4単位）＋選択必修（16 単位）※1	20 単位以上
	基幹科目　20 単位	中核概念科目…必修：インテリジェンス，ロジスティクス，セキュリティ，リスクコミュニケーション（8単位） 共通概念科目…必修：ヒューマニズム（2単位）＋選択必修（10単位）※3	20 単位以上
	展開科目　32 単位	選択必修（10 単位）※4＋選択（22 単位）	32 単位※2
	統合科目　12 単位	プロジェクト科目…選択必修（4単位）※5 ゼミナール科目…選択必修（8単位）※6	12 単位
自由選択科目（リベラルアーツ科目，専門科目及び相互履修科目から自由に選択。）			10 単位

学位　学士（危機管理学）

※1　選択必修科目は以下のとおり
「リスクマネジメント」「市民法システムI」「行政法システム」「国家ガバナンスI」「国家ガバナンスII」「市民法システムII」「企業法システム」「国際法システム」「政治システム」「刑事司法システム」「企業コンプライアンス」「家族法システム」

※2　選択必修科目修得単位のうち，展開科目10単位を超える単位については選択科目修得単位数として算入することができる。

※3　選択必修科目は以下のとおり
「イノベーション論」「ボランティア論」「エコロジー」「社会心理学（ソーシャルサイコロジー）」「グローバル文化論」「ネットワーク論」「ダイバーシティ論」「グローバルガバナンス」「PR 論（パブリックリレーションズ）」「プライバシー論」「哲学・現代思想（フィロソフィ）」

※4　選択必修科目は以下のとおり
「自然災害論」「災害対策論」「社会安全政策1」「こどもインクルージョン（行政マネジメント）」「国際政治学」「平和構築論」

「情報技術」「情報管理論」
※5　選択必修科目は以下のとおり
「プロジェクト1」「プロジェクト2」「プロジェクト3」「プロジェクト4」「キャリア・デザインI」「キャリア・デザインⅡ」
※6　選択必修科目は以下のとおり
「ゼミナールI」「ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅢ」「ゼミナールⅣ」
ゼミナールの履修については，別途教員から履修指示がある場合があります。

2　外部試験等による単位認定

別に定める取扱に基づき，英語科目の全部又は一部について，TOEICやTOEFL等の外部試験の成果により対応科目の単位が認定される場合があります。認定された単位のうち「英語I～Ⅳ」及び「英語演習1～4」については卒業に必要な要件単位に算入されるものもありますので，詳細は教学サポート課にお問合せください。

外部試験の成果による授業科目の単位認定基準（令和8年4月1日施行）

外部試験名	スコア等基準	認定科目
TOEFL iBT	4 以上	英語I～Ⅳ 英語演習1～4
	3.5	英語I及びⅡ
TOEFL PBT	550 以上	英語I～Ⅳ 英語演習1～4
	520 以上 550 未満	英語I及びⅡ
IELTS	5.5 以上	英語I～Ⅳ 英語演習1～4
	5.0	英語I及びⅡ
TOEIC L&R	785 以上	英語I～Ⅳ 英語演習1及び3
	680 以上 780 以下	英語I及びⅡ
TOEIC S&W	310 以上	英語I～Ⅳ 英語演習2及び4
	240 以上 300 以下	英語I及びⅡ
英検	準1級	英語I～Ⅳ 英語演習1～4

この基準は，変更される場合があります。

3　履修モデル

履修モデルとは，多種多様な開講授業科目の中から，どの科目をどのような順序で履修し，知識を積み上げていったらよいかについて，具体的な指針を示すものです。卒業要件は 124 単位ですが，履修モデルでは更なる単位の枠を設定して，当該領域を専門的に研究する上で履修することが望まれる授業科目を網羅的に推奨しています。各科目の履修条件，年間の履修上限単位に留意しつつ，推奨科目の中から必要な科目を選択し履修してください。履修についての相談は，自主創造の基礎，ライティング・スキルズ，ゼミナールの各時間のほか，各専任教員のオフィスアワー，各学年のガイダンス期間中に設けられる履修相談の時間に，随時受け付けます。

災害マネジメント領域　履修モデル

災害マネジメント領域で育成を目指す人材像：

①自然災害や大規模事故等の災害に対する対応と備えについて多角的な観点から考え，具体的解決策を導き出すための素養を身につけた人材。②災害発生時，自らの能力とあらゆる資源を駆使して自らとその家族の身体，生命，財産を守り，被害からの迅速な回復に取り組む意欲を持つ人材。③自らの暮らす地域及び自らの所属する組織を災害から守り，被害から迅速に回復するために必要な取り組みについて，日頃，関係者とともに協力しながら試行錯誤しそれを実践することができる人材。

<table>
<tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th></tr>
<tr><td>リベラルアーツ科目</td><td>◎自主創造の基礎1（前）
◎ライティング・スキルズ（後）
◎スポーツ理論・スポーツ実技1（前／後）
アカデミック・ライティングの基礎（前／後）
○英語I～Ⅱ（前・後）
探究科目1・2（前・後）※A
探究科目1・2（前・後）※A</td><td>◎リサーチ・スキルズ1（前）
◎リサーチ・スキルズ2（後）
○英語Ⅲ～Ⅳ（前・後）
探究科目1・2（前・後）※A
※A 別表　探究科目一覧
（哲学・思想分野）人文科学探究1・2，（文学・言語分野）人文科学探究3・4，（歴史・文化分野）人文科学探究5・6，（広域分野）人文科学探究7～9，（社会・空間分野）社会科学探究1・2，（法律・政治分野）社会科学探究3・4，（経済・経営分野）社会科学探究5・6，（広域分野）社会科学探究7～9，（生命・地球分野）自然科学探究1・2，（環境・共生分野）自然科学探究3・4，（数理・情報・技術分野）自然科学探究5・6，（広域分野）自然科学探究7～9，（心理・行動分野）学際探究1・2，（スポーツ・生活分野）学際探究3・4，（関係分野）学際探究5・6</td><td>探究科目1・2（前・後）※A</td><td>探究科目1・2（前・後）※A</td></tr>
<tr><td>基盤科目</td><td>◎レジリエンス（前）
◎リーガルシステム（前）
○リスクマネジメント（後）
○市民法システムI（後）※C
○行政法システム（後）※B
○国家ガバナンスI（後）※B</td><td colspan="2">○国家ガバナンスⅡ（前）※B
○市民法システムⅡ（前）※C
○企業法システム（前）※C
○国際法システム（前）※B
○政治システム（前）※B
○刑事司法システム（後）※B
○企業コンプライアンス（後）※C
○家族法システム（後）※C</td><td></td></tr>
<tr><td>基幹科目</td><td>◎インテリジェンス（前）
◎ロジスティクス（前）
◎ヒューマニズム（前）
◎セキュリティ（後）
◎リスクコミュニケーション（後）
○イノベーション論（後）※C
○ボランティア論（後）※B
○エコロジー（後）
○社会心理学（ソーシャルサイコロジー）</td><td colspan="2">○グローバル文化論（前）※C
○ネットワーク論（前）※C
○ダイバーシティ論（前）
○グローバルガバナンス（後）
○PR論（パブリックリレーションズ）（後）※C
○プライバシー論（後）
○哲学・現代思想（フィロソフィ）（後）</td><td></td></tr>
<tr><td>展開科目</td><td></td><td>＜災害マネジメント領域＞
○自然災害論（前）
○災害対策論（後）
地域防災論（前）
災害情報論（後）</td><td>＜災害マネジメント領域＞
事業継続論（BCP・BCM）（前）
災害マネジメント特殊研究1（前）
災害マネジメント特殊研究2（後）
災害マネジメント特殊研究3（前）
災害マネジメント特殊研究4（後）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>＜パブリックセキュリティ領域＞
○社会安全政策1（前）
○こどもインクルージョン（行政マネジメント）（後）
＜グローバルセキュリティ領域＞
○国際政治学（前）
○平和構築論（後）
＜情報セキュリティ領域＞
情報法（前）
○情報管理論（後）</td><td>＜パブリックセキュリティ領域＞
国民保護（前）
パブリックセキュリティ特殊研究3【インフラセキュリティ】（前）
＜グローバルセキュリティ領域＞
グローバルセキュリティ特殊研究3【国際人権・人道法】（前）
グローバルセキュリティ特殊研究4【国際経済ガバナンス】（後）
＜情報セキュリティ領域＞
情報セキュリティ特殊研究1【情報技術と社会】（前）
情報セキュリティ特殊研究4【GEOINT】（後）</td><td></td></tr>
<tr><td>統合科目</td><td>○プロジェクト1（集中）（前）
○プロジェクト2（集中）（後）
○キャリア・デザインI（後）</td><td>○キャリア・デザインⅡ（前）</td><td>○ゼミナールI（前）
○ゼミナールⅡ（後）
○プロジェクト3（前）
○プロジェクト4（後）</td><td>○ゼミナールⅢ（前）
○ゼミナールⅣ（後）</td></tr>
</table>

※A　別表　教養科目一覧からいずれか選択　※B　行政キャリア推奨　※C　企業キャリア推奨

パブリックセキュリティ領域　履修モデル

パブリックセキュリティ領域で育成を目指す人材像：

人びとと社会の安全を支えるために，リスクに立ち向かうマインドとそれに適切に対応できる能力を兼ね備えた人材。〔具体例〕行政キャリアでは，警察官をはじめとする公安職系の公務員等として活躍できる人材。企業キャリアでは，企業・団体の危機管理業務を担当できる人材。

	1年	2年	3年	4年
リベラルアーツ科目	◎自主創造の基礎1（前） ◎ライティング・スキルズ（後） ◎スポーツ理論・スポーツ実技1（前／後） アカデミック・ライティングの基礎（前／後） ○英語I～Ⅱ（前・後） 探究科目1・2（前・後）※A 探究科目1・2（前・後）※A	◎リサーチ・スキルズ1（前） ◎リサーチ・スキルズ2（後） ○英語Ⅲ～Ⅳ（前・後） 探究科目1・2（前・後）※A	探究科目1・2（前・後）※A	探究科目1・2（前・後）※A
基盤科目	◎レジリエンス（前） ◎リーガルシステム（前） ○リスクマネジメント（後） ○市民法システムI（後）※C ○行政法システム（後）※B ○国家ガバナンスI（後）※B	○国家ガバナンスⅡ（前）※B ○市民法システムⅡ（前）※C ○企業法システム（前）※C ○国際法システム（前）※B ○政治システム（前）※B ○刑事司法システム（後）※B ○企業コンプライアンス（後）※C ○家族法システム（後）※C		
基幹科目	◎インテリジェンス（前） ◎ロジスティクス（前） ◎ヒューマニズム（前） ◎セキュリティ（後） ◎リスクコミュニケーション（後） ○イノベーション論（後）※C ○ボランティア論（後）※B ○エコロジー（後） ○社会心理学（ソーシャルサイコロジー）	○グローバル文化論（前）※C ○ネットワーク論（前）※C ○ダイバーシティ論（前） ○グローバルガバナンス（後） ○PR論（パブリックリレーションズ）（後）※C ○プライバシー論（後） ○哲学・現代思想（フィロソフィ）（後）		
展開科目		<パブリックセキュリティ領域> ○社会安全政策1（前） ○こどもインクルージョン（行政マネジメント）（後） テロリズム論（前） 社会安全政策2（後）	<パブリックセキュリティ領域> 国民保護（前） パブリックセキュリティ特殊研究1（前） パブリックセキュリティ特殊研究2（後） パブリックセキュリティ特殊研究3（前） パブリックセキュリティ特殊研究4（後）	
		<災害マネジメント領域> ○自然災害論（前） ○災害対策論（後） <グローバルセキュリティ領域> 国家安全保障（前） ○平和構築論（後） <情報セキュリティ領域> 情報法（前） ○情報管理論（後）	<災害マネジメント領域> 災害マネジメント特殊研究1【災害と法】（前） 災害マネジメント特殊研究3【大規模事故論】（前） <グローバルセキュリティ領域> 防衛政策（前） グローバルセキュリティ特殊研究2【防衛法制】（後） <情報セキュリティ領域> 情報セキュリティ特殊研究1【情報技術と社会】（前） 情報セキュリティ特殊研究2【知財セキュリティ】（後）	
統合科目	○プロジェクト1（集中）（前） ○プロジェクト2（集中）（後） ○キャリア・デザインI（後）	○キャリア・デザインⅡ（前）	○ゼミナールI（前） ○ゼミナールⅡ（後） ○プロジェクト3（前） ○プロジェクト4（後）	○ゼミナールⅢ（前） ○ゼミナールⅣ（後）

※A 別表　探究科目一覧

（哲学・思想分野）人文科学探究1・2，（文学・言語分野）人文科学探究3・4，（歴史・文化分野）人文科学探究5・6，（広域分野）人文科学探究7～9，（社会・空間分野）社会科学探究1・2，（法律・政治分野）社会科学探究3・4，（経済・経営分野）社会科学探究5・6，（広域分野）社会科学探究7～9，（生命・地球分野）自然科学探究1・2，（環境・共生分野）自然科学探究3・4，（数理・情報・技術分野）自然科学探究5・6，（広域分野）自然科学探究7～9，（心理・行動分野）学際探究1・2，（スポーツ・生活分野）学際探究3・4，（関係分野）学際探究5・6

※A　別表　教養科目一覧からいずれか選択　※B　行政キャリア推奨　※C　企業キャリア推奨

グローバルセキュリティ領域　履修モデル

グローバルセキュリティ領域で育成を目指す人材像：

①ものごとを多面的，横断的，立体的にとらえ，歴史的・地理的背景なども念頭に置きつつ，的確に問題を認識し，関心対象を見出す能力を有する人材。②日本がおかれた状況を客観的に見据えつつ，広い視野および国際的な視点を有する人材。③正しい日本語の表現能力を前提に，外国語能力（必修科目の英語のみならず，できれば，隣国の言語である中国語または韓国語）を有し，自分と異なる文化的背景・価値観を有する人々を理解するグローバルな感覚を有する人材。④膨大な情報の中から，必要な情報（インテリジェンス）を入手・抽出し，利用することができる人材。

	1年	2年	3年	4年
リベラルアーツ科目	◎自主創造の基礎1（前） ◎ライティング・スキルズ（後） ◎スポーツ理論・スポーツ実技1（前／後） アカデミック・ライティングの基礎（前／後） ○英語I～Ⅱ（前・後） 探究科目1・2（前・後）※A 探究科目1・2（前・後）※A	◎リサーチ・スキルズ1（前） ◎リサーチ・スキルズ2（後） ○英語Ⅲ～Ⅳ（前・後） 探究科目1・2（前・後）※A	探究科目1・2（前・後）※A	探究科目1・2（前・後）※A
基盤科目	◎レジリエンス（前） ◎リーガルシステム（前） ○リスクマネジメント（後） ○市民法システムI（後）※C ○行政法システム（後）※B ○国家ガバナンスI（後）※B	○国家ガバナンスⅡ（前）※B ○市民法システムⅡ（前）※C ○企業法システム（前）※C ○国際法システム（前）※B ○政治システム（前）※B ○刑事司法システム（後）※B ○企業コンプライアンス（後）※C ○家族法システム（後）※C		
基幹科目	◎インテリジェンス（前） ◎ロジスティクス（前） ◎ヒューマニズム（前） ◎セキュリティ（後） ◎リスクコミュニケーション（後） ○イノベーション論（後）※C ○ボランティア論（後）※B ○エコロジー（後） ○社会心理学（ソーシャルサイコロジー）	○グローバル文化論（前）※C ○ネットワーク論（前）※C ○ダイバーシティ論（前） ○グローバルガバナンス（後） ○PR論（パブリックリレーションズ）（後）※C ○プライバシー論（後） ○哲学・現代思想（フィロソフィ）（後）		
展開科目		<グローバルセキュリティ領域> ○国際政治学（前） ○平和構築論（後） 国家安全保障（前） 国際安全保障（後）	<グローバルセキュリティ領域> 防衛政策（前） グローバルセキュリティ特殊研究1（前） グローバルセキュリティ特殊研究2（後） グローバルセキュリティ特殊研究3（前） グローバルセキュリティ特殊研究4（後）	
		<災害マネジメント領域> ○自然災害論（前） ○災害対策論（後） <パブリックセキュリティ領域> ○社会安全政策1（前） テロリズム論（前） <情報セキュリティ領域> ○情報管理論（後） サイバーセキュリティ（後）	<災害マネジメント領域> 事業継続論（BCP・BCM）（前） 災害マネジメント特殊研究4【感染症対策論】（後） <パブリックセキュリティ領域> 国民保護（前） パブリックセキュリティ特殊研究4【観光リスクマネジメント】（後） <情報セキュリティ領域> メディアコミュニケーション（前） 情報セキュリティ特殊研究4【GEOINT】（後）	
統合科目	○プロジェクト1（集中）（前） ○プロジェクト2（集中）（後） ○キャリア・デザインI（後）	○キャリア・デザインⅡ（前）	○ゼミナールI（前） ○ゼミナールⅡ（後） ○プロジェクト3（前） ○プロジェクト4（後）	○ゼミナールⅢ（前） ○ゼミナールⅣ（後）

※A 別表　探究科目一覧

(哲学・思想分野）人文科学探究1・2，(文学・言語分野）人文科学探究3・4，(歴史・文化分野）人文科学探究5・6，(広域分野）人文科学探究7～9，(社会・空間分野）社会科学探究1・2，(法律・政治分野）社会科学探究3・4，(経済・経営分野）社会科学探究5・6，(広域分野）社会科学探究7～9，(生命・地球分野）自然科学探究1・2，(環境・共生分野）自然科学探究3・4，(数理・情報・技術分野）自然科学探究5・6，(広域分野）自然科学探究7～9，(心理・行動分野）学際探究1・2，(スポーツ・生活分野）学際探究3・4，(関係分野）学際探究5・6

※A　別表　教養科目一覧からいずれか選択　※B　行政キャリア推奨　※C　企業キャリア推奨

情報セキュリティ領域　履修モデル

情報セキュリティ領域で育成を目指す人材像：

①情報セキュリティに関する問題解決には多くの場合広い知見が求められるため，情報処理の一般的な知識に加えて，サイバー攻撃の手口やシステム管理等関連する情報技術，更に情報法，刑法等の法律の知識，情報管理に関する諸制度等に習熟した人材。②技術の進化が絶え間なく変化して社会的な制度も流動的な状況にあるため，既取得の知識や技術に囚われることなく，最新の技術要素を積極的に修得する意欲を持つ人材。③複数の因果関係が絡み合う情報セキュリティの問題を，技術的な見地に偏重することなく，問題要素の関係を読み解き，法律知識，技術的な見識，論理的な考察，高い倫理観をもって社会的合意を形成してステークホルダーに利益をもたらす合理的な解法を提案できる人材。

	1年	2年	3年	4年
リベラルアーツ科目	◎自主創造の基礎1（前） ◎ライティング・スキルズ（後） ◎スポーツ理論・スポーツ実技1（前／後） アカデミック・ライティングの基礎（前／後） ○英語I〜Ⅱ（前・後） 探究科目1・2（前・後）※A 探究科目1・2（前・後）※A	◎リサーチ・スキルズ1（前） ◎リサーチ・スキルズ2（後） ○英語Ⅲ〜Ⅳ（前・後） 探究科目1・2（前・後）※A	探究科目1・2（前・後）※A	探究科目1・2（前・後）※A
基盤科目	◎レジリエンス（前） ◎リーガルシステム（前） ○リスクマネジメント（後） ○市民法システムI（後）※C ○行政法システム（後）※B ○国家ガバナンスI（後）※B	○国家ガバナンスⅡ（前）※B ○市民法システムⅡ（前）※C ○企業法システム（前）※C ○国際法システム（前）※B ○政治システム（前）※B ○刑事司法システム（後）※B ○企業コンプライアンス（後）※C ○家族法システム（後）※C		
基幹科目	◎インテリジェンス（前） ◎ロジスティクス（前） ◎ヒューマニズム（前） ◎セキュリティ（後） ◎リスクコミュニケーション（後） ○イノベーション論（後）※C ○ボランティア論（後）※B ○エコロジー（後） ○社会心理学（ソーシャルサイコロジー）	○グローバル文化論（前）※C ○ネットワーク論（前）※C ○ダイバーシティ論（前） ○グローバルガバナンス（後） ○PR論（パブリックリレーションズ）（後）※C ○プライバシー論（後） ○哲学・現代思想（フィロソフィ）（後）		
展開科目		<情報セキュリティ領域> ○情報技術（前） ○情報管理論（後） 情報法（前） サイバーセキュリティ（後）	<情報セキュリティ領域> メディアコミュニケーション（前） 情報セキュリティ特殊研究1（前） 情報セキュリティ特殊研究2（後） 情報セキュリティ特殊研究3（前） 情報セキュリティ特殊研究4（後）	
		<災害マネジメント領域> 災害情報論（後） <パブリックセキュリティ領域> ○社会安全政策1（前） 社会安全政策2（後） テロリズム論（前） <グローバルセキュリティ領域> ○平和構築論（後） ○国際政治学（前） 国際安全保障（後）	<災害マネジメント領域> 事業継続論（BCP・BCM）（前） 災害マネジメント特殊研究2【ヒューマンエラー】（後） <パブリックセキュリティ領域> パブリックセキュリティ特殊研究1【経済刑法】（前） <グローバルセキュリティ領域> グローバルセキュリティ特殊研究2【防衛法制】（後）	
統合科目	○プロジェクト1（集中）（前） ○プロジェクト2（集中）（後） ○キャリア・デザインI（後）	○キャリア・デザインⅡ（前）	○ゼミナールI（前） ○ゼミナールⅡ（後） ○プロジェクト3（前） ○プロジェクト4（後）	○ゼミナールⅢ（前） ○ゼミナールⅣ（後）

※A 別表　探究科目一覧

（哲学・思想分野）人文科学探究1・2，（文学・言語分野）人文科学探究3・4，（歴史・文化分野）人文科学探究5・6，（広域分野）人文科学探究7〜9，（社会・空間分野）社会科学探究1・2，（法律・政治分野）社会科学探究3・4，（経済・経営分野）社会科学探究5・6，（広域分野）社会科学探究7〜9，（生命・地球分野）自然科学探究1・2，（環境・共生分野）自然科学探究3・4，（数理・情報・技術分野）自然科学探究5・6，（広域分野）自然科学探究7〜9，（心理・行動分野）学際探究1・2，（スポーツ・生活分野）学際探究3・4，（関係分野）学際探究5・6

※A　別表　教養科目一覧からいずれか選択　※B　行政キャリア推奨　※C　企業キャリア推奨

Ⅳ 図書館の利用

図書館は，大学の使命である教育・研究活動を支える拠点です。図書館には，学修に必要な国内外の図書，雑誌などが体系的に収集・保管されています。また，電子ジャーナルなどのデータベースからの資料検索もできます。三軒茶屋キャンパスの図書館には，危機管理学部とスポーツ科学部の専門分野の学術書を中心に所蔵しています。

図書館には，閲覧室の他，グループスタディルームもありますので，演習やゼミナールでの共同作業などでも利用してください。また，卒業生の卒業論文等の資料も閲覧できます。

1 貸出冊数と期間

図書については，1度の利用につき貸出冊数は10冊，期間は1か月です。貸出期間の延長は1回のみ可能です。ただし，貸出時点で返却をしていない図書がある場合は，貸出冊数から未返却分を差し引いた冊数のみ借りることができます。製本雑誌，未製本雑誌，AV 資料は閲覧のみ認めます。

なお，返却を延滞した場合は，罰則として延滞日数と同日数の期間（最長 60 日）で貸出しを禁止します。

2 開館時間

(通常授業期間中)

月曜～金曜日　9時00分～19時00分

土曜日　　10時30分～14時30分

※開館時間はあくまで現状の開館時間であり，変更となる場合があります。変更の場合はホームページにてお知らせいたします。

(休暇期間中)

長期休暇期間中の開館時間は，掲示等でお知らせします。

3 休館日（原則）

日曜日

祝日（授業実施日を除く）

創立記念日（10月4日）

その他大学が定めた日となります。詳細はホームページのカレンダーを参照ください。

4 相互利用サービス

当館で所蔵していない資料が，本学他学部や他機関（他大学・国立国会図書館等）に所蔵されている場合，以下の方法等により利用することができます。

詳しくは図書館カウンターにて御相談ください。

・資料の取り寄せ，文献複写，現物貸借

Ⅴ 学生生活

窓口事務取扱時間

事務局は，教学サポート課（教務・入試・学生・就職・図書関係）と管理マネジメント課（庶務・会計・管財・研究事務関係）が 1 号館 1 階にあります。

窓口は特別な場合（休業期間等）を除き，次のとおりです。

なお，変更する場合は事前に掲示等により周知をします。

（取扱時間）

月曜～金曜日　9時00 分～ 17時00 分（11 時 35 分～ 12 時 35 分は昼休憩のため取扱いできません）

土　曜　日　9時00 分～ 12時00 分

クラス担任制

危機管理学部では，1年次及び2年次におけるホームルーム的演習科目である以下の科目の担当教員を，履修学生の「クラス担任」と位置づけ，学業のみならず，ひとりひとりの学生生活に関する相談にのり，必要に応じて学生支援室や諸委員会とも連携して，サポートしていくこととしています。

1年前学期　　自主創造の基礎

1年後学期　　ライティング・スキルズ

2年前学期　　リサーチ・スキルズ1

2年後学期　　リサーチ・スキルズ2

ポータルサイト

大学･学部からの連絡は，原則として，すべてポータルサイトの「掲示」によって行います。「掲示」を確認しなかったために生じる不利益は，学生本人の責任となります。

休講，補講，教室変更，定期試験などの授業に関する告知をはじめとして，奨学金関係，就職ガイダンスの案内等，学生への重要な連絡などは，すべてポータルサイトで行います。緊急を要する重要な連絡事項もありますので，ポータルサイトの確認と登校した際の掲示板（教学サポート課隣）の確認を習慣づけてください。

なお，休講情報など，掲示板や本学部ホームページで確認できる情報もありますが，あくまで補助的な手段となります。

ノート PC の持参について

本学部では，受講する授業の選択（履修登録）や成績の閲覧，授業動画の閲覧や課題の提出など，様々な場面でパソコンを活用いたします。そのため，基本的に来校時にはノートパソコンを持参してください。推奨スペック等については，学部ホームページを参照してください。充電スポットは1号館2階の国際交流センター内及び2号館の図書館に用意しておりますので，必要に応じて御活用ください。

なお，在学中に無償利用できるものは以下のとおりです。

① Wi-Fi アクセスポイント（キャンパス内に限る）
② Google Workspace（保存容量5GB まで）
③ Microsoft365（Word・Excel・PowerPoint）
④ Box（保存容量無制限）
⑤ プリンター（無償ポイント（500 ポイント））

無償ポイント分利用後は，追加購入が必要（100 ポイント 1,000 円）
サイズ・カラーで消費ポイントが変動　例：A4 モノクロ　1ポイント
※上記は在学中に変更となる場合があります。変更した場合はポータルサイト等でお知らせします。
また，校舎内に Wi-Fi アクセスポイントが設置されておりますので，校舎内でインターネットを使用するために Wi-Fi ルーター等を用意・持参する必要はございません。

学生証裏面シールについて

学生証裏面シールは通学証明をするものです。在籍を証明するものではありません。教学サポート課の「経路確認」印がないものは通学証明に使用できません。通学経路は自宅の最寄り駅から三軒茶屋キャンパスの最寄り駅区間（三軒茶屋駅，祐天寺駅，学芸大学駅）であって，「最速」「最短」「最安」ルートのいずれかのみ申請できます。年度途中の通学経路の変更は原則，認められません。

通学定期券

必要事項を指定された期間内にポータルサイトにて登録することで通学区間の登録（経路確認）がされます。
※経路確認印が押されます。

登録後，「学生証裏面シール」を学生証の裏面に貼り付け，利用駅の窓口で通学定期券購入手続の際に提示することにより，JR 線（新幹線を除く）・私鉄各線の通学定期券が購入できます。

新幹線のほか，一部路線によっては，別途「通学証明書」の発行（無料）が必要となりますので，通学に利用する公共交通機関に通学定期券の発行に必要な書類等の確認をしてください。

自転車通学の手続き

三軒茶屋キャンパスは市街地にあり，駐輪台数も限られているため，原則として公共交通機関の利用による通学を推奨しています。やむを得ない事情により自転車通学を希望する場合は，期限内に駐輪許可に必要な書類を教学サポート課へ提出し，許可を受けなければなりません。駐輪台数に限りがあるので，申請台数に応じて抽選

を行うことがあります。自転車通学の手続きに必要な条件は以下のとおりです。

① 対人・対物事故に対応した個人賠償責任保険に加入していること。
② 防犯登録（防犯登録番号の確認）をしていること。
③ 自宅が三軒茶屋キャンパスから 1.5km 以上 6km 以内（直線距離）であること。
④ 通学定期券を購入していないこと。

駐輪場使用許可の手続き等についての詳細は教学サポート課へ問い合わせてください。また，駐輪場使用者には，三軒茶屋キャンパスオリジナルシールを配布します。シールを貼っていない自転車については駐輪場の使用を認めません。

自転車の「青切符」制度（令和8年4月1日 道路交通法改正）について
16 歳以上の自転車利用者に「交通反則通告制度（青切符）」が導入されます。
これは，自動車と同じように，一定の交通違反に対して反則金の納付が必要となる制度です。
あなたの安全を守るために，そして歩行者や周囲の人を守るために，交通ルールを守ることは最低限のマナーです。しっかりとルールを理解し，安全に自転車で通学しましょう。
各自ルールを確認しておきましょう。
警視庁ホームページ
https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kotsu/jikoboshi/bicycle/cycle_kaisei.html
自転車交通安全ポータルサイト
https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/portal/index.html

自動車，バイクの通学禁止

三軒茶屋キャンパスは市街地にあり，自動車及びバイクでの通学は，車両事故，騒音妨害，道路混雑などの原因となり地域住民への多大な迷惑となるので禁止とします。

学割証

「学校学生生徒旅客運賃割引証」通称「学割証」は，JR線を利用して片道 100km を超える区間を利用する場合に運賃が 2 割引になる割引証です。
発行方法は，証明書自動発行機で，1 人につき 1 回 2 枚まで発行（年間 10 枚を上限として発行）できます。なお，年間の上限10枚を超えて申し込む場合は，教学サポート課窓口に申し出てください。

拾得物及び忘れ物の保管

大学構内での忘れ物や，落し物を拾得した場合は，教学サポート課まで申し出てください。届けられた物品は教学サポート課にて原則 3 か月間保管しています。

ロッカー

地下2階のロッカーはフリーエリアのロッカーのみ利用できます。ロッカーは1日限りの利用とし，日をまたいでの利用はできませんので注意してください。日をまたいで利用していた場合，大学で中身を確認し，撤去・処分します。

学内 Wi-Fi の接続

学内 Wi-Fi の接続方法は二通りあります。①または②いずれかの無線 LAN を利用してください。

① eduroam の接続・利用方法

1 eduroam（エデュロム）とは？

eduroamは，教育機関や研究機関で相互利用できるキャンパス無線LANシステムです。
現在国内474機関、世界100を超える地域が参加しています。本学のNU-Mailアドレスを持つ学生・生徒・教職員であれば，学内はもとより，学外の参加機関・接続エリアで利用できます。
詳細は https://eduroam.jp/ をご参照ください。

2 ログインの仕方（注：OS によって設定方法が違います）

ホーム画面 → 設定 → Wifi

SSID「eduroam」を選択する。

iPhone / iPod touch

① 左上の「信頼」をタップ

② NUユーザー認証のユーザIDとパスワードを入力し「接続」する。

Android

以下のとおりに設定してください。

EAP方式：PEAP
（デフォルト設定のまま）

フェーズ認証：MSCHAPV2
（デフォルト設定のまま）

CA証明書：システム証明書を使用
（デフォルト設定のまま）

ドメイン：radius.nihon-u.ac.jp
（入力）

IDとパスワード：
NUユーザー認証（Gmailのアカウント）のユーザIDとパスワード

を入力し「保存」する。

②rmssの接続・利用方法

無線 LAN「rmss」の設定手順は OS により異なります。ポータルサイトの学内共有ファイル「学内 Wi-Fi の接続方法について」を参照または，１号館地下１階コンピュータセンター入口にて設定手順書を配付していますので，そちらを確認ください。

保健室

保健室は１号館１階東側エレベーター前にあります。看護師が常駐し，ケガなどの応急処置や健康相談，大学近隣の医療機関の案内などを行っています。

また，定期的に学校医が来校し，必要に応じて日本大学病院への紹介状を作成します。学校医への健康相談を希望する場合は，事前に保健室にご相談ください。

（保健室開室日時）

月曜～金曜日　　９時 00 分～ 17 時 00 分

土　曜　日　　９時 00 分～ 12 時 00 分（隔週）

※休校の場合は保健室も閉室になります

学生支援室

学生支援室は1号館1階（保健室隣）にあります。日ごろの小さなことから人生の悩み，学生生活で困ったことや不安なこと，誰かに話を聞いてほしいこと，障がい学生支援など皆さんの相談を受け付けています。相談内容の秘密はかたく守られます。

※開室中はいつでも相談できますが，予約がある場合は優先となります。希望日時がある場合は予約ができますので，ご連絡ください。

※休校の場合は学生支援室も閉室となります。

・学生支援窓口のご案内

社会福祉士の資格を持つコーディネーターがおり，どのような相談でも受け付け，必要な相談先につなげるお手伝いをしています。また，障がい学生支援についての相談も受け付けています。

（受付時間）月曜～金曜日　10 時～ 16 時 30 分

（電話番号）080-7693-8188

・カウンセリングのご案内

臨床心理士が学生生活の中で生じる不安，モヤモヤ，悲しみ，困りごと等，皆さんのお話を伺い，気持ちの整理やこころのケアを行います。カウンセリングの予約は，直接来室または電話（学生支援窓口）でお申し出ください。

（カウンセリング時間）月曜・火曜・水曜・金曜日　10 時 30 分～ 16 時 30 分

（受付電話番号）080-7693-8188（学生支援窓口直通）

日本大学本部学生支援センター

学部の他に日本大学学生支援センターでも相談やカウンセラー（臨床心理士）によるカウンセリングを受けることができます。また，障がい等のある学生が他の学生と等しい条件のもと学生生活が送れるように様々な支援を行っています。詳細は以下のほか，ホームページ URL や 2 次元コードでも御確認ください。

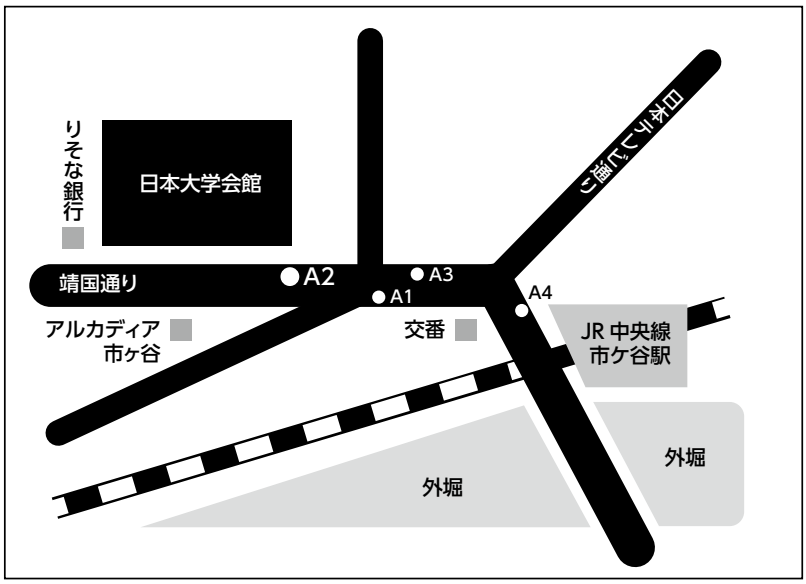
直接来室もしくは下記電話番号にて予約

tel. 03-5275-8238（相談専用ダイヤル）

（開室時間）月曜～土曜日　10時00分～17時00分

※休日及び祝日，創立記念日，夏期一斉休暇，年末年始は閉室します。

日本大学本部学生支援センター案内図



・学生支援センターホームページ URL 及び 2 次元コード

https://www.nihon-u.ac.jp/campuslife/counseling/counseling_center/

・障がい学生支援（合理的配慮支援）のURL 及び 2 次元コード

https://www.nihon-u.ac.jp/campuslife/counseling/student_support/

ハラスメント

【セクシュアル・ハラスメント】

相手方の意に反した性的な言動を行うことにより，不快感や屈辱感を抱かせ，就学上又は就業上の環境を不快にさせることや，性的な要求をし，その対応により，不利益若しくは利益を与えること，又はそのようなことを示唆することです。

・性的な関心，欲求に基づく言動
・性別による差別意識等に基づく言動

【アカデミック・ハラスメント】

教育・研究の場において，優越的な地位にある者が行う不適切で不当な言動・指導・待遇により相手方の勉学や研究意欲・研究活動を害することをいいます。つまり，教育や研究の場で見受けられる権力を利用した嫌がらせのことです。

・指導の際，学生の能力や人格を否定するような発言を繰り返す。
・指導を求めても，理由なく指導をしようとしない。
・長時間にわたって威圧的な説教をする。
・学生に，教育・研究と無関係な雑用や私用を強要する。

【アルコール・ハラスメント】

飲酒にまつわる人権侵害です。

・飲酒の強要
・一気飲ませ（一気飲み，早飲み競争，罰ゲーム等）
・意図的な酔いつぶし（酔いつぶすことを意図として飲み会をする）
・飲めない人への配慮を欠くこと（体質や意向を無視して飲酒をすすめる，飲めないことをからかったり，侮辱する）
・酔った上での迷惑行為（暴言・暴力，ひんしゅく行為，セクハラ等）

ハラスメントを受けたときの対応

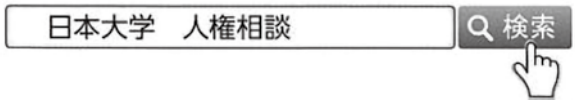
ハラスメントの被害にあった場合，あるいは身近でハラスメントが起きた場合は，被害の継続と拡大を防ぎ，早急に被害を回復することが必要です。そのためには以下のような対応が望まれます。

・自分が不快だと感じた場合には，まず，その行為が不快である，すぐに止めてもらいたいとはっきり相手に伝えましょう。
・実際に身近でハラスメントを見聞きした場合には，学生相談室あるいは教学サポート課に相談しましょう。
・友人や後輩から相談を受けた場合は，被害の継続を差し止め，その拡大を防ぐために，被害を受けた人の立場に立って解決に向けて協力しましょう。
・相手の行為はあなたの責任ではありません。自分を責めたり一人で悩んだりせず，早めに相談しましょう。相談窓口については，学外に設置されている人権相談オフィスがあります。

人権相談オフィス

人権相談オフィスは，相談を受け付ける機関及び相談者との面談を行う場所として次のとおり大学が設置しています。

(学外窓口：法律事務所)
虎門中央法律事務所内　日本大学人権相談学外窓口担当弁護士
tel.03-3591-3793　e-mail nu-gakugai-jinken@torachu.com
※電話による受付については，受付時間帯に直ちに対応出来ない場合があることをご了承ください。
※学外窓口は，弁護士による法律相談を実施するものではありません。



校内禁煙と三軒茶屋周辺の環境美化

健康増進法（受動喫煙の防止）や世田谷区の条例の施行に伴い，三軒茶屋キャンパス校舎内を，全館禁煙としています。また，20歳未満の喫煙は法律で禁じられています。三軒茶屋キャンパスに通う学生としてマナーやルールを遵守してください。また，校舎周辺で，路上喫煙･違法駐車，駐輪等を行った場合，罰則が適用されます。こうしたトラブルを起こさないよう注意するとともに，地域住民と共に区の環境美化に努めるよう心掛けてください。

盗難防止

貴重品等，自分の所持品を教室などの施設内に放置したままにしないよう気をつけてください。特に財布や携帯電話などは常に身に付ける習慣をつけ，盗難や置き引きの被害に遭わないよう，自分の所持品に対する管理には，十分注意してください。

飲酒事故の防止

一気飲みによる急性アルコール中毒で，死に至ることも多々あります。ゼミナールやサークル活動等で，懇親会を催す場合は，十分に注意してください。特に，20歳未満の飲酒は厳禁です。20歳未満の者が飲酒した場合や20歳未満と知りつつ飲酒させた場合も，学則により厳しく処分する場合があります。

薬物（大麻・覚せい剤・麻薬等）犯罪防止

大学生の薬物，特に大麻所持や栽培，売買などによる逮捕者が増加しています。日本大学では，「違法薬物追放宣言」を出して違法薬物の入手，所持，使用や，譲渡，販売，製造について一切認めておりません。危険ドラッグ･覚せい剤など薬物の誘惑は，みなさんの身近に潜んでいます。薬物を拒否する強い意思を持つ学生として生活を送ってください。トラブルに巻き込まれ困った状況になる前に，ひとりで悩まず，教学サポート課に相談してください。

インターネットを利用する際の注意事項

SNS（Instagram，TikTok，Facebook，X（旧：Twitter），LINE，YouTube 等）や Web サイトのコメント欄等において，自分自身の不注意な書き込みにより社会的問題になるケースが多くあります。軽率な行動が不特定多数の人に閲覧され，書き込みの表現次第では，違法行為とみなされ予想外の誤解を与えたり，トラブルに巻き込まれるケースが増えております。さらには，他人や大学に多大な迷惑を及ぼす可能性があります。内容によっては，学則による懲戒処分の対象となる場合もありますので，利用においては十分に注意してください。

闇バイト等の悪質勧誘や詐欺への注意

安易な儲け話や，高額なアルバイト勧誘など，大学生を狙った詐欺やキャッチセールス，悪質な勧誘などによる被害が増えています。気軽に連絡先などを交換することが，そういった被害に遭うきっかけとなります。不審なことや，トラブルに巻き込まれたと感じたときは，教学サポート課や学生支援室に連絡してください。ひとりで悩まず，早期相談が早期解決へ導きます。また，不本意な加入・契約などをしてしまった時の相談は，以下の場所で受け付けています。

東京都消費生活総合センター

東京都新宿区神楽河岸 1-1　セントラルプラザ 16 階
架空請求　03-3235-2400
月曜～土曜日　9 時 00 分 ～ 17 時 00 分

世田谷区消費生活センター

東京都世田谷区太子堂 2-16-7　三軒茶屋分庁舎 3 階
tel. 03-3410-6522
月曜～金曜日　9 時 00 分 ～ 16 時 30 分（電話・来所）
土　曜　日　9 時 00 分 ～ 15 時 30 分（電話のみ）

宗教団体からの勧誘

校舎内等で「サークル活動」の勧誘を装い，自宅や下宿先などの連絡先を聞き出し，宗教団体の関係者に呼び出され，喫茶店などに連れ込まれ，話を聞いているうちに学生本人の了解を得ずに入会させられるという事例が頻繁に起きています。

いったん入会すると，脱会することが大変困難になり，悪質であると家族や友人まで巻き込んだ被害に発展する場合があります。万一，このような団体から強い勧誘活動を受けたり，被害を感じた場合は，速やかに教学サポート課へ連絡してください。

その他の注意事項

学内において，授業・研究及び業務の妨害となるデモ行為等は厳禁とします。

① 凶器，危険物に類する物品は，学内持ち込み厳禁とします。
② 大学の建物，机，椅子その他一切の備品，器具の保全に心掛けてください。これらを破壊・汚損したときは，補修費の弁済を求めることがあります。
③ 原則として，事前に届出のない印刷物（ビラ）等の配布・掲示は禁止します。
④ 学内に宿泊することはできません。
⑤ 宗教活動やキャッチセールス等の勧誘行為は一切禁止します。

三軒茶屋キャンパス

〒154-8513
東京都世田谷区下馬 3-34-1

（アクセス）

東急東横線「祐天寺」駅から東急バスで 10 分
東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅下車徒歩 10 分

（事務局等連絡先）

Tel.03-6453-1600（教学サポート課）　　Fax.03-6453-1630
03-6453-1700（管理マネジメント課）

教学サポート課

①授業・試験・成績に関すること
②学生生活に関すること
③奨学金に関すること
④就職に関すること
⑤入試に関すること
⑥図書に関すること

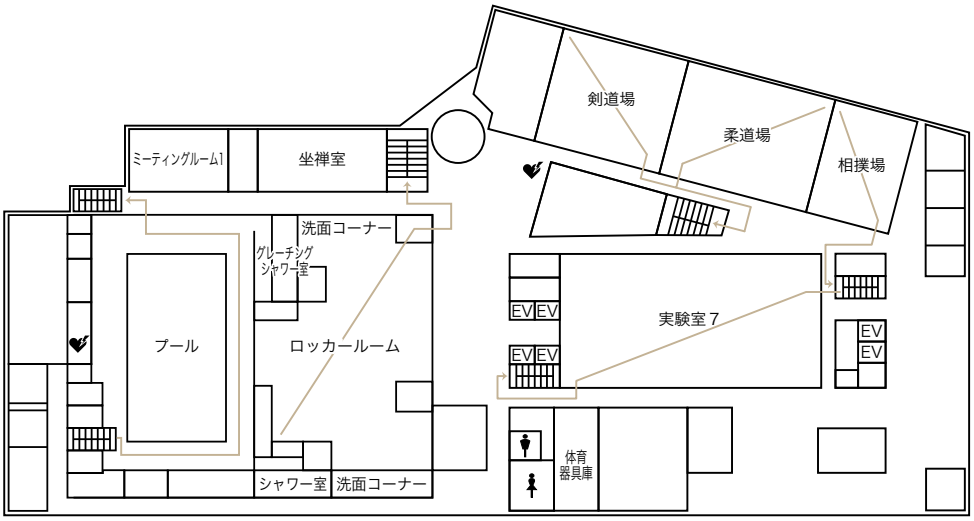
管理マネジメント課

①学費に関すること
②後援会に関すること
③校友会に関すること

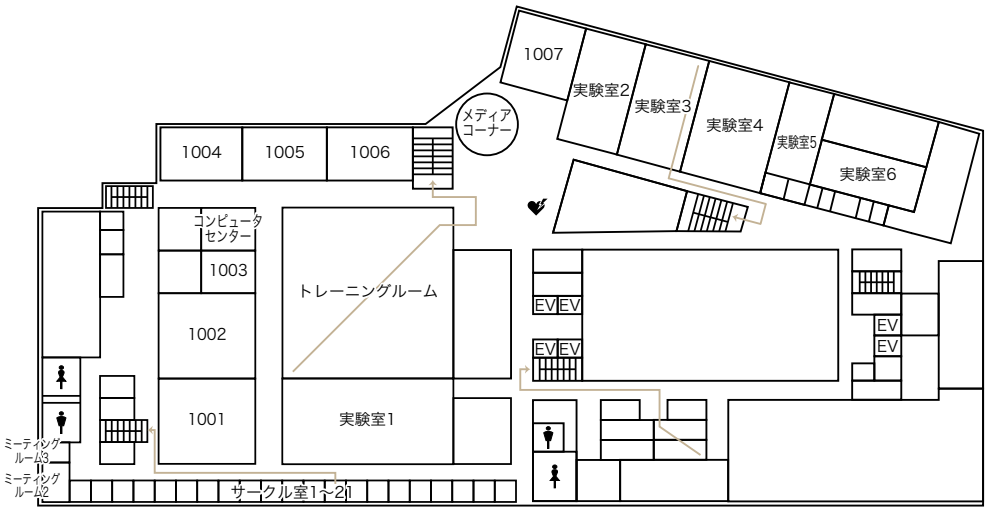
校舎見取図

（→ 避難経路）
（♥ AED）

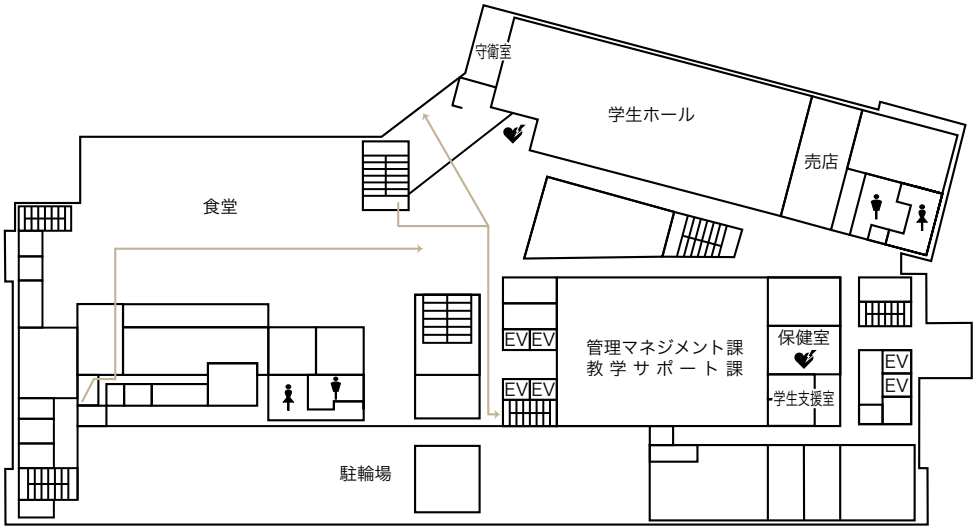
1号館【地下2階】



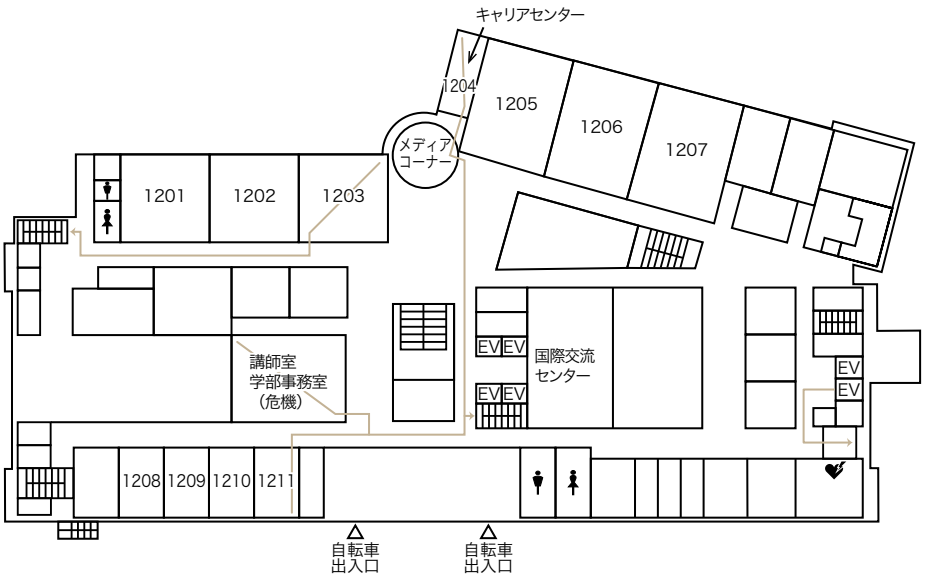
1号館【地下1階】



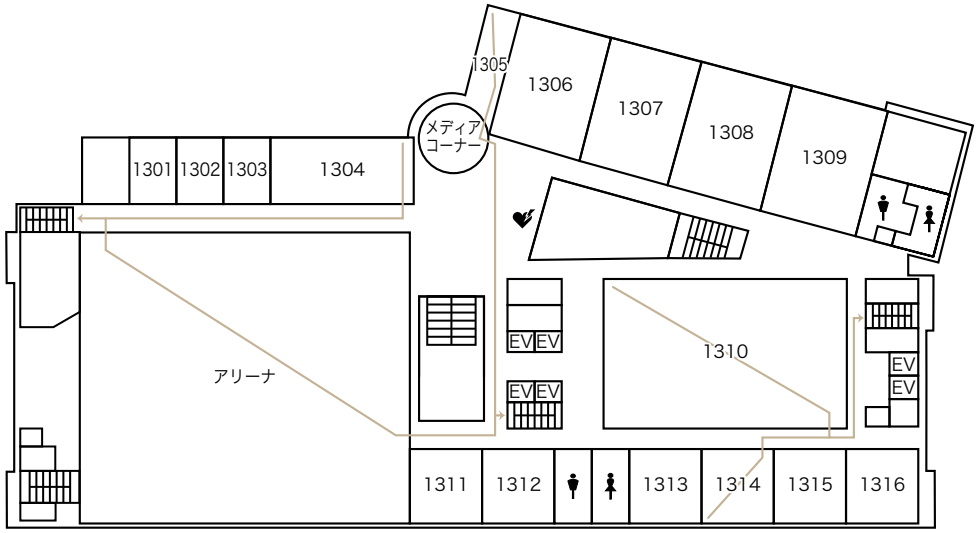
1号館【1階】


守衛室
学生ホール
売店
食堂
EV EV
管理マネジメント課
教 学 サ ポ ー ト 課
保健室
学生支援室
EV
EV
EV EV
駐輪場

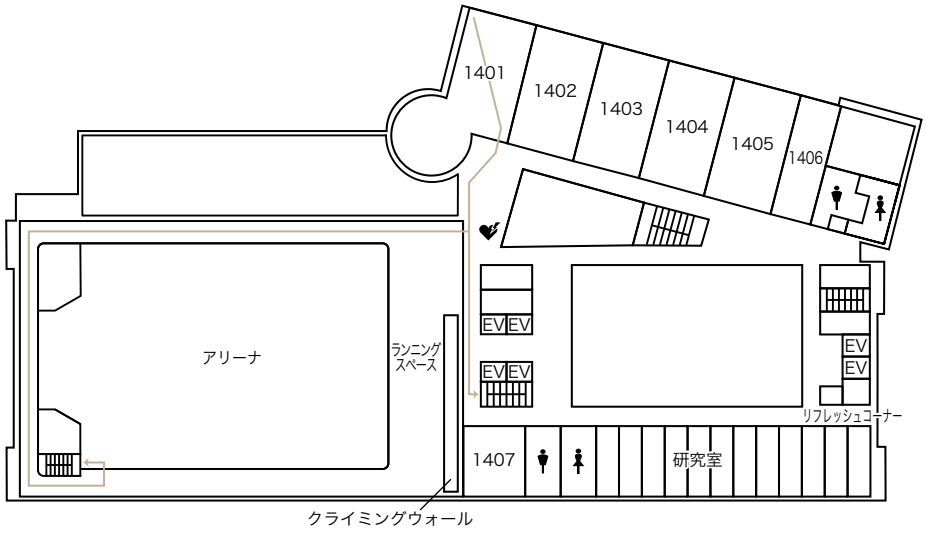
1号館【2階】


キャリアセンター
1204
1205
1206
1207
メディア
コーナー
1201
1202
1203
講師室
学部事務室
（危機）
EV EV
国際交流
センター
EV EV
EV
EV
1208
1209
1210
1211
自転車
出入口
自転車
出入口

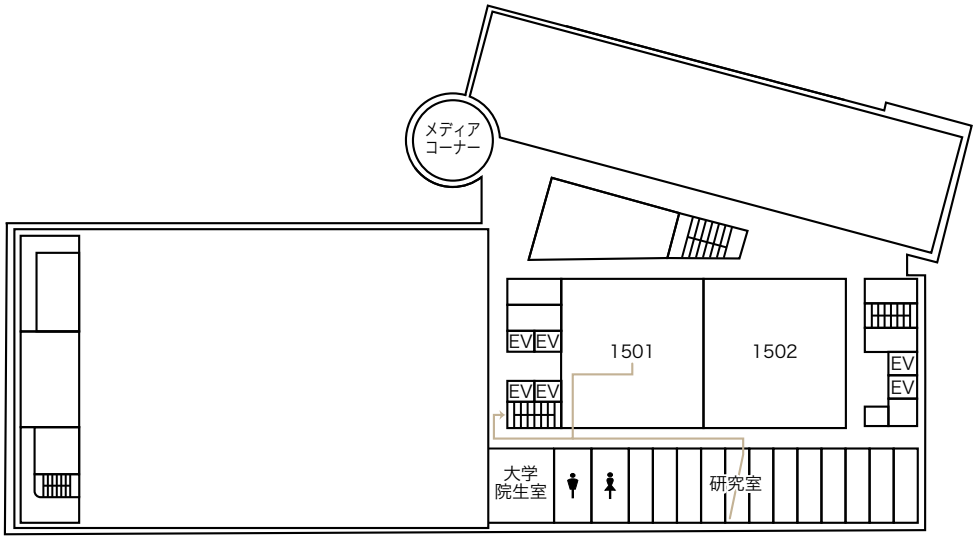
1号館【3階】


1305
1306
1307
1308
1309
メディア
コーナー
1301
1302
1303
1304
アリーナ
EV
EV
EV
EV
1310
EV
EV
1311
1312
1313
1314
1315
1316

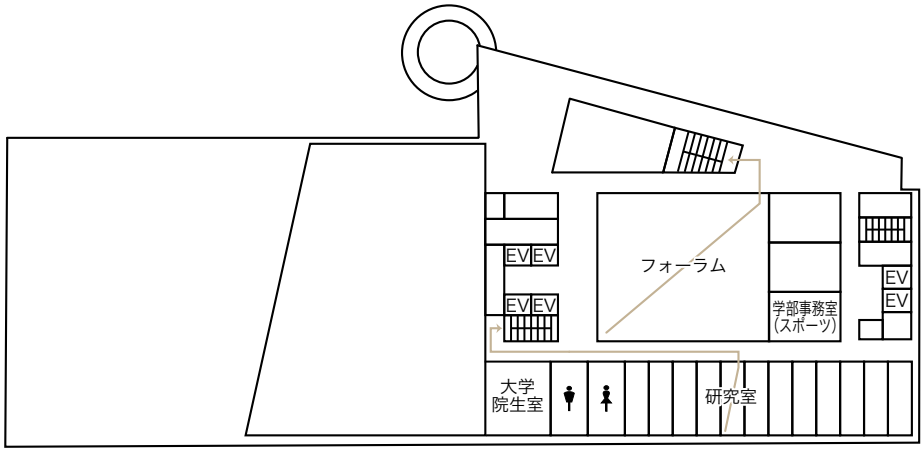
1号館【4階】


1401
1402
1403
1404
1405
1406
アリーナ
ランニング
スペース
EV
EV
EV
EV
EV
EV
リフレッシュコーナー
1407
研究室
クライミングウォール

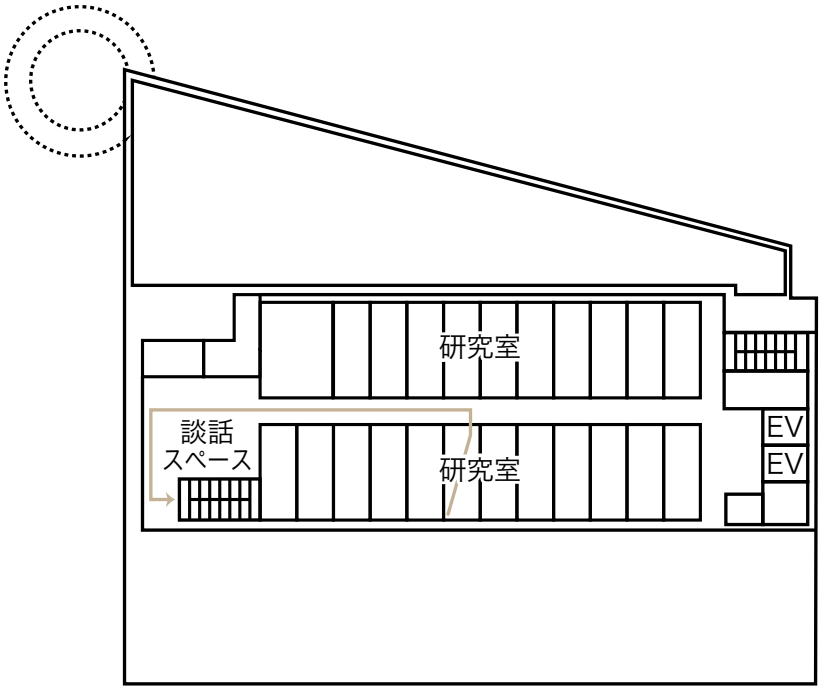
1号館【5階】


メディア
コーナー
EV
EV
EV
EV
1501
1502
EV
EV
大学
院生室
研究室

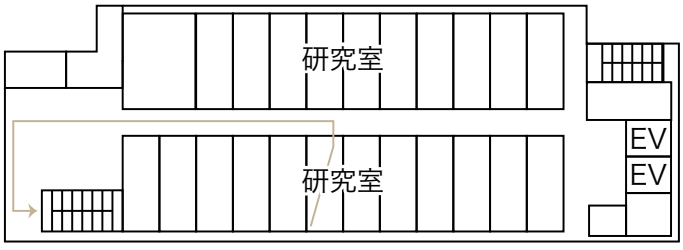
1号館【6階】


EV
EV
EV
EV
フォーラム
学部事務室
(スポーツ)
EV
EV
大学
院生室
研究室

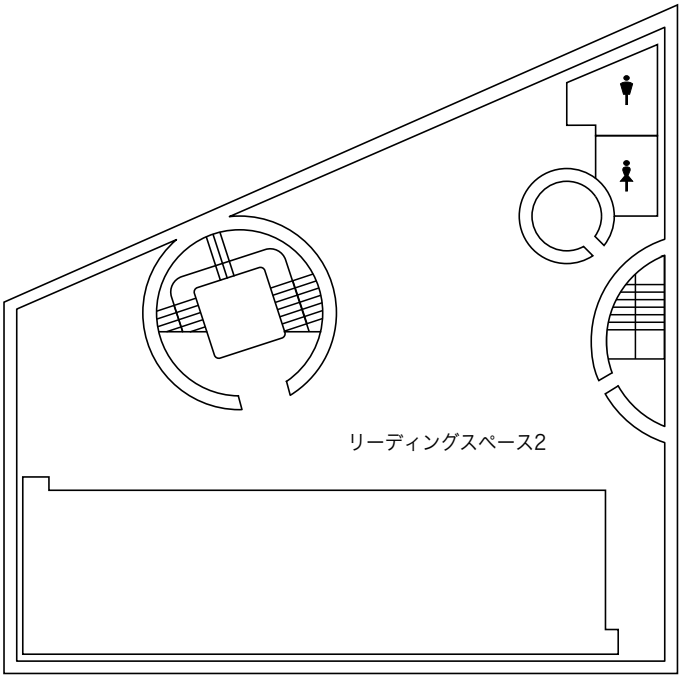
1号館【7階】



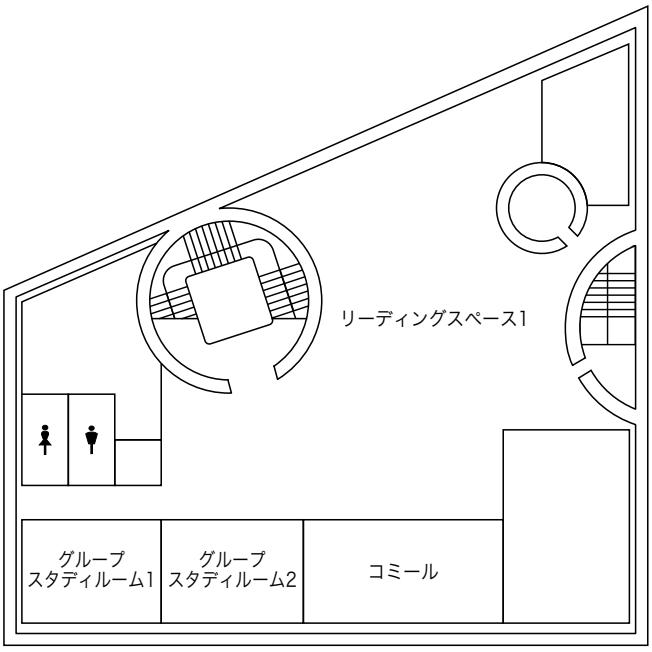
1号館【8階】



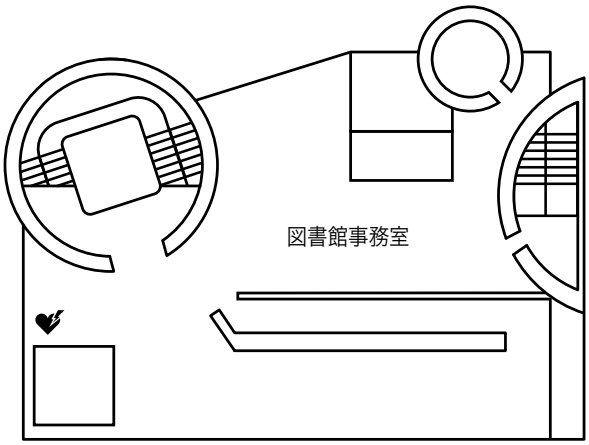
2号館【地下2階】



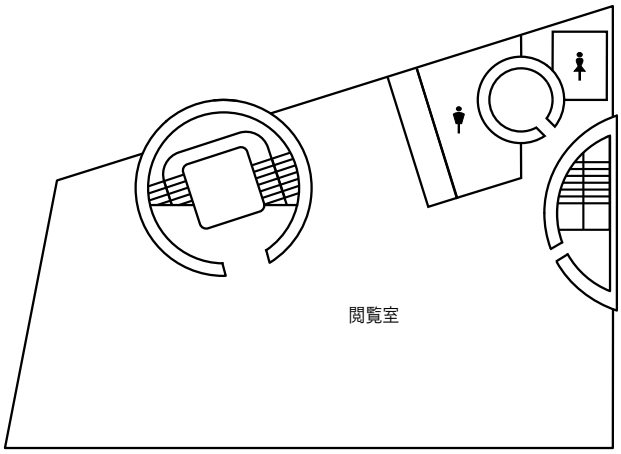
2号館【地下1階】



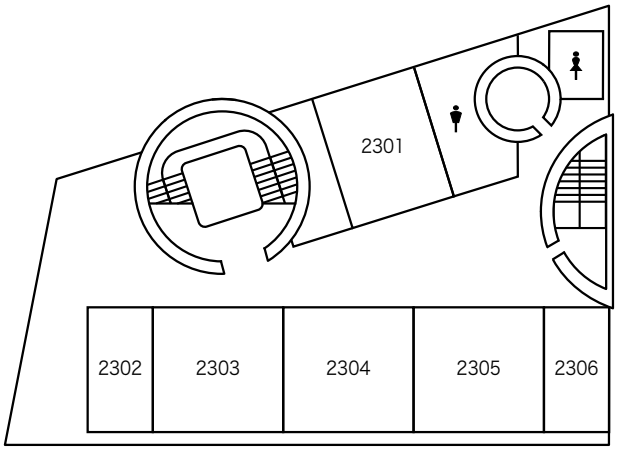
2号館【1階】



2号館【2階】



2号館【3階】



大地震発生時行動マニュアル

震度５弱以上の地震発生時には，このマニュアルを参考にして行動してください。
震度５弱の地震では，大半の人が恐怖を覚え，物につかまりたいと感じます。
棚にある食器類や本が落ちることがあります。
固定していない家具が移動することがあり，不安定なものは倒れることがあります。

1. 地震発生　大きな揺れは１分程度

☆まず，身を守る

●窓や棚のような，ガラスが割れたり中の物が飛び出しそうな物から離れる。
●机の下にもぐったり，バッグで頭を覆うなどして，落下物から頭と手足を守る。
●余裕があれば，ドアを開け出口の確保をする。
●落下物のない場所にいる場合には，その場に座り込んで揺れが収まるのを待つ。
※あわてて建物の外に出るのはかえって危険です。

2. 揺れがおさまったら

☆１～３分後

●非常脱出口の確保をする（ドアの開放）。
●すばやく火の始末をする。火が出たら，落ち着いて初期消火をする。
●ブレーカーを落とす。プラグを抜く。
●周囲の安全確認をする。倒れた物の下敷きになっている人がいないか確認する。
●エレベーターに乗っていた場合は，全階の停止ボタンを押す。

☆３～５分後

●余震に注意しながら，その場で待機する。学内では全館放送あるいは教職員による地震情報及び避難の安否について確認する。

3. 避難のしかた（学内の場合）

☆建物の状況により，避難指示は館内放送あるいは教職員が行います

●あわてず，騒がず，落ち着いて指示に従う。
●エレベーターは使用禁止です（炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する）。
●エレベーターに閉じ込められても自力での脱出は危険です。ドアが開くまで待機する。
●落下物・ブロック塀・自動販売機など倒れそうな機器などに注意する。
●ガラスなどの破片や頭上からの落下物にも注意することが必要です。

4. 落ち着いたら①　家族との安否確認

☆ NTT の災害伝言ダイヤル（171）

●録音する

171-1-（市外局番から被災地の方は自宅の番号，被災地以外の方は被災地の方の番号）-1#- 録音する -9#

●再生する

171-2- 市外局番から（市外局番から被災地の方は自宅の番号，被災地以外の方は被災地の方の番号）-1#- 再生する -9#

※録音時間は 30 秒です。

5. 落ち着いたら②　帰宅するのか，大学に残るのか

☆歩いて帰れる目安は 20km

●鉄道・道路・火災発生の状況について大学が情報の提供をします。

●帰宅するのも，二次災害に遭わないよう時差をつけて混雑を避けることも必要です。

●帰宅する前に，大学に届けを出してください。

●ルート情報を収集して，同じ方向に向かう人を探すなどをしてから行動します。

6. 落ち着いたら③　大学からの安否確認

☆ポータルサイトによる安否確認

●ポータルサイトに登録されているメールアドレスに大学から安否確認のメールが送信されるので，確認後，速やかに大学へ返信してください。

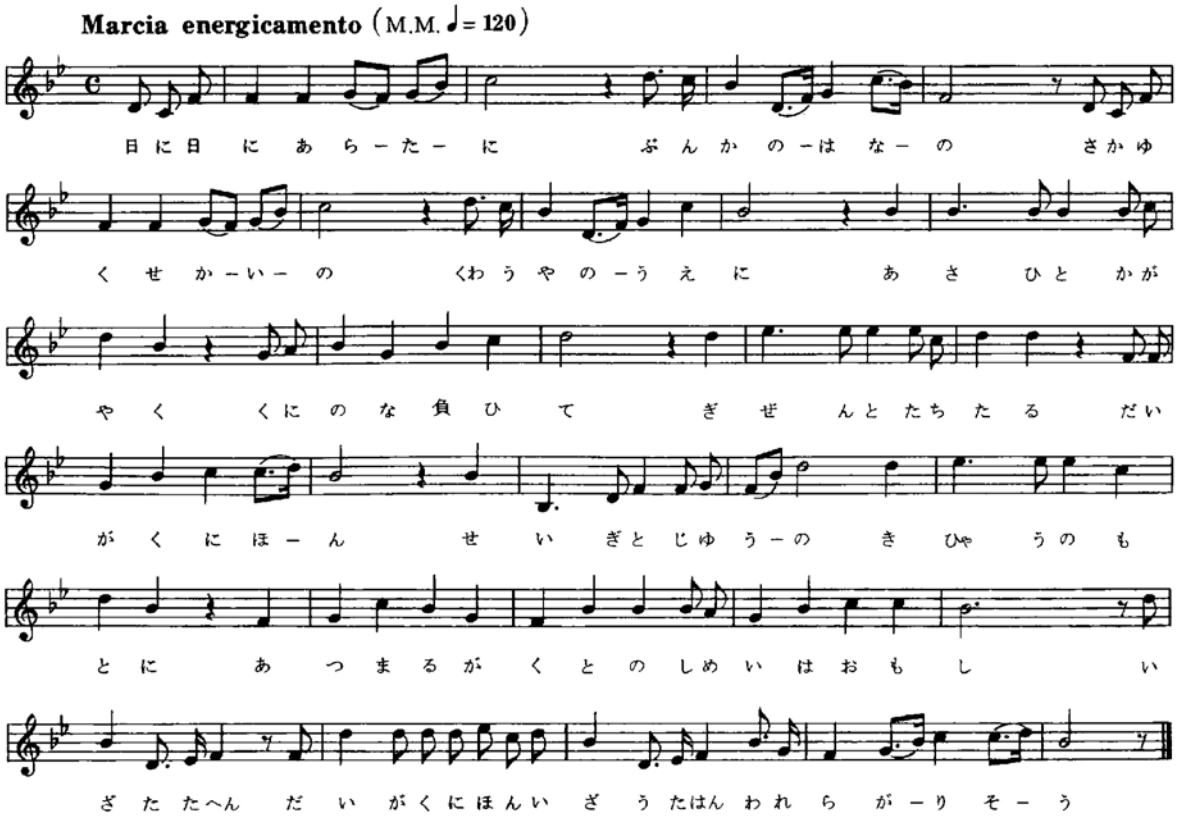
☆授業の再開等

●授業の再開等の情報は，ポータルサイトに登録されているメールアドレスに送信されるとともに，ホームページにも情報がアップされます。

付　録

日本大学校歌

相馬御風　作詞
山田耕筰　作曲



［山田耕筰全集第７巻（春秋社・昭和６年）より複写］

一，
日に日に新たに　文化の華の
さかゆく世界の　曠野の上に
朝日と輝く　国の名負いて
巍然と立ちたる　大学日本
正義と自由の　旗標のもとに
集まる学徒の　使命は重し
いざ讃えん　大学日本
いざ歌わん　われらが理想

二，
四海に先んじ　日いづる国に
富嶽とゆるがぬ　建学の基礎
栄ある歴史の　道一すじに
向上やまざる　大学日本
治世の一念　炎と燃ゆる
われらが行く手の　光を見よや
いざ讃えん　大学日本
いざ歌わん　われらが理想

日本大学学則（抜粋）

学年・学期及び休業日

第 13 条　学年は，毎年 4 月 1 日に始まり，翌年 3 月 31 日に終わる。

第 14 条　学期は，次のとおりとする。ただし，事情によって異なる場合がある。

前学期　4 月 1 日から 9 月 30 日まで

後学期　10 月 1 日から 3 月 31 日まで

第 15 条　休業日は，次のとおりとする。ただし，休業日でも特に授業又は試験を行うことがある。

① 日曜日

② 国民の祝日に関する法律に規定する休日

③ 本学創立記念日 (10 月 4 日)

④ 春季休業　3 月 11 日から 3 月 31 日まで

⑤ 夏季休業　7 月 11 日から 9 月 10 日まで

⑥ 冬季休業　12 月 21 日から翌年 1 月 10 日まで

2　休業日の変更及び臨時の休業日については，そのつどこれを定める。

入学・在学・転部・転科・転籍・休学・復学・留学・退学及び除籍

第 16 条　入学の時期は，学年の始め又は学期の始めとする。

第 20 条　修業年限とは，本大学の教育課程を修了するために必要な期間のことをいう。

2　在学年限とは，本大学において学生の身分を有することができる期間のことをいう。

3　修業年限は，最低 4 年とし，在学年限は，8 年とする。

第 22 条　転部とは，所属する学部とは異なる学部（通信教育部内を含む）へ異動することをいう。なお，法学部における第一部及び第二部間の異動についても転部とする。

2　転科とは，所属する学部の異なる学科へ異動することをいう。

3　転籍とは，通信教育課程を有する学部において，同一学部の通学課程と通信教育課程の間を異動することをいう。ただし，通学課程と通信教育課程の間で異なる学部への異動については，転部とする。

4　転部・転科及び転籍できる者は，次の各号に該当する資格を持つものとする。ただし，定員に余裕があり，かつ，在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り，選考の上，許可することがある。

① 本大学に在学中の者で，転部・転科及び転籍できる学部等が定める単位数を修得しているもの

② 人物及び在学中の成績が妥当な者

11　転部・転科及び転籍した場合，既修の授業科目は，異動した課程の定める基準の範囲内において認定することができる。

第 25 条　休学とは，病気その他やむを得ない事由により，3 か月以上修学できない状態のことをいう。

2　復学とは，休学期間満了によって，再び修学することをいう。

3　休学しようとする者は，その事実を証明する書類を添え，保証人連署で願い出て，その許可を得て原則として入学年度を除き，休学することができる。ただし，入学年度の後学期については，修学困難な事由の場合は認めることがある。

4　休学期間は，1 学期又は 1 年とし，通算して在学年限の半数を超えることができない。

5　休学者は，その事由が解消された場合，保証人連署で願い出て，許可を得て復学することができる。

6　休学者は，学期の始めでなければ復学することができない。

7　休学期間は，在学年限に算入し，修業年限には算入しない。

第 27 条　留学とは，本大学が教育上有益と認めたときは，休学することなく，外国の大学において，許可を得て一定期間修学することをいう。

2　留学の期間は，修業年限に算入する。

第 28 条　退学とは，在学の中途において在籍関係を解除することをいう。退学には，その手続により，次のものがある。

①　病気その他やむを得ない事由による，学生の意志に基づく願い出によるもの。ただし，その事実を証明する書類を添え，保証人連署で退学願を提出して，許可を受けなければならない。

②　学生が死亡したことによる，保証人からの届出によるもの

③　第 30 条に基づく除籍によるもの

④　第 76 条及び第 77 条に基づく懲戒によるもの

2　第 36 条に基づく年度のGPAが 1.50 未満で，修学指導の結果，改善が見込まれないと判断した場合は，退学勧告を行う。

第 30 条　除籍とは，学生の帰すべき事由により在籍関係を強制的に解除し，退学させることをいう。

2　次の各号のいずれかに該当する者は，除籍することができる。

①　故なくして学費の納付を怠った者

②　故なくして欠席が長期にわたる者

③　在学年限を超えた者

第 31 条　（削除）

履修規定

第 32 条　各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により計算するものとする。また，教育上必要と認められる場合には，修得すべき単位の一部の修得について，これに相当する授業時間の履修をもって代えることができる。

①　講義及び演習については，15 時間から 30 時間までの範囲で学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

②　実験，実習及び実技については，30 時間から 45 時間までの範囲で学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって 1 単位とする。ただし，芸術学部における個人指導による実技の授業については 15 時間の授業をもって 1 単位とする。

③　講義，演習，実験，実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合については，その組み合わせに応じ，前 2 号に規定する基準を考慮して学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

2　前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究，卒業制作等の授業科目については，これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第 32 条の 2　前条に規定する講義，演習，実験，実習又は実技による授業は，文部科学大臣が別に定めるところによって，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第 33 条　教育職員の免許状を得ようとする者は，別に定める規定によって教職課程を履修しなければならない。

第 34 条　学業成績は，授業科目ごとに行う試験によって，これを定める。ただし，授業科目によっては，その他の方法で査定することができる。

2　試験には，平常試験・定期試験・追試験及び再試験がある。

①　平常試験とは，当該授業科目履修者を対象に授業科目担当教員が学期の途中に適宜行う試験のことをいう。

②　定期試験とは，当該授業科目履修者を対象に大学の定めた試験期間中に行う試験のことをいう。定期試験は学期末又は学年末に行う。

③　追試験とは，やむを得ない事由のため定期試験を受けることのできなかった者のために行う試験のことをいう。

④　再試験とは，受験の結果不合格となった者のために行う試験のことをいう。

3　追試験及び再試験は，当該学部において必要と認めたときに限り，これを行う。

第 35 条　修学についての所定の条件を備えていない者は，受験資格を失うことがある。

第 37 条　各学部を卒業するために必要な最低単位数は，第 2 章教育課程及び履修方法に定めるところによる。

2　学生が許可を受けて在籍する学部以外の学部で履修した授業科目の単位については，当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3　前項に定める授業科目の履修については，別に定める。

4　学生が許可を受けて他の大学，専門職大学，短期大学又は専門職短期大学で履修した授業科目の単位については，当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

卒業及び学士の学位

第 38 条　第 20 条に定めた修業年限に達し，所定の授業科目及び単位を修得し，卒業した者に学士の学位を授与する。

第 39 条　前条の学位に付記する専攻分野の名称は次のとおりとする。

危機管理学部　危機管理学科　危機管理学　スポーツ科学部　競技スポーツ学科　スポーツ科学

学費及び貸給費

第 40 条　授業料その他所定の学費は，別表 2 の定めるところにより納付するものとする。

2　編入学・再入学・転部・転科及び転籍の学費の取扱いについては，別に定める。

3　休学及び留学を許可された学生の休学及び留学期間中の学費の取扱いについては，別に定める。

第 41 条　授業料を分納しようとする者は，事由を述べた書面により，保証人連署で願い出るものとする。

第 42 条　証明手数料等については別表 3 の定めるところにより納付するものとする。

第 43 条　既納の学費は，いかなる理由があっても返還しない。

第 44 条　停学を命ぜられた学生は，停学期間中も授業料を納付しなければならない。

第 45 条　学業人物ともに優秀な学生であって，学費支弁の方法のない者には，学費を減免し，又は貸与・給付することがある。

2　減免・貸給費については，別に定める。

賞罰

第 75 条　人物及び学業成績が優秀な者には，授賞することがある。

2　授賞に関する規定は，別に定める。

第 76 条　学生が本大学の規則・命令に背き若しくは大学の秩序を乱し，又は学生としての本分に反する行為があった場合にはその情状によって懲戒を行うことがある。

第 77 条　懲戒は，退学・停学及び訓告の 3 種とする。

2　前項の退学は，次の各号のいずれかに該当する者について行う。

①　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

②　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

③　正当の理由がなくて出席常でない者

④　大学の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者

3　停学とは，一定期間，授業の受講及び施設設備の利用等を禁止し，その他の課外活動等についても禁止することをいう。

4　訓告とは，文書で戒めることをいう。

5　懲戒の手続に関する規定は，別に定める。

令和 8 年 4 月現在

三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル

slim

Sangenjaya Learning Initiative Manual

三軒茶屋キャンパスにおける「学び」の深化

自　主　創　造

日本大学危機管理学部

2026年度版

三軒茶屋キャンパス学務委員会

目　次

三軒茶屋ラーニング・イニシアティブとマニュアル『slim』…… i
　1　三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ（ＳＬＩ）
　2　ＳＬＩ推進の背景 ― 大学における「学び」の変質
　3　ＳＬＩの内容とマニュアル（slim）
コンピテンス・ルーブリック総括表 …… vi
Ａ１　グローバル感覚（Global Thinking） …… viii
Ａ２　異文化適応（Intercultural Competence） …… ix
Ｂ１　自己啓発（Self-Development） …… x
Ｃ１　倫理的思考・社会認識（Ethical Thinking and Social Recognition） …… xi
Ｄ１　市民的素養と参加（Civic Knowledge and Engagement） …… xii
Ｅ１　学識と専門技能（Discipline Knowledge and Skills） …… xiv
Ｆ１　探究と論拠（Inquiry and Evidence） …… xvi
Ｆ２　課題解決（Problem Solving） …… xvii
Ｇ１　状況把握（Situation Assessment） …… xviii
Ｈ１　論理的思考（Logical Thinking） …… xx
Ｈ２　批判的思考（Critical Thinking） …… xxi
Ｉ１　理解・分析と読解（Comprehension and Analysis in Reading） …… xxii
Ｉ２　量的分析（Quantitative Literacy） …… xxiii
Ｉ３　情報分析（Information Analysis） …… xxiv
Ｊ１　継続的学修基盤（Life-Long Learning Skills） …… xxv
Ｊ２　創造的思考（Creative Thinking） …… xxvi
Ｋ１　ライティング・コミュニケーション（Written Communication） …… xxvii
Ｋ２　オーラル・コミュニケーション（Oral Communication） …… xxviii
Ｌ１　チームワーク（Teamwork） …… xxix
Ｍ１　統合的・応用的学修（Integrative and Applied Learning） …… xxx
履修系統図（カリキュラムマップ）
　・総合教育科目
　・危機管理学部 専門科目
能力開発と授業科目
　・危機管理学部

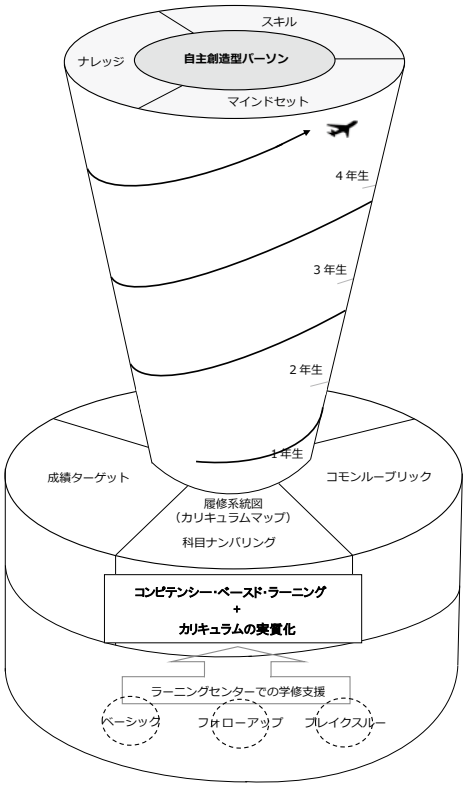
三軒茶屋ラーニング・イニシアティブとマニュアル『slim』

1　三軒茶屋ラーニング･イニシアティブ（ＳＬＩ）

三軒茶屋キャンパス（危機管理学部とスポーツ科学部）での「学び」は，ナレッジ（学識），スキル（技能），マインドセット（思考態度）を高度にバランスさせることを目指し，

①履修系統図（カリキュラムマップ）と科目ナンバリングの施行
②コモンルーブリックの採用
③成績ターゲットの導入
④ラーニングセンターの設置

による「三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ(Sangenjaya Learning Initiative，ＳＬＩ)」として一体的な取組を行い，４年間の学修の進捗を確保し，「知識基盤社会」を生き抜く力を備え，自主創造の気風に富んだ人材，「自主創造型パーソン」を育成します。



ＳＬＩに基づく４年間の「学び」

2　ＳＬＩ推進の背景 ― 大学における「学び」の変質

三軒茶屋キャンパスがＳＬＩを推進しようとする背景には，大学における「学び」の質が，近年大きく変わろうとしていることがあります。

平成 17 年１月の中央教育審議会（答申）「我が国の高等教育の将来像」では，新しい知識・情報・技術が次々と生まれ，政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域を急速に変革させていく「知識基盤社会」の到来を宣言しています。このような時代にあって，大学は社会の激しい動きに適応し，次代を切り開くための能力開発を行う場として，機能を一層強化することが求められています。もはや定型的な知識は急速に陳腐化することが避けられないために，そこで求められるのは，新たな知識を獲得するための知識（メタ知識）を伴った，高度であるとともに汎用的な知力「学識（ナレッジ)」の修得だと考えられます。思考力，分析力のような，専門知識と融合した「専門的技能（スキル)」の充実はもちろんのこと，芯となる「思考態度（マインドセット)」，すなわち信念，心構え，価値観や判断基準の確立も欠かすことができません。このように，大学での学びは，「何を学んだか」から「何ができるのか」に，変わろうとしているのです。これを，コンピテンシー・ベースド・ラーニング（Competency-based Learning）またはアウトカム・ベースド・ラーニング（Outcome-based Learning）と呼びます。

3　ＳＬＩの内容とマニュアル（slim）

三軒茶屋キャンパスの２学部はともに，コンピテンシー・ベースド・ラーニングの要請を正面から受け止め，またカリキュラムを実質化して一歩先の学びを実践すべく，ＳＬＩを採用しています。本冊子，「三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル（slim)」は，学びの当事者である学生と教員とがこれを通じて互いに向き合い，授業の目標や成績評価の仕組みを正確に理解し，共有して，新しい「学び」を実現していくミラーイメージ（鏡像）となるべく編まれました。ＳＬＩの各取り組みの概要を，以下に説明します。

1）履修系統図と科目ナンバリング

履修系統図（カリキュラムマップ）とは，カリキュラムを俯瞰し，授業科目の体系性や順次性を明らかにしたものです。授業科目を分類し，年次進行に伴う科目の段階的履修に指針を与えるとともに，開発能力（コンピテンス）をカリキュラム全体，及び各科目に対応させ，それらの履修によって「何ができる（ようになる）のか」を明示しています。また，「科目ナンバリング」をも付加し，科目属性の一覧性を高めています。

科目ナンバリングは，各授業科目に固有の番号を割り当てたもので，ＲＭＧＴ（危機管理学部危機管理学科），ＳＳＣＳ（スポーツ科学部競技スポーツ学科）を略記した英字４字の開講学科表記に続き，数字４桁で構成されます。先頭数字 (b) は概ね学年進行に対応し，以下，科目小分類 (c)，管理番号 (d) と続きます。なお，一番右のＳは新カリキュラムのＳになります。

例）　危機管理学部危機管理学科
１年次配当専門基幹科目
「レジリエンス」

RMGT 1 3 0 1
(b)(c) (d)

スポーツ科学部競技スポーツ学科
1 年次配当専門基礎科目
「競技スポーツ原論」

SSCS 1 3 0 1
(b)(c) (d)

科目ナンバリングの構造

科目大分類 (a)（危機管理学部危機管理学科・スポーツ科学部競技スポーツ学科共通）			
リベラルアーツ		専門	
科目中分類（b）			
1000 シリーズ	総合基礎カテゴリ（主として１・２年次配当のリベラルアーツ・専門科目）		
2000 シリーズ	危機の専門基幹カテゴリ（主として２・３年次配当の専門科目） スポーツの専門基礎カテゴリ（主として２・３年次配当の専門科目）		
3000 シリーズ	危機の専門展開カテゴリ（２～４年次配当の専門科目） スポーツの専門応用カテゴリ（３・４年次配当の専門科目）		
4000 シリーズ	専門統合カテゴリ（３・４年次配当の演習科目）		
科目小分類（c）			
危機管理学部		スポーツ科学部	
1 文化教養	6 専門統合・演習	1 文化教養	6 専門：マネジメント･文化
2 リテラシー	7 語学	2 リテラシー	7 専門統合・演習
3 専門基礎	8 留学・海外研修	3 専門基礎	8 語学・留学・海外研修
4 専門・法学	9 キャリア	4 専門：アスリート	9 キャリア
5 専門・危機管理		5 専門：サポート	
(d) 科目管理番号（危機管理学部危機管理学科・スポーツ科学部競技スポーツ学科共通）			
２桁表記，開講期順，系統ごと 10 の位を繰り上げ			

2）コモンルーブリック

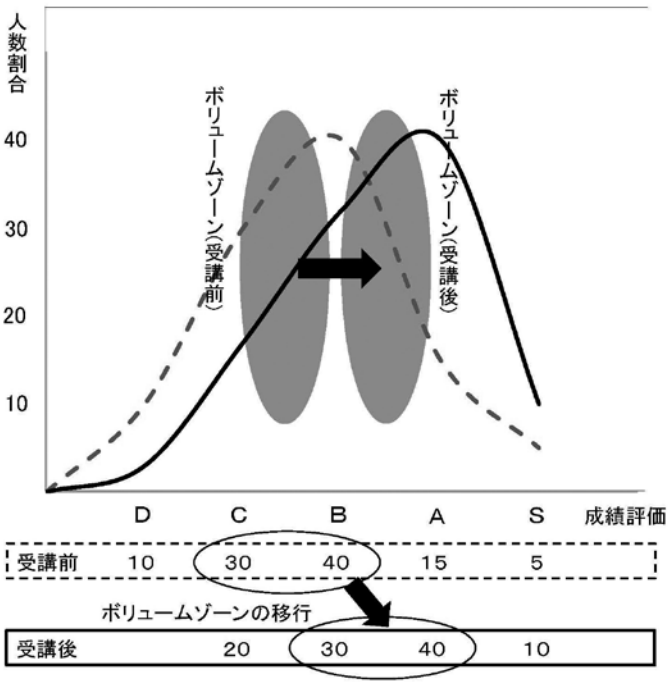
ルーブリックとは，学修の評価基準を「観点」と「尺度」で表記したものです。授業科目で個別的に用いられるものもありますが，カリキュラムを通じて科目横断的に用いる場合には，コモンルーブリックと呼びます。ＳＬＩでは，コモンルーブリックを採用し，学生には，成績評価にあたりどのような点についてどのようなレベルの成果が求められるのかを統一的な指標に基づき予め知ることにより，明確な目標を持って受講することができるようにしています。また，教員からみても，開発能力の内容が科目・教員間で共有されるとともに，統一的な能力認定が可能となります。

まず，履修系統図をみて，各授業科目に対応するコンピテンスＡ～Ｍを確認します。当該コンピテンスにかかる成績評価は，対応するルーブリックに則って行われます。これらの関係は，「コンピテンス・ルーブリック総括表」（p.vi 参照）に整理されています。次に，成績評価に用いられるＡ１～Ｍ１の個別ルーブリックを参照します。縦に評価の「観点」が，横に評価の「尺度」が，それぞれ表されています。観点のうち実際に適用されるものの範囲は，授業科目の担当教員から指示を受けてください。通常，授業科目は複数のルーブリックに対応しており，成績評価におけるそれらのウエイトはシラバスで指示されています。最後に，尺度となる「能力開発段階」に応じ，成績評価にあたって要求される水準を確認します。「初期」，「進行期」と期を追うごとに内容は高度化していきます。後述の「成績ターゲット」フレームから，当該科目における期待値を十分に検討した上で，受講するようにします。学期中，時にはルーブリック全体を概観し，完成期において要求される能力を，自分の現状と照らしあわせて考えることを勧めます。

3）成績ターゲット

全学的に導入されている成績関連制度に，ＧＰＡ（Grade Point Average）があります。これを意味あるものとするには，成績評価の厳格化と平準化が必要になります。前者に対応するのが，統一的な能力認定基準表としての「コモンルーブリック」であり，後者に対応するものが「成績ターゲット」です。

「成績ターゲット」は，科目ナンバリングによって表記されるカリキュラム上の位置付けに対応して，当該授業科目においてボリュームゾーンに属する受講学生が到達すべき能力開発段階を，コモ



形成的評価後の成績評価イメージ

ンルーブリック上に表示したものです。教員は，学生がこの目標を達成できるように授業を構築し，学生は目標に到達できるよう予習･復習を含めた学修を進めることになります。「成績ターゲット」は，自分自身が集団内のどのポジションにあるかを結果ベースで測る相対評価とも，一定の学力水準への到達度を結果ベースで測る絶対評価とも異なる，ＳＬＩのオリジナルな目標設定方式です。教員と学生とが目標を共有し，いわゆる「形成的評価」に参加してこれに近づく努力を積み重ねることにより，受講学生のボリュームゾーンが，コンピテンス充足の中身を伴ったかたちで，より高いレベルに移行することが意図されています。

4）シラバス，コモンルーブリック，成績ターゲットの関係

履修系統図（カリキュラムマップ）で，専門科目の中核的なコンピテンスとして割り当てられているのが，「E1　学識と専門技能」です。これを例にとり，コモンルーブリックをどのように活用するのか，実際に考えてみましょう。

皆さんは，「ロジスティクス（RMGT1303)」を履修するとします。この科目のシラバスの「科目の位置付け（開発能力)」の欄をみると，CR コードにこの科目で狙いとする３つの開発能力が示されています。つまり，この科目では「E1　学識と専門技能」が 60 パーセント，「I1　理解・分析と読解」が 30 パーセント，「I2　量的分析」が 10 パーセントのウエイトを占めていることが分かります。

そこで今度は，「三軒茶屋ラーニング・イニシアティブ・マニュアル（slim)」の「E1　学識と専門技能」のルーブリックを参照します。Ｅ１の縦軸［能力要素］の［要素細目］では，「自律システム思考」「メタ認知」などの多少難しい表現が用いられていますが，物事を理解し知識として取り込んで使える頭のなかでの作用は，対象に興味をもつことからはじまります 1 。次にはそれがどう活かせそうなのか考えをめぐらし 2 ，抽象化や具体化によって，自己の過去の経験や知識と関連付けて定着させ 3 ，最後に具体的な問題解決に活用する 4 ，というような一定の構造・プロセスをもっています。各専門科目の学修にあたっては，知識の概念を把握するということだけでなく，その知識を現実の問題の中で活用することで，学びの深さが変わってくると考えられています。

他方横軸は，上記の各プロセスがどの程度動いているか評価するためのスケールです。皆さんは，このスケールを自己評価に用いることで，開発が十分であるかどうか気付くことができます。教員はこのスケールを成績評価に用います。この際，皆さんも教員も，注意すべき点があります。それは当該科目のカリキュラム全体における位置付けです。「RMGT1303」の科目ナンバーが示すとおり（p.ii 参照)，この科目は１年次に配当される基幹科目であり，能力開発のゴールではなく，深化発展の途中に配置された科目だということです。そのため，この科目の履修段階で成績評価に用いられるべきスケールは，１萌芽期，２進行期，３発展期，４定着期のうちの２～３レベルでもって，一応十分といえます。そこで，２レベルの能力指標を示していればＡ評価，少なくとも３レベルの能力指標を示していればＳ評価が与えられることになります。もちろん，４レベルの能力指標を充足することが最終目標であり，科目ナンバーが３から始まる高年次の配当科目ではレベルアップし，スケールのうち３～４レベルが，満足されるべき程度となります。このような，カリキュラム中の位置付けが反映して当該科目における評価スケールがスライドする仕組みを「成績ターゲット」といいます。

RMGT 1303 ロジスティクス

シラバス

科目の位置付け（開発能力）	■DPコード　学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP１－E　〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践智 DP４－Ｉ　〔理解力・分析力〕文章表現・数値データを適切に扱 ■CRコード　学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・ Ｅ１　学識と専門技能（60%） Ｉ１　理解・分析と読解（30%） Ｉ２　量的分析（10%）

コモンルーブリック

E1

学識と専門技能 (Discipline Knowledge and Skills)

専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase) 1 萌芽期 Beginning	2 進行期 Developing	3 発展期 Proficient	4 定着期 Exemplary
				成績ターゲット1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	自律システム思考 Self-System Thinking	自ら，当事者として，具体的な課題に取り組み，理論知と実践知の獲得と利用を行って解決していくかどうかを決定する思考（知識を獲得するモチベーション）を自覚的に生成させる思考）。	以下の自律システム思考の要素について，表面的な理解を示している。 ・知識獲得の重要性を判断する（重要性の検討）。 ・能力向上や知識理解に関する自らの能力を判断する（有効性の検討）。 ・知識に対する感情的反応とその理由を判断する(感情の検討)。 ・能力向上や知識理解に対するすべての動機を判断する（意欲の検討）。	以下の自律システム思考を，具体的な文脈で示しはじめている。 ・知識獲得の重要性を判断する（重要性の検討）。 ・能力向上や知識理解に関する自らの能力を判断する（有効性の検討）。 ・知識に対する感情的反応とその理由を判断する(感情の検討)。 ・能力向上や知識理解に対するすべての動機を判断する（意欲の検討）。	以下の自律システム思考を，具体的な文脈で明確に表現している。 ・知識獲得の重要性を判断する（重要性の検討）。 ・能力向上や知識理解に関する自らの能力を判断する（有効性の検討）。 ・知識に対する感情的反応とその理由を判断する(感情の検討)。 ・能力向上や知識理解に対するすべての動機を判断する（意欲の検討）。	以下の自律システム思考を，具体的な文脈で繰り返し表現し，洗化している。 ・知識獲得の重要性を判断する（重要性の検討）。 ・能力向上や知識理解に関する自らの能力を判断する（有効性の検討）。 ・知識に対する感情的反応とその理由を判断する(感情の検討)。 ・能力向上や知識理解に対するすべての動機を判断する（意欲の検討）。
Ⅱ	メタ認知 Metacognition	目標の具体化，プロセスモニタリング，明瞭性と正確性のモニタリングを行って，理論知と実践知の獲得と利用を制御していく思考（知識を獲得する合理的な方策を自覚的に生成する思考）	以下のメタ認知の要素について，表面的な理解を示している。 ・知識に関係する目標を設定し，そのための計画を策定する(目標の具体化)。 ・知識に関する目標の実行をモニタリングする（プロセス・モニタリング）。 ・知識の明確性を評価する（明確性モニタリング）。 ・知識の正確性を評価する（正確性モニタリング）。	以下のメタ認知を，具体的な文脈で示しはじめている。 ・知識に関係する目標を設定し，そのための計画を策定する(目標の具体化)。 ・知識に関する目標の実行をモニタリングする（プロセス・モニタリング）。 ・知識の明確性を評価する（明確性モニタリング）。 ・知識の正確性を評価する（正確性モニタリング）。	以下のメタ認知を，具体的な文脈で明確に表現している。 ・知識に関係する目標を設定し，そのための計画を策定する(目標の具体化)。 ・知識に関する目標の実行をモニタリングする（プロセス・モニタリング）。 ・知識の明確性を評価する（明確性モニタリング）。 ・知識の正確性を評価する（正確性モニタリング）。	以下のメタ認知を，具体的な文脈で繰り返し表現し，洗化している。 ・知識に関係する目標を設定し，そのための計画を策定する(目標の具体化)。 ・知識に関する目標の実行をモニタリングする（プロセス・モニタリング）。 ・知識の明確性を評価する（明確性モニタリング）。 ・知識の正確性を評価する（正確性モニタリング）。
Ⅲ	知識の取り出し Retrieval	外部的な情報を感知し，内部的な記憶と関連付けて，作業記憶（ワーキングメモリ）上で操作し，理論知と実践知を確立しようとする思考（認知システム。知識を実際に獲得するための思考）の第一段階。	以下の知識の取り出しの要素について，表面的な理解を示している。 ・情報の特徴を単純に認識する（再認）。 ・情報の特徴を単純に再現する（再生）。 ・文脈や意義を無自覚に，情報を用いる（実行）。	以下の知識の取り出しを，具体的な文脈で示しはじめている。 ・情報の特徴を単純に認識する（再認）。 ・情報の特徴を単純に再現する（再生）。 ・文脈や意義を無自覚に，情報を用いる（実行）。	以下の知識の取り出しを，具体的な文脈で明確に表現している。 ・情報の特徴を単純に認識する（再認）。 ・情報の特徴を単純に再現する（再生）。 ・文脈や意義を無自覚に，情報を用いる（実行）。	以下の知識の取り出しを，具体的な文脈で繰り返し表現し，洗化している。 ・情報の特徴を単純に認識する（再認）。 ・情報の特徴を単純に再現する（再生）。 ・文脈や意義を無自覚に，情報を用いる（実行）。
Ⅳ	知識構造理解 Comprehension	外部的な情報を感知し，内部的な記憶と関連付けて，作業記憶（ワーキングメモリ）上で操作し，理論知と実践知を確立しようとする思考（認知システム。知識を実際に獲得するための思考）の第二段階。	以下の知識構造の要素について，表面的な理解を示している。 ・知識の基礎構造を明確にし，重要な特徴と重要でない特徴を対比的に示す(統合)。 ・知識を正確に象徴化し，重要な要素とそうでない要素とを区別する（象徴化）。	以下の知識構造について，自己の理解を具体的な文脈で示しはじめている。 ・知識の基礎構造を明確にし，重要な特徴と重要でない特徴を対比的に示す(統合)。 ・知識を正確に象徴化し，重要な要素とそうでない要素とを区別する（象徴化）。	以下の知識構造について，自己の理解を具体的な文脈で明確に表現している。 ・知識の基礎構造を明確にし，重要な特徴と重要でない特徴を対比的に示す(統合)。 ・知識を正確に象徴化し，重要な要素とそうでない要素とを区別する（象徴化）。	以下の知識構造について，自己の理解を具体的な文脈で繰り返し表現し，洗化している。 ・知識の基礎構造を明確にし，重要な特徴と重要でない特徴を対比的に示す(統合)。 ・知識を正確に象徴化し，重要な要素とそうでない要素とを区別する（象徴化）。
Ⅴ	知識分析 Analysis	外部的な知識を感知し，内部的な記憶と関連付けて，作業記憶（ワーキングメモリ）上で操作し，理論知と実践知を確立しようとする思考（認知システム。知識を実際に獲得するための思考）の第三段階。	以下の知識分析の要素について，表面的な理解を示している。 ・知識の内容について，重要な異同を指摘する（比較）。 ・知識における上位・下位のカテゴリを指摘する（分類）。 ・知識についての説明や知識の活用についての誤りを指摘する（エラー分析）。 ・知識に基づいて，新たな一般概念や原理を構成する(一般化)。 ・知識を適用したり論理的結論を導いたりする（具体化）。	以下の知識分析の要素について，自己の理解を具体的な文脈で示しはじめている。 ・知識の内容について，重要な異同を指摘する（比較）。 ・知識における上位・下位のカテゴリを指摘する（分類）。 ・知識についての説明や知識の活用についての誤りを指摘する（エラー分析）。 ・知識に基づいて，新たな一般概念や原理を構成する(一般化)。 ・知識を適用したり論理的結論を導いたりする（具体化）。	以下の知識分析の要素について，自己の理解を具体的な文脈で明確に表現している。 ・知識の内容について，重要な異同を指摘する（比較）。 ・知識における上位・下位のカテゴリを指摘する（分類）。 ・知識についての説明や知識の活用についての誤りを指摘する（エラー分析）。 ・知識に基づいて，新たな一般概念や原理を構成する(一般化)。 ・知識を適用したり論理的結論を導いたりする（具体化）。	以下の知識分析の要素について，自己の理解を具体的な文脈で繰り返し表現し，洗化している。 ・知識の内容について，重要な異同を指摘する（比較）。 ・知識における上位・下位のカテゴリを指摘する（分類）。 ・知識についての説明や知識の活用についての誤りを指摘する（エラー分析）。 ・知識に基づいて，新たな一般概念や原理を構成する(一般化)。 ・知識を適用したり論理的結論を導いたりする（具体化）。
Ⅵ	知識活用 Knowledge Utilization	外部的な知識を感知し，内部的な記憶と関連付けて，作業記憶（ワーキングメモリ）上で操作し，理論知と実践知を確立しようとする思考（認知システム。知識を実際に獲得するための思考）の第四（最終）段階。	以下の知識活用の要素について，表面的な理解を示している。 ・判断のために知識を用いたり，知識に対する判断を行う（意思決定）。 ・問題解決のために知識を用いる（問題解決）。 ・仮説の構築や検証のために，知識を用いる（実験）。 ・調査の実行のために知識を用いる(調査)。	以下の知識活用の要素について，自己の理解を具体的な文脈で示しはじめている。 ・判断のために知識を用いたり，知識に対する判断を行う（意思決定）。 ・問題解決のために知識を用いる（問題解決）。 ・仮説の構築や検証のために，知識を用いる（実験）。 ・調査の実行のために知識を用いる(調査)。	以下の知識活用の要素について，自己の理解を具体的な文脈で明確に表現している。 ・判断のために知識を用いたり，知識に対する判断を行う（意思決定）。 ・問題解決のために知識を用いる（問題解決）。 ・仮説の構築や検証のために，知識を用いる（実験）。 ・調査の実行のために知識を用いる(調査)。	以下の知識活用の要素について，自己の理解を具体的な文脈で繰り返し表現し，洗化している。 ・判断のために知識を用いたり，知識に対する判断を行う（意思決定）。 ・問題解決のために知識を用いる（問題解決）。 ・仮説の構築や検証のために，知識を用いる（実験）。 ・調査の実行のために知識を用いる(調査)。

1

2

3-1

3-2

3-3

3-4

コンピテンス・ルーブリック総括表

上位規範		日本大学教育憲章 ※は主として対応するコンピテンスを示す	自主創造コンピテンス		コード	
					コンピテンス	ルーブリック
日本大学の使命及び目的	自ら学ぶ	1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 ※ D/E	マインドセット	日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢	A	A1 グローバル感覚
						A2 異文化適応
				自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢	B	B1 自己啓発
		2 世界の現状を理解し，説明する力 ※ A/B		倫理観と公共心	C	C1 倫理的思考・社会認識
	自ら考える	3 論理的・批判的思考力 ※ G/H	スキル／ナレッジ（自ら学び，考え，道をひらく力）	文化的素養・市民的教養	D	D1 市民的素養と参加
				学識・専門技能	E	E1 学識と専門技能
				探究力・課題解決力	F	F1 探究と論拠
						F2 課題解決
				状況把握力・判断力	G	G1 状況把握
		4 問題発見・解決力 ※ F/I		論理的思考力・批判的思考力	H	H1 論理的思考
						H2 批判的思考
	自ら道をひらく	5 挑戦力 ※ J		理解力・分析力	I	I1 理解・分析と読解
						I2 量的分析
						I3 情報分析
		6 コミュニケーション力 ※ K		創造的挑戦力・達成力	J	J1 継続的学修基盤
						J2 創造的思考
		7 リーダーシップ・協働力 ※ C/L		表現力・対話力	K	K1 ライティング・コミュニケーション
						K2 オーラル・コミュニケーション
		8 省察力 ※ M		協働力・牽引力	L	L1 チームワーク
				省察力	M	M1 統合的・応用的学修

コモンルーブリック	
視点 (perspective)	**コンピテンシー**
地球的視点で物事を多面的に捉え異文化との交流の重要性を認識できる能力	文化的自己意識，グローバルな視座，異文化への共感，文化的多様性への理解
異文化との交流を積極的かつ多面的に行い，相互理解を促進し互恵関係を構築できる能力	異文化への好奇心，受容性・寛容性，言語的コミュニケーション非言語的コミュニケーション，異文化間の協働
自己の存在意義を知り，自らを高め続けようと努力する姿勢	アイデンテイティーの確立，感性（センス）の研鑽，目的・目標の設定と管理
人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み社会的な存在としての自己の行動原理を獲得する能力	倫理的自己意識，倫理的課題の認識と構造把握，倫理的視点・概念の適用，社会認識，公共心
コミュニティに積極的な変化をもたらすために，知識・スキル・価値観・動機を動員できる能力	コミュニティと文化の多様性，知識の獲得知識の分析と市民参加への応用，市民としての自覚と関与市民参加のためのコミュニケーション，市民的行動と省察
専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用する能力	自律システム思考，メタ認知，知識の取り出し，知識構造理解，知識分析，知識活用
問を設定し又は論点を特定し，それに対する答・結論・判断を合理的に導くために，論拠の収集と分析を体系的に行う能力	テーマ設定既存の知見・研究・観点プロセス･デザイン，分析と論拠結論限界と示唆
オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし，検証し，実行する能力	問題・課題の特定，解決の方略と仮説，代替的解決方法の検証，解決の実行，結論の評価結果の派生的影響
自らの置かれた状況及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し，適切に対応できる能力	自己認識前提条件・制約条件対立の発見と解消最適化，規範的考慮
理路整然とした思考によって問題・課題を合理的に解決する能力	論理的なプロセスと操作，問題・課題の定義と分析解決法・仮説の提示，解決法の評価と選択結果の検証
論理的で偏りのない思考そのように自らの推論を内省する態度をもって，問題・課題を合理的に解決する能力	争点の摘示と説明，根拠の収集と摂取，推論と文脈の考慮，立場と観点，結論と成果
文章表現における意味と含意を抽出し，分析及び理解する能力	内容理解，文理構造の分析，ジャンルの特性，解釈，読者の声
数値データを適切に扱い様々な文脈で量的問題を推論し，課題の解決につなげる能力	解釈，表現，コミュニケーション，計算・演算，応用・分析，仮説
情報の収集と取捨選択，分析と加工を有効かつ円滑に行なう能力	情報の範囲と性質の決定，情報の入手，情報及びその源泉の評価，情報の利用倫理的・法的問題の評価
コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを自らの思考及び行動のパターンとする能力	好奇心，自発性，自立性，転移，継続と省察
既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し，一定のリスクをとりながら，，，結果に結びつける思考とその能力	リスクテイク，目標設定，矛盾の受け入れ・止揚，革新的思考，関連付け・統合，転換
文章によって自らの考えを表現し，読者に過不足なく伝達する能力	目的及び文脈の理解，構成内容の展開，ジャンルと分野固有規律，引用と出典，統語法と洗練
自らの考え，信念を聞き手に口頭で的確に伝達する能力	内容の構造化，言葉選び，話しの運び，補助資料作成，中心的メッセージ
集団的に課題解決を行なう際に自己の立場や責任を認識し，互いに集団の連帯を強めようとする能力又はそれを牽引する能力	対話への参加，他者による貢献の促進，信念とビジョンの提示，建設的な雰囲気の醸成，内部的対立への手当て
知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともにこれを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげる能力	知識と経験の連絡，専門領域の知識の連結，転移，統合的コミュニケーション，自己評価と省察

A1

グローバル感覚（Global Thinking）

地球的視点で物事を多面的に捉え，異文化との交流の重要性を認識することができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概　要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**文化的自己意識** Cultural Self-Awareness	異文化と適切に接するために，自己の文化的規則や偏見を自覚している。	自己の文化的規則や偏見について（自己の属する文化的集団で共有されていることであったとしても），最小限のことしか自覚していない。異文化に接したときに，文化的差異を識別し，あるいは不快に感じる。	自己の文化的規則や偏見を認識している。ただし，異文化に接したときに，自己の属する文化的集団で共有されている規則を選好し，異文化の他者に当該文化的規則を強制しようとする。	自己の文化的規則や偏見について，その意味を理解しようとしている。異文化に接したときに，自己の文化的規則や偏見とは異なる，世界の多様性の認識に基づいた新たな視点があることを踏まえて，行動しようとしている。	自己の文化的規則や偏見について，それらがどのような経験によって形成され，また，それらがどのような意味を持つかを理解している。異文化に接したときに，異文化の他者にどのように接すればよいかをよく自覚しており，そのために一定の文化的規則や偏見に基づいた自己の従来の考え方・行動様式を変化させている。
Ⅱ	**グローバルな視座** Global Perspective	異文化交流に活かすために，文化的な世界観（見方や考え方）の枠組みについての知識を保有し，異文化との差異を理解している。	歴史，価値観，信条，政治，経済，コミュニケーション様式に関し，自分と異なる文化の成員が重要と考える要素が，多様かつ複雑であることについて，表面的な認識を示している。	歴史，価値観，信条，政治，経済，コミュニケーション様式に関し，自分と異なる文化の成員が重要と考える要素が，多様かつ複雑であることについて，部分的な理解を示している（差異の原因を含む知識として部分的に理解している）。	歴史，価値観，信条，政治，経済，コミュニケーション様式に関し，自分と異なる文化の成員が重要と考える要素が，多様かつ複雑であることについて，十分な理解を示している(差異の原因までを含む知識として十分に理解している)。	歴史，価値観，信条，政治，経済，コミュニケーション様式に関し，自分と異なる文化の成員が重要と考える要素が，多様かつ複雑であることについて，洗練された理解を示している（異文化交流を実践するのに有効な程度に，理解している）。
Ⅲ	**異文化への共感** Empathy	異文化を自己の世界観とは別の世界観で認識し，これにより異文化に理解・共感を示している。	異文化の成員の見方や考え方を認識はしているが，自己の文化的世界観を通してそれを行っている。	異文化の世界観の構成要素（風土，歴史，宗教，社会・政治環境等）を特定しているが，あらゆる状況において，自身の世界観で対応している。	自己の世界観とは異なる2以上の世界観の知的・感情的側面を認識するとともに，それらの世界観を用いて異文化と係わることができる。	自己の世界観，及びこれとは異なる2以上の世界観を通して，異文化経験を解釈するとともに，異文化の成員の感情を認識することで，これらの人々を支援できる能力を示している。
Ⅳ	**文化的多様性への理解** Diversity		・多様な背景を持つ人々との意見交換において，考え方の多様性，自己と異なる知識・経験を，違和感をもって，表面的にとらえている。 ・他者の考え方，知識，経験を問題解決に用いる方法を理解していない。	・多様な背景を持つ人々との意見交換を通して，意見の多様性と自己と異なる知識・経験を，違和感を覚えずに部分的に理解している。 ・多様性を活用しなかった場合に比べ，問題解決の成果を前進させている。	・多様な背景を持つ人々との意見交換を通して，意見の多様性，自己と異なる知識・経験を，十分に理解している。 ・多様性を活用しなかった場合に比べ，問題解決においてより質の高い成果を得ている。	・多様な背景を持つ人々との積極的な意見交換を通して，意見の多様性や自己と知識・経験を，問題解決に使えるかたちで理解している。 ・多様な考え方・知識・経験を，自己の考え・知識・経験と有機的に結合させ，複合的な問題の解決に適用し，多様性を活用しなかった場合に比べて，はるかに質の高い成果を得ている。

A2

異文化適応（Intercultural Competence）

異文化との交流を積極的かつ多面的に行い，相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概　要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**異文化への好奇心** Curiosity	（態度）	異文化そのもの，又はそれを学ぶことについて，最低限の興味を示している。	異文化について，単純で表面的な問いを投げかけている。	異文化について，深い問いを投げかけ，これらの問いに対する答えを探し出している。	異文化について，複雑な問いを投げかけ，これらの問いに対し多文化的な見方を投影した答えを探し出し，それを明確に述べている。
Ⅱ	**受容性・寛容性** Openness	（態度）	文化的に異なる人々との交流を，消極的に受け入れることができる。文化的に異なる人々との交流について，価値判断することに困難を覚えており，その状況を積極的に変えようとしていない。	文化的に異なる人々との交流の大半において，受容性・寛容性を表している。文化的に異なる人々との交流について価値判断することに困難を覚えているが，その状況を変えようとしている。	文化的に異なる人々との交流を，自発的に行っている。文化的に異なる人々との交流について，価値判断を行っている。	文化的に異なる人々との交流を，積極的に発展させている。文化的に異なる人々との交流について，価値判断を行っている。
Ⅲ	**言語的コミュニケーション** Verbal Communication	（スキル）	言語的コミュニケーションにおける文化的差異について，最低限の理解を持つに過ぎない。そのため，異文化間で，共通理解を得るべく交渉することができない。	言語的コミュニケーションにおける文化的差異を，幾つか識別することができる。また，異文化間の誤解がこれらの差異に基づいて起こるということに気付いているが，まだ共通理解を得るべく交渉することはできていない。	言語的コミュニケーションにおける文化的差異を認識し，それに参加している。また，それらの差異を踏まえながら共通理解を得るべく交渉し始めている。	言語的コミュニケーションにおける文化的差異についての複雑な理解を，明確に表現している。また，それらの差異を踏まえながら，共通理解を得るべくうまく交渉している。
Ⅳ	**非言語的コミュニケーション** Non-Verbal Communication	（スキル） 表情，声のトーン，ジェスチャー等，五感にうったえるコミュニケーション要素。	非言語的コミュニケーションにおける文化的差異について，最低限の理解を持つに過ぎない。そのため，異文化間で，共通理解を得るべく交渉することができない。	非言語的コミュニケーションにおける文化的差異を，幾つか識別することができる。また，異文化間の誤解がこれらの差異に基づいて起こるということに気付いているが，まだ共通理解を得るべく交渉することはできていない。	非言語的コミュニケーションにおける文化的差異を認識し，それに参加している。また，それらの差異にを踏まえながら共通理解を得るべく交渉し始めている。	非言語的コミュニケーションにおける文化的差異についての複雑な理解を，明確に表現している。また，それらの差異を踏まえながら，共通理解を得るべくうまく交渉している。
Ⅴ	**異文化間の協働** Collaboration	（統合）	・異文化の成員との協働に，十分な関心を示さない。 ・異文化の成員との間のプロジェクトにおいて，目標達成のためにどのように協働すればよいか，十分な理解を示していない。	・異文化の成員との協働に，関心を持っている。 ・異文化の成員との間のプロジェクトにおいて，目標達成のためにどのように協働すればよいか，十分に理解を示していないものの，話し合いによって進捗のきっかけをつかんでいる。	・異文化の成員との協働に強い関心を持ち，これに積極的に関与した。 ・異文化の成員との間のプロジェクトにおいて，話し合いを通して，目標達成のための分担を含む，具体的な進捗を示している。	・異文化の成員との協働に強い関心を持ち，相互の専門知識を動員した体系的なアプローチを目標達成に適用している。 ・異文化の成員との間のプロジェクトにおいて，意見の交換，役割の分担を含む有効なプロセスを経て，高度な結果を導き出している。

B1

自己啓発（Self-Development）

自己の存在意義を知り，自らを高め続ける努力を継続することができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概　要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**アイデンティティーの確立** Identity		自己意識の時間的連続性の記憶と，自己の集団，言語，家族，役割等の社会的属性への帰属や社会との相互作用を再認識することを通じて，アイデンティティー（自己同一性，自己の存在意義の確認）を確立することの意味に気付いている。	自己意識の時間的連続性の記憶と，自己の集団，言語，家族，役割等の社会的属性への帰属や社会との相互作用を再認識することを通じて，アイデンティティー（自己同一性，自己の存在意義の確認）を確立するために，行動し始めている。	自己意識の時間的連続性の記憶と，自己の集団，言語，家族，役割等の社会的属性への帰属や社会との相互作用を明確に再認識することを通じて，アイデンティティー（自己同一性，自己の存在意義の確認）を確立している。	自己意識の時間的連続性の記憶と，自己の集団，言語，家族，役割等の社会的属性への帰属や社会との相互作用を明確に再認識することを通じて，アイデンティティー（自己同一性，自己の存在意義の確認）を確立している。アイデンティティーに基づき，自己の役割を実現している。
Ⅱ	**感性（センス）の研鑽** Sensitivity		外界に対しては機微，空気感，距離感，時代変化，流行といった動きを敏感に察知し，自己に対しては善·真·正·美のような価値を追求して，豊かな感性をもつことの意味に，気付き始めている。	外界に対しては機微，空気感，距離感，時代変化，流行といった動きを敏感に察知し，自己に対しては善·真·正·美のような価値を追求して，豊かな感性をもつことの意味に，明確に気付いている。	外界に対しては機微，空気感，距離感，時代変化，流行といった動きを敏感に察知し，自己に対しては善·真·正·美のような価値を追求して，豊かな感性をもつために，実際に行動を始めている。	外界に対しては機微，空気感，距離感，時代変化，流行といった動きを敏感に察知し，自己に対しては善·真·正·美のような価値を追求して，豊かな感性をもつために，行動を継続している。
Ⅲ	**目的・目標の設定と管理** Goal-Setting and Process Management		本質的で長期的な目的や目標をもち，必要な手段を合理的に選択し，自己管理を継続してこれを達成すること（自己実現）の意味に，気付き始めている。	本質的で長期的な目的や目標をもち，必要な手段を合理的に選択し，自己管理を継続してこれを達成すること（自己実現）の意味に，明確に気付いている。	本質的で長期的な目的や目標をもち，必要な手段を合理的に選択し，自己管理を継続してこれを達成すること（自己実現）の意味を理解し，実際に行動を始めている。	本質的で長期的な目的や目標をもち，必要な手段を合理的に選択し，自己管理を継続してこれを達成すること（自己実現）の意味を理解し，短期的な目標管理と振り返りによるモチベーション維持を伴って，行動を継続している。

C1

倫理的思考・社会認識（Ethical Thinking and Social Recognition）

人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み，社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概　要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**倫理的自己意識** Ethical Self-Awareness	環境，宗教，文化，訓練などが反映した中核的信念（倫理的立場）と，その由来（主として何の影響でその信念が形成されたのか）の自覚。	自分の中核的信念（人の行動様式，倫理的行動・思考に影響を及ぼす基本的な原理），又はそうした信念の由来のいずれかについて述べている。	自己の中核的信念とその由来の両方について，明確に表現できる。	自己の中核的信念とその由来について，細部にわたって議論し，分析できる。	自己の中核的信念と由来について，細部にわたって議論し，分析している。その議論は非常に深く，明快である。
Ⅱ	**倫理的課題の認識と構造把握** Ethical Issues		基本的かつ明白な倫理的問題点を認識できるものの，それを構成する要素の複雑さや要素間の相互関係を把握できない。	基本的かつ明白な倫理的問題を認識でき，不完全ながら，それを構成する要素の複雑さや相互関係を把握できる。	倫理的な問題が複雑で重層的な背景の中で提示されたときに，その問題が倫理的に問題と見なされる原因となる，幾つかの要素を認識でき，それらの要素間の相互関係をある程度把握できる。	倫理的な問題が複雑で重層的な背景の中で提示されたときに，その問題が倫理的に問題と見なされる原因となる，複数の要素を認識でき，それらの要素間の相互関係と，倫理的問題の構造を把握できる。
Ⅲ	**倫理的視点・概念の適用** Application of Ethical Perspectives and Ideas		他者の支援を受けつつ，倫理的視点や概念を簡単な倫理的課題に対して適用できる。	自立的に，倫理的視点・概念を，新たな倫理的課題に適用できるが，その過程に不正確さがみられる。	自立的に，倫理的視点・概念を，新たな倫理的課題に適用できるものの，一般論から離れて，当該課題の固有の要素については十分に考慮できない。	自立的に，倫理的視点・概念を，倫理的課題に正確に適用でき，この適用がもたらす結果について十分に考慮できる。
Ⅳ	**公共心と社会認識** Public Spirit and Social Recognition	個人間の協調や対立，集団における協働や分業，又は社会システムの構築や運用等の社会的事象と自覚的に関わり，あるいは当事者意識をもってこれを考察することを通じて得られる，確かな事実認識や健全な対人関係のもととなる社会的なものの見方，考え方。	個人間の協調や対立，集団における協働や分業，又は社会システムの構築や運用等の社会的事象を，単に事実として認識しているに止まり，当事者意識，他者理解，自己抑制等に内省化できていない。	個人間の協調や対立，集団における協働や分業，又は社会システムの構築や運用等の社会的事象と自覚的に関わり，あるいは当事者意識をもってこれを考察し，自己の新たな事実認識や対人関係において，当該経験・知見を反映させようとしている。当事者意識，他者理解，自己抑制等の内省も伴っている。	個人間の協調や対立，集団における協働や分業，又は社会システムの構築や運用等の社会的事象と積極的に関わり，あるいは当事者意識をもってこれを自覚的に考察し，確かな事実認識や健全な対人関係のもととなる社会的な見方，考え方を十分に獲得している。当事者意識，他者理解，自己抑制等の内省を伴い，自己の社会的責任，公共心認識を芽生えさせている。	個人間の協調や対立，集団における協働や分業，又は社会システムの構築や運用等の社会的事象と積極的に関わり，あるいは当事者意識をもってこれを自覚的に考察し，確かな事実認識や健全な対人関係のもととなる社会的な見方，考え方を十分に獲得している。当事者意識，他者理解，自己抑制等の内省を伴い，自己の社会的責任，公共心の振り向けられる先を，具体的に特定している。

D1

市民的素養と参加（Civic Knowledge and Engagement）

コミュニティに積極的な変化をもたらすために，知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概　要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**コミュニティと文化の多様性** Diversity of Communities and Cultures		偏った観点から，個人としての態度や信念を表している。コミュニティや文化の多様性から学習できる事柄に対し，無関心であるかこれに抵抗している。	自己の態度や信念は他の文化やコミュニティの態度や信念とは異なっているという自覚をもっている。コミュニティや文化の多様性から学習できる事柄に対して，好奇心をわずかながら示している。	自己の態度や信念が他の文化やコミュニティの態度や信念とどのような点で異なっているかについて熟考している。コミュニティや文化の多様性から学習できる事柄に対して，好奇心を示している。	コミュニティや文化の多様性の中で活動し，そこから学ぶことによって，自己の態度や信念を調整している根拠を示している。他者に多様性への参加を効果的に促している。
Ⅱ	**知識の獲得** Acquisition of Knowledge	知識の獲得の心理学的プロセス（E1 参照）。	市民参加の前提として，必要とされる教養を身に付けるために，以下の知識獲得の要素的思考について，表面的な理解を示している。 ・自律システム思考（知識を獲得するモチベーションを自覚的に生成させる思考）。 ・メタ認知（知識を獲得する合理的な方策を自覚的に生成する思考）。 ・認知システム（外部的な情報を感知し，内部的な記憶と関連付けて，ワーキングメモリ上で操作し，知識を実際に獲得するための思考）。	市民参加の前提として，必要とされる教養を身に付けるために，以下の知識獲得の要素的思考についての理解を，具体的な文脈で示しはじめている。 ・自律システム思考（知識を獲得するモチベーションを自覚的に生成させる思考）。 ・メタ認知（知識を獲得する合理的な方策を自覚的に生成する思考）。 ・認知システム（外部的な情報を感知し，内部的な記憶と関連付けて，ワーキングメモリ上で操作し，知識を実際に獲得するための思考）。	市民参加の前提として，必要とされる教養を身に付けるために，以下の知識獲得の要素的思考についての理解を，具体的な文脈で明確に表現している。 ・自律システム思考（知識を獲得するモチベーションを自覚的に生成させる思考）。 ・メタ認知（知識を獲得する合理的な方策を自覚的に生成する思考）。 ・認知システム（外部的な情報を感知し，内部的な記憶と関連付けて，ワーキングメモリ上で操作し，知識を実際に獲得するための思考）。	市民参加の前提として，必要とされる教養を身に付けるために，以下の知識獲得の要素的思考についての理解を，具体的な文脈で繰り返し表現し，汎化している。 ・自律システム思考（知識を獲得するモチベーションを自覚的に生成させる思考）。 ・メタ認知（知識を獲得する合理的な方策を自覚的に生成する思考）。 ・認知システム（外部的な情報を感知し，内部的な記憶と関連付けて，ワーキングメモリ上で操作し，知識を実際に獲得するための思考）。
Ⅲ	**知識の分析と市民参加への応用** Analysis of Knowledge and Application of Theory		自分の学業･フィールド･学問分野から得た知識（事実, 理論等）のうち，市民参加や市民生活･政治・行政機関への参加と関連性のあるものを認識し始めている。	自分の学業・フィールド・学問分野から得た知識（事実, 理論等）を，市民参加や市民生活･政治・行政機関への参加とを，接続し始めている。	自分の学業･フィールド･学問分野から得た知識（事実, 理論等）を分析し，市民参加や市民生活・政治・行政機関への参加と知識との間に関連性を見出している。	自分の学業・フィールド・学問分野から得た知識（事実, 理論等）を，市民参加や市民生活･政治・行政機関への参加に接続させ，さらに知識を拡張している。
Ⅳ	**市民としての自覚と関与** Civic-Identity and Commitment		市民としての自覚と自己の存在肯定（市民的アイデンティティー）が希薄で，市民参加の経験がほとんど示されていない。	市民参加の経験が示されているが，市民としての自覚と自己の存在肯定（市民的アイデンティティー）ではなく，他律的な動機付けのみによって生じていたことが，明らかである。	市民としての自覚と自己の存在肯定（市民的アイデンティティー）が明確になりつつあり，市民参加における経験についての証拠を提示し，参加を通じて自ら学んだことを主観的に述べることができる。	明確な市民としての自覚と自己の存在肯定（市民的アイデンティティー）に基づく，市民参加の経験についての証拠を提示し，参加を通じて自ら学んだことを客観的に述べることができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概　要			成績ターゲット 3000/4000	
V	**市民参加のためのコミュニケーション** Civic Communication		市民参加の前提となるコミュニケーション（表現する，聞く，他者の見方に基づいてアイデアやメッセージを作りかえる）を行う姿勢をみせている。	市民参加の前提となるコミュニケーション（表現する，聞く，他者の見方に基づいてアイデアやメッセージを作りかえる）を行う能力を示している。	市民参加の前提として，有効にコミュニケーション（表現する，聞く，他者の見方に基づいてアイデアやメッセージを作りかえる）を行う能力を示している。	市民参加の前提として，有効にコミュニケーション（表現する，聞く，他者の見方に基づいてアイデアやメッセージを作りかえる）を行う能力を示している。自らが市民参加に関与するだけでなく，他者との連帯によって活動を促進するために，コミュニケーションの方略を作りあげている。
VI	**市民的行動と省察** Civic Action and Reflection		幾つかの市民活動を体験したことはあるが，その目標や影響に関する理解の内面化や将来の活動へのコミットメントが弱い。	市民活動に明確なかたちで参加したことがある。また，それらの行動が，どのようにコミュニティに貢献するのかを省察し始めている。	市民活動における自立的な経験があり，そこで他律的な動機付けに基づくリーダーシップを示しつつ，自己の行動の目標や過程についての省察的な視点をもって分析を行っている。	複雑な又は多様な市民活動における自立的な経験があり，そこでリーダーシップのイニシアティブがあることを示している。その際に，自分の行動の目標や過程についての省察的な視点や分析を伴っている。

E1

学識と専門技能（Discipline Knowledge and Skills）

専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**自律システム思考** Self-System Thinking	自ら，当事者として，具体的な課題に取り組み，理論知と実践知の獲得と利用を行って解決していくかどうかを決定する思考（知識を獲得するモチベーションを自覚的に生成させる思考）。	以下の自律システム思考の要素について，表面的な理解を示している。 ・知識獲得の重要性を判断する（重要性の検討）。 ・能力向上や知識理解に関する自らの能力を判断する（有効性の検討）。 ・知識に対する感情的反応とその理由を判断する（感情の検討）。 ・能力向上や知識理解に対するすべての動機を判断する（意欲の検討）。	以下の自律システム思考を，具体的な文脈で示しはじめている。 ・知識獲得の重要性を判断する（重要性の検討）。 ・能力向上や知識理解に関する自らの能力を判断する（有効性の検討）。 ・知識に対する感情的反応とその理由を判断する（感情の検討）。 ・能力向上や知識理解に対するすべての動機を判断する（意欲の検討）。	以下の自律システム思考を，具体的な文脈で明確に表現している。 ・知識獲得の重要性を判断する（重要性の検討）。 ・能力向上や知識理解に関する自らの能力を判断する（有効性の検討）。 ・知識に対する感情的反応とその理由を判断する（感情の検討）。 ・能力向上や知識理解に対するすべての動機を判断する（意欲の検討）。	以下の自律システム思考を，具体的な文脈で繰り返し表現し，汎化している。 ・知識獲得の重要性を判断する（重要性の検討）。 ・能力向上や知識理解に関する自らの能力を判断する（有効性の検討）。 ・知識に対する感情的反応とその理由を判断する（感情の検討）。 ・能力向上や知識理解に対するすべての動機を判断する（意欲の検討）。
Ⅱ	**メタ認知** Metacognition	目標の具体化，プロセスモニタリング，明瞭性と正確性のモニタリングを行って，理論知と実践知の獲得と利用を統制していく思考（知識を獲得する合理的な方策を自覚的に生成する思考）。	以下のメタ認知の要素について，表面的な理解を示している。 ・知識に関係する目標を設定し，そのための計画を策定する（目標の具体化）。 ・知識に関する目標の実行をモニタリングする（プロセス・モニタリング）。 ・知識の明確性を評価する（明確性モニタリング）。 ・知識の正確性を評価する（正確性モニタリング）。	以下のメタ認知を，具体的な文脈で示しはじめている。 ・知識に関係する目標を設定し，そのための計画を策定する（目標の具体化）。 ・知識に関する目標の実行をモニタリングする（プロセス・モニタリング）。 ・知識の明確性を評価する（明確性モニタリング）。 ・知識の正確性を評価する（正確性モニタリング）。	以下のメタ認知を，具体的な文脈で明確に表現している。 ・知識に関係する目標を設定し，そのための計画を策定する（目標の具体化）。 ・知識に関する目標の実行をモニタリングする（プロセス・モニタリング）。 ・知識の明確性を評価する（明確性モニタリング）。 ・知識の正確性を評価する（正確性モニタリング）。	以下のメタ認知を，具体的な文脈で繰り返し表現し，汎化している。 ・知識に関係する目標を設定し，そのための計画を策定する（目標の具体化）。 ・知識に関する目標の実行をモニタリングする（プロセス・モニタリング）。 ・知識の明確性を評価する（明確性モニタリング）。 ・知識の正確性を評価する（正確性モニタリング）。
Ⅲ	**知識の取り出し** Retrieval	外部的な情報を感知し，内部的な記憶と関連付けて，作業記憶（ワーキングメモリ）上で操作し，理論知と実践知を確立しようとする思考（認知システム。知識を実際に獲得するための思考）の第一段階。	以下の知識の取り出しの要素について，表面的な理解を示している。 ・情報の特徴を単純に認識する（再認）。 ・情報の特徴を単純に再現する（再生）。 ・文脈や意義を無自覚に，情報を用いる（実行）。	以下の知識の取り出しを，具体的な文脈で示しはじめている。 ・情報の特徴を単純に認識する（再認）。 ・情報の特徴を単純に再現する（再生）。 ・文脈や意義を無自覚に，情報を用いる（実行）。	以下の知識の取り出しを，具体的な文脈で明確に表現している。 ・情報の特徴を単純に認識する（再認）。 ・情報の特徴を単純に再現する（再生）。 ・文脈や意義を無自覚に，情報を用いる（実行）。	以下の知識の取り出しを，具体的な文脈で繰り返し表現し，汎化している。 ・情報の特徴を単純に認識する（再認）。 ・情報の特徴を単純に再現する（再生）。 ・文脈や意義を無自覚に，情報を用いる（実行）。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅳ	**知識構造理解** Comprehension	外部的な情報を感知し，内部的な記憶と関連付けて，作業記憶（ワーキングメモリ）上で操作し，理論知と実践知を確立しようとする思考（認知システム。知識を実際に獲得するための思考）の第二段階。	以下の知識構造の要素について，表面的な理解を示している。 ・知識の基礎構造を明確にし，重要な特徴と重要でない特徴を対比的に示す（統合）。 ・知識を正確に象徴化し，重要な要素とそうでない要素とを区別する（象徴化）。	以下の知識構造について，自己の理解を具体的な文脈で示しはじめている。 ・知識の基礎構造を明確にし，重要な特徴と重要でない特徴を対比的に示す（統合）。 ・知識を正確に象徴化し，重要な要素とそうでない要素とを区別する（象徴化）。	以下の知識構造について，自己の理解を具体的な文脈で明確に表現している。 ・知識の基礎構造を明確にし，重要な特徴と重要でない特徴を対比的に示す（統合）。 ・知識を正確に象徴化し，重要な要素とそうでない要素とを区別する（象徴化）。	以下の知識構造について，自己の理解を具体的な文脈で繰り返し表現し，汎化している。 ・知識の基礎構造を明確にし，重要な特徴と重要でない特徴を対比的に示す（統合）。 ・知識を正確に象徴化し，重要な要素とそうでない要素とを区別する（象徴化）。
Ⅴ	**知識分析** Analysis	外部的な知識を感知し，内部的な記憶と関連付けて，作業記憶（ワーキングメモリ）上で操作し，理論知と実践知を確立しようとする思考（認知システム。知識を実際に獲得するための思考）の第三段階。	以下の知識分析の要素について，表面的な理解を示している。 ・知識の内容について，重要な異同を指摘する（比較）。 ・知識における上位・下位のカテゴリを指摘する（分類）。 ・知識についての説明や知識の活用についての誤りを指摘する（エラー分析）。 ・知識に基づいて，新たな一般概念や原理を構成する（一般化）。 ・知識を適用したり論理的結論を導いたりする（具体化）。	以下の知識分析の要素について，自己の理解を具体的な文脈で示しはじめている。 ・知識の内容について，重要な異同を指摘する（比較）。 ・知識における上位・下位のカテゴリを指摘する（分類）。 ・知識についての説明や知識の活用についての誤りを指摘する（エラー分析）。 ・知識に基づいて，新たな一般概念や原理を構成する（一般化）。 ・知識を適用したり論理的結論を導いたりする（具体化）。	以下の知識分析の要素について，自己の理解を具体的な文脈で明確に表現している。 ・知識の内容について，重要な異同を指摘する（比較）。 ・知識における上位・下位のカテゴリを指摘する（分類）。 ・知識についての説明や知識の活用についての誤りを指摘する（エラー分析）。 ・知識に基づいて，新たな一般概念や原理を構成する（一般化）。 ・知識を適用したり論理的結論を導いたりする（具体化）。	以下の知識分析の要素について，自己の理解を具体的な文脈で繰り返し表現し，汎化している。 ・知識の内容について，重要な異同を指摘する（比較）。 ・知識における上位・下位のカテゴリを指摘する（分類）。 ・知識についての説明や知識の活用についての誤りを指摘する（エラー分析）。 ・知識に基づいて，新たな一般概念や原理を構成する（一般化）。 ・知識を適用したり論理的結論を導いたりする（具体化）。
Ⅵ	**知識活用** Knowledge Utilization	外部的な知識を感知し，内部的な記憶と関連付けて，作業記憶（ワーキングメモリ）上で操作し，理論知と実践知を確立しようとする思考（認知システム。知識を実際に獲得するための思考）の第四（最終）段階。	以下の知識活用の要素について，表面的な理解を示している。 ・判断のために知識を用いたり，知識に対する判断を行う（意思決定）。 ・問題解決のために知識を用いる（問題解決）。 ・仮説の構築や検証のために，知識を用いる（実験）。 ・調査の実行のために知識を用いる（調査）。	以下の知識活用の要素について，自己の理解を具体的な文脈で示しはじめている。 ・判断のために知識を用いたり，知識に対する判断を行う（意思決定）。 ・問題解決のために知識を用いる（問題解決）。 ・仮説の構築や検証のために，知識を用いる（実験）。 ・調査の実行のために知識を用いる（調査）。	以下の知識活用の要素について，自己の理解を具体的な文脈で明確に表現している。 ・判断のために知識を用いたり，知識に対する判断を行う（意思決定）。 ・問題解決のために知識を用いる（問題解決）。 ・仮説の構築や検証のために，知識を用いる（実験）。 ・調査の実行のために知識を用いる（調査）。	以下の知識活用の要素について，自己の理解を具体的な文脈で繰り返し表現し，汎化している。 ・判断のために知識を用いたり，知識に対する判断を行う（意思決定）。 ・問題解決のために知識を用いる（問題解決）。 ・仮説の構築や検証のために，知識を用いる（実験）。 ・調査の実行のために知識を用いる（調査）。

F1

探究と論拠（Inquiry and Evidence）

問を設定し又は論点を特定し，それに対する答・結論・判断を合理的に導くために，論拠の収集と分析を体系的に行うことができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**テーマ設定** Topic Selection		探究すべきテーマは設定しているが，一般的で広範囲過ぎる。	探究すべきテーマとして，扱い易いものを設定しているが，焦点を絞り過ぎており，関連するトピックが見逃されている。	探究すべきテーマとして，焦点が合っており，かつ扱い易いものを設定している。当該テーマに関連するトピックが，適切に取り上げられている。	探究すべきテーマとして，創造的で，焦点が合っており，かつ扱い易いものを設定している。当該テーマに関連するトピックで，重要でありながらこれまで十分に検討されてこなかったものが，取り上げられている。
Ⅱ	**既存の知見・研究・観点** Existing Knowledge, Research, and Views		特定の観点・アプローチに偏り，不適切な情報を示している。	適切な情報を示しているが，観点・アプローチは特定のものに偏っている。	適切な情報を詳細に示しており，観点・アプローチは特定のものに偏っていない。	適切な情報を詳細に示し，情報間の調和にも配慮している。観点・アプローチは特定のものに偏っていない。
Ⅲ	**プロセス・デザイン** Design Process	分析を行う上での，方法論や理論的な枠組みの有効な利用。	方法論や理論的な枠組みを，誤解を含みながらも用いている。	探究のデザインにおいて，方法論や理論的な枠組の重要な要素が欠落し，誤用され，あるいはこれに焦点が当てられていない。	探究のデザインにおいて，方法論や理論的な枠組みの重要な要素は適切に用いられているが，微妙な点までは捉えきれていない。	探究のデザインにおいて，方法論や理論的な枠組のすべての要素が，巧みに用いられている。当該枠組みは，学問領域について横断的に，あるいは適切な学問の下位領域の知見と調和して，用いられている。
Ⅳ	**分析と論拠** Analysis and Evidence		分析において，論拠は列挙されているが，整理されていないか，あるいは分析の焦点と関連していない。	分析において，論拠が整理されて用いられている。ただし，当該整理は，分析の焦点に関するパターン，相違，類似等の重要な点を明確にするには役立っていない。	分析において，論拠が，分析の焦点に関するパターン，相違，類似等の重要な点を明らかにするために，十分に整理され用いられている。	分析において，論拠が，分析の焦点に関するパターン，相違，類似等の重要な点を明らかにするために，十分に整理され調和的に用いられており，洞察に富んでいる。
Ⅴ	**結論** Conclusions		探究で得た知見から，曖昧，非論理的又は裏づけに乏しい結果を述べている。	一般的な結論を述べている。結論が一般的に過ぎるために，探究で得た知見の範囲を超えている。	探究で得た知見のみに基づき，これに明確に対応した結論を述べている。	探究で得た知見から，十分に論理的な過程を経て，推論される結論を述べている。
Ⅵ	**限界と示唆** Limitations and Implications	結論が妥当する限界，及び結論から合理的に示唆される事項	限界や示唆を述べているが，適切でないか裏付けが弱い。	適切かつ裏付けの確かな限界と示唆を述べている。	適切かつ裏付けの確かな限界と示唆について，議論している。	適切かつ裏付けの確かな限界と示唆について，洞察に富んだ議論を具体的に行っている。

F2

課題解決（Problem Solving）

オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし，検証し，実行することができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**問題・課題の特定** Define Ploblem/Issue	問題·課題を特定·整理・分析し，制約条件も含めて，解決すべき問題の構造を特定できる。	解決を要する問題・課題の基本的で明白な部分は認識できるものの，その問題・課題を構成する要素の全体的な特定や，それらの相互関係の把握ができない。	解決を要する問題の基本的・明白な部分を特定し，これを不完全ながら整理・分析（構成するいくつかの要素を認識し，それらの相互関係と論理構造把握）するとともに，制約条件をある程度認識している。	複雑な状況下で解決を要する問題・課題を概略特定し，これをある程度整理・分析（構成するいくつかの要素を認識し，それらの相互関係と論理構造を把握）するとともに，制約条件を考慮している。	複雑で流動的な状況下で解決を要する問題・課題を明快に特定し，これを整理・分析（構成する主要要素を抜けなく認識し，それらの相互関係と論理構造を把握）するとともに，制約条件を網羅的に（コスト，人的·物的·経済的資源，関係者の見解，結果に影響を与え得る一般的知見を）十分に考慮している。
Ⅱ	**解決の方略と仮説** Identify Strategies and Hypothesis		選択した解決法・仮説は，問題・課題の解決に漠然と，あるいは間接的に対応しているに止まり，その有効性が疑わしい。	個別にデザインされた解決法・仮説ではなく，既製の解決法・仮説を用いており，その妥当範囲が限られている。	特定の問題・課題の解決について，個別にデザインされた1以上の解決法・仮説を提示している。当該解決法・仮説は，関連要因を十分にカバーしている。	特定の問題・課題の解決について，個別にデザインされた1以上の解決法・仮説を提示している。当該解決法・仮説は，関連要因を十分にカバーするだけでなく，問題の倫理的·論理的・文化的側面についても配慮している。
Ⅲ	**代替的解決方法の検証** Evaluate Alternative Solutions		解決法・仮説の提示にあたり，代替的解決法·仮説を認識しているが，具体的な検討までは行っていない。	解決法・仮説の提示にあたり，代替的解決法·仮説を表面的ながら検討している。その結果として，選択された解決法の信頼性がある程度増している。	解決法・仮説の提示にあたり，代替的解決法·仮説を具体的に検討している。その結果として，選択された解決法の妥当性が裏付けられている。	解決法・仮説の提示にあたり，代替的解決法·仮説を網羅的に検討している。その結果として，選択された解決法の妥当性が十分に裏付けられている。
Ⅳ	**解決の実行** Implement Solution		選択された解決法を実行しているが，その手続は背景や関連する文脈を無視するか，逸脱したものであって，結果は一般に受け入れられにくい。	選択された解決法を実行しているが，背景や関連する文脈を十分に咀嚼せずに手続を表面的に行った結果，結果の信頼性が低い。	選択された解決法を実行し，問題・課題の広範な文脈要因を考慮して手続を進めている。結果も一般的に受け入れられ易い。	選択された解決法を実行し，問題・課題の広範な文脈要因を考慮しつつ，やり遂げている。解決の手続は洗練されており，徹底していて，結果の信頼性も高い。
Ⅴ	**結果の評価** Evaluate Outcomes		結果の妥当性を表面的に評価している。	結果の妥当性を，背景や文脈，根拠と関連付けて具体的に評価している。	結果の妥当性を，背景や文脈，根拠と関連付けて具体的に評価するとともに，結果が過去とともに，将来ともつながっているという認識をもち，特定の問題·課題の要素を選び出し，これらについて吟味している。	結果の妥当性を，背景や文脈，根拠と関連付けて具体的に評価するとともに，結果が過去とともに，将来ともつながっているという認識をもち，将来展開し得る問題をもれなく具体的に考察して選び出し，これらについて吟味している。
Ⅵ	**結果の派生的影響** Influences of Outcome		解決の結果から想定される，社会，健康，安全，法律，文化等に関する新たな問題・課題を，幾つか特定しているが正確性に欠ける。	解決の結果から想定される，社会，健康，安全，法律，文化等に関する新たな問題・課題を，幾つか特定でき，ある程度正確な検討を行っている。	解決の結果から想定される，社会，健康，安全，法律，文化等に関する新たな問題・課題を，幾つか特定でき，それらについて正確な検討を行っている。また，それらの解決策を想起している。	解決の結果から想定される，社会，健康，安全，法律，文化等に関する新たな問題・課題を，幾つか特定でき，それらについて正確な検討を行っている。また，それらの解決策を具体的に提案している。

G1

状況把握（Situation Assessment）

自らの置かれた状況，及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し，適切に対応することができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**自己認識** Self-Awareness		空間的，時間的及び情動的な自己認識が十分でなく，周囲の人や物事との関係・距離感を適切に把握することが妨げられている。	自己を空間的，時間的及び情動的に認識することにより，周囲の人や物事との関係・距離感を適切に理解し獲得し始めている。	自己を空間的，時間的及び情動的に認識することにより，周囲の人や物事との関係・距離感を，ある程度適切に理解し獲得できている。	自己を空間的，時間的及び情動的に明確に認識することにより，周囲の人や物事との関係・距離感を適切に理解し獲得することができ，その成果が行動に表れている。
Ⅱ	**前提条件・制約条件** Assumptions and Constraints		状況把握又は計画立案にあたって，ある物事が成り立つために予め満たされていなければならない条件（前提条件）と，事物の成否に影響を及ぼす制限要素であってその充足が成功のために必要となる条件（制約条件）とを，明確に認識することなく環境を捉えようとしている。	状況把握又は計画立案にあたって，ある物事が成り立つために予め満たされていなければならない条件（前提条件）と，事物の成否に影響を及ぼす制限要素であってその充足が成功のために必要となる条件（制約条件）とを，それぞれ考慮しはじめている。	状況把握又は計画立案にあたって，ある物事が成り立つために予め満たされていなければならない条件（前提条件）と，事物の成否に影響を及ぼす制限要素であってその充足が成功のために必要となる条件（制約条件）とを，それぞれ部分的ながら正確に考慮している。	状況把握又は計画立案にあたって，ある物事が成り立つために予め満たされていなければならない条件（前提条件）と，事物の成否に影響を及ぼす制限要素であってその充足が成功のために必要となる条件（制約条件）とを，それぞれ十分に考慮している。そのことが，状況把握の精度又は対応の有効性を高めることに貢献している。
Ⅲ	**対立の発見と解消** Harmonization		対立原因の発見と解消のために，以下の方法のうちの1つを用いることができる。 ・課題を共有することから始めて，合理的な選択肢と判断基準を検討し，最適な選択肢を選択する（合理的意思決定）。 ・対立原因である価値衝突を特定することから始めて，当該価値の統合可能性を模索し，当事者の価値充足度の高い代替案を選択する（協調的対立解消）。 ・議論の立脚点を共有することから始めて，革新的な基軸を創造する中で，代替案を創出する（対話的合意形成）。 ・対立解消過程を共創することからはじめて，信頼感を高め共感による価値の一体化を模索するなかで，当事者の要求を高い次元で折り合わせる（昇華的衝突回避）。	対立原因の発見と解消のために，以下の方法のうちの2つを用いることができる。 ・課題を共有することから始めて，合理的な選択肢と判断基準を検討し，最適な選択肢を選択する（合理的意思決定）。 ・対立原因である価値衝突を特定することから始めて，当該価値の統合可能性を模索し，当事者の価値充足度の高い代替案を選択する（協調的対立解消）。 ・議論の立脚点を共有することから始めて，革新的な基軸を創造する中で，代替案を創出する（対話的合意形成）。 ・対立解消過程を共創することからはじめて，信頼感を高め共感による価値の一体化を模索するなかで，当事者の要求を高い次元で折り合わせる（昇華的衝突回避）。	対立原因の発見と解消のために，以下の方法のうちの3つを用いることができる。 ・課題を共有することから始めて，合理的な選択肢と判断基準を検討し，最適な選択肢を選択する（合理的意思決定）。 ・対立原因である価値衝突を特定することから始めて，当該価値の統合可能性を模索し，当事者の価値充足度の高い代替案を選択する（協調的対立解消）。 ・議論の立脚点を共有することから始めて，革新的な基軸を創造する中で，代替案を創出する（対話的合意形成）。 ・対立解消過程を共創することからはじめて，信頼感を高め共感による価値の一体化を模索するなかで，当事者の要求を高い次元で折り合わせる（昇華的衝突回避）。	対立原因の発見と解消のために，以下のすべての方法を用いることができる。 ・課題を共有することから始めて，合理的な選択肢と判断基準を検討し，最適な選択肢を選択する（合理的意思決定）。 ・対立原因である価値衝突を特定することから始めて，当該価値の統合可能性を模索し，当事者の価値充足度の高い代替案を選択する（協調的対立解消）。 ・議論の立脚点を共有することから始めて，革新的な基軸を創造する中で，代替案を創出する（対話的合意形成）。 ・対立解消過程を共創することからはじめて，信頼感を高め共感による価値の一体化を模索するなかで，当事者の要求を高い次元で折り合わせる（昇華的衝突回避）。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅳ	**最適化** Optimization		状況の把握又は問題解決の過程で，関係しあるいは対立する利害を認識・調整する必要性は理解しているが，どのように思考し行動すべきか判断できない。	状況の把握又は問題解決の過程で，関係しあるいは対立する利害を認識・調整する必要性を理解し，そのための思考又は行動を具体的に示している。	状況の把握と問題解決の過程で，関係しあるいは対立する利害を認識・調整する必要性を理解し，そのための思考又は行動を具体的に示している。重要な代替的対応を考慮し，効率性の高い方法を選択している。	状況の把握と問題解決の過程で，関係しあるいは対立する利害を認識・調整する必要性を理解し，そのための思考又は行動を具体的に示している。代替的対応を網羅的に検討し，最も効率的な方法を選択している。
Ⅴ	**規範的考慮** Ethical and Legal Consideration		状況把握の過程において，社会，文化，倫理，健康，安全にまたがる規範的問題とその解決を，文脈として特定しているが，あいまい又は不正確である。	状況把握の過程において，社会，文化，倫理，健康，安全にまたがる規範的問題とその解決を，幾つか正確に特定できる。	状況把握の過程において，社会，文化，倫理，健康，安全にまたがる規範的問題とその解決を，明確に特定し，規範的文脈で消極的影響の最も小さい対応策又は解決策を考慮できる。	状況把握の過程において，社会，文化，倫理，健康，安全にまたがる規範的問題とその解決を，明確に特定し，規範的文脈で消極的影響の最も小さい対応策又は解決策を選択できる。

H1

論理的思考（Logical Thinking）

理路整然とした思考によって，問題・課題を合理的に解決することができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	**進行期** Developing	**発展期** Proficient	**定着期** Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	**概要**			**成績ターゲット 3000/4000**	
Ⅰ	**論理的なプロセスと操作** Logical Process and Techniques		三段論法，演繹法，帰納法，仮説推論，類比推論等の論理的な思考プロセス及び手法に，気づきはじめている。	三段論法，演繹法，帰納法，仮説推論，類比推論等の論理的なプロセス及び手法を，使いはじめている。	三段論法，演繹法，帰納法，仮説推論，類比推論等の論理的なプロセス及び手法を，十分に理解し，使いこなしている。	三段論法，演繹法，帰納法，仮説推論，類比推論等の論理的なプロセス及手法を，十分に理解し，柔軟に使いこなしている。その表現は，洗練されており，統一感がある。
Ⅱ	**問題・課題の定義と分析** Definition and Analysis of the Problem/Issue	問題を特定･整理･分析し，制約条件も含めて，解決すべき問題の構造を定義できる。	解決を要する問題の基本的・明白な部分は認識できるものの，その問題を構成する要素の認識や，それらの相互関係の把握ができない。したがって，問題の定義や関連する要因（制約条件）の同定が限定的である。	解決を要する問題の基本的・明白な部分を特定し，これを不完全ながら整理・分析（構成するいくつかの要素を認識し，それらの相互関係と論理構造を不完全ながら把握）し，関連ある大半の要因（制約条件）を根拠に用いて，問題の定義を構築する能力を示しているが，問題定義は表面的である。	複合的な状況の中から解決を要する問題を概略特定し，これをある程度整理・分析（構成するいくつかの要素を認識し，それらの相互関係と論理構造をある程度把握）し，関連ある大半の要因（制約条件）を根拠に用いて，問題の定義を構築する能力を示しており，その問題定義も適切である。	複合的な状況の中から解決を要する問題を明快に特定し，これを整理･分析（構成する主要要素を抜けなく認識し，それらの相互関係と論理構造を把握）し，関連ある全ての要因（コスト，人的･物的･経済的資源，関係者の考え等の制約や，結果に影響を与える知識）を根拠に用いて，明確で洞察に富んだ問題の定義を構築する能力を示している。
Ⅲ	**解決法・仮説の提示** Solutions and Assumptions		提案された解決法・仮説は，問題の定義に漠然と，あるいは間接的に対処しているだけであり，その有効性の評価を困難にしている。	直面している特定の関連要因を扱うために個別にデザインされた解決法・仮説ではなく，既製の一つの解決法・仮説を提案している。	問題についての理解力を示す一つ以上の解決法・仮説を提案している。解決法・仮説は，関連要因だけでなく問題の倫理的・論理的・文化的次元の一つについても配慮している。	問題についての深い理解力を示す一つ以上の解決法・仮説を提案している。解決法・仮説は，関連要因だけでなく，問題の倫理的・論理的・文化的側面のすべてについても配慮している。
Ⅳ	**解決法の評価と選択** Assesment and Selection of Available Solutions		提案された解決法に対する評価は表面的である。またその評価は以下の点のうち1つを含んでいる。 ・問題が起こった経緯を考える。 ・論理・推論を吟味する。 ・解決法の実行可能性を検討する。 ・解決法の影響・効果を比較して重み付けする。	提案された解決法に対する評価は簡素である。またその評価は以下の点のうち2を含んでいる。 ・問題が起こった経緯を考える。 ・論理・推論を吟味する。 ・解決法の実行可能性を検討する。 ・解決法の影響・効果を比較して重み付けする。	提案された解決法に対する評価は適切である。またその評価は以下の点のうちを3を含んでいる。 ・問題が起こった経緯を考える。 ・論理・推論を吟味する。 ・解決法の実行可能性を検討する。 ・解決法の影響・効果を比較して重み付けする。	提案された解決法に対する評価は深く洗練されている。またその評価は以下の点の全てを含んでいる。 ・問題が起こった経緯を考える。 ・論理・推論を吟味する。 ・解決法の実行可能性を検討する。 ・解決法の影響・効果を比較して重み付けする。
Ⅴ	**結果の検証** Evaluation of Outcomes		今回の問題解決の中で得た結論を表面的に捉えており，以後の局面での応用可能性については十分に考慮していない。	今回の問題解決の中で，以後の局面での応用可能性を意識し，予めその幾つかについて検討している。	今回の問題解決の中で，以後の局面での応用可能性を明確に認識しており，予め考えておく必要がある問題点をある程度考えて選び出し，吟味している。	今回の問題解決の中で，以後の局面での応用可能性を強く認識しており，予め考えておく必要がある問題点を，もれなく具体的に考察して選び出し，吟味している。

H2

批判的思考（Critical Thinking）

論理的で偏りのない思考，そのように自らの推論を内省する態度をもって，
問題・課題を合理的に解決することができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**争点の摘示と説明** Explanation of Issues		批判的に検証されるべき争点・問題点が，明確な説明を伴わないまでも，認識されている。	批判的に検証されるべき争点・問題点が示されているが，説明に未定義，不明確その他の不適当な語彙が散見される。	批判的に検証されるべき争点・問題点が具体的かつ明瞭に示されているが，その完全な理解が重要な部分の遺漏によって妨げられている。	批判的に検証されるべき争点・問題点が包括的な描写とともに明示されており，その完全な理解のために必要かつ十分な情報が含められている。
Ⅱ	**根拠の収集と摂取** Evidence	結論を支える情報の選択及び使用	情報が，情報源から解釈，評価等の操作を伴わずに機械的に取得されている。あるいは，特定の見解が，何らの疑いもなく事実として摂取されている。	情報が，情報源からある程度の解釈・評価を伴って取得されているものの，明瞭な分析を支えるほどに成熟していない。あるいは，特定の見解が，ほぼ疑いなく事実として摂取されている。	情報が，明瞭な分析を支えるに十分な程度に，情報源から有効な解釈又は評価を伴って，取得されている。あるいは，特定の見解が，批判的な検証を経て摂取されている。	情報が，情報源から，広範な分析又は合成を支えるに十分な程度に，有効な解釈又は評価を伴って取得されている。あるいは，特定の見解が徹底した批判的検を経て摂取されている。
Ⅲ	**推論と文脈の考慮** Assumption and Context		時として，単なる主張を推論として扱うことがあるものの，新たな推論を提示しようとしている。自らの立場を主張するに際して，幾つかの文脈を認識しようとしている。	幾つかの推論に批判的検証を加えている。自らの立場を主張するに際して，幾つかの文脈を認識している。	自らの立場を主張するに際して，他者の推論を含む幾つかの文脈を認識している。	整合性・体系性において，自ら及び他者の推論を完全に分析し，自説の文脈との関連を注意深く評価している。
Ⅳ	**立場と観点** Position and Perspective		具体的な立場（展望・論点・仮説）が述べられているものの，単純化が過ぎ，又は自明である。	具体的な立場（展望・論点・仮説）によって，課題の異なる側面が認識されている。	具体的な立場（展望・論点・仮説）によって，課題の複雑性が十分に説明されている。また，他者の見解が，自らの立場（展望・論点・仮説）に包含され，認識されている。	具体的な立場（展望・論点・仮説）が独創的であり，課題の複雑性が十分に説明されている。また，立場の限界が認識されている。他者の見解が，自らの立場（展望・論点・仮説）に合成されている。
Ⅴ	**結論と成果** Conclusions and Outcomes		結論が，議論された幾つかの情報にちぐはぐに結び付けられ，関連する成果（導出された成果とその含意）が，過度に単純化されている。	結論が情報に論理的に結びつけられている。幾つかの関連する成果（導出された成果とその含意）が，明快に識別されている。	結論が，対立する見解を含む一連の情報に論理的に結びつけられている。関連する成果(導出された成果とその含意）が，明快に識別されている。	結論と関連する成果(導出された成果とその含意）が論理的につながっており，有効に根拠を示す能力や，正しい順序で議論を進める能力が表現されている。

I 1

理解・分析と読解（Comprehension and Analysis in Reading）

文章表現における意味と含意を抽出し，分析及び理解することができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**内容理解** Comprehension		言い換え，要約等の技術を用いて，テクストが伝達しようとしている文脈において，語彙を適切に捉えている。	文と文節の構造や語調といった文章の特徴を考慮に入れながら，著者の主張の背景や目的について，一定の推論を行っている。	文章自体や，その内容に関係する一般的な知識，その文章の内容に影響を与える著者の背景事情に関する具体的な知識を使用して，著者の主張や態度について，より複雑な推論を行っている。	文章の一般的な意図，著者がその文章で明確に示しているメッセージ，当該文章が課題とされた意図等を越えて，その文章の含意をより広範又は深く認識し，表現している。
Ⅱ	**文理構造の分析** Analysis		与えられた課題に最低限必要な範囲で，文章の構造に関心を示している。	文節や形式的な特徴を持ったパラグラフなどの間の関係を，認識している。これにより，文章の全体的な意味を基本的に理解している。	文節や形式的な特徴を持ったパラグラフなどの間の関係を，分析している。これにより，文章の全体的な意味を高度に理解している。	文節や形式的な特徴を持ったパラグラフなどの間の関係を，分析し評価を加えている。これによって，当該分野に関する知識や見識を獲得している。
Ⅲ	**ジャンルの特性** Genres		省察的ではないにしても生産的な方法で，ジャンルに関する一般的な知識を，テクストの読解に適用している。	経験的に，また意図的に，流れに沿ったり逆らったりしてテクストを扱いながら，さまざまなジャンルにわたる読解の経験を省察している。	ジャンルやそのテクストに特徴的な約束事の違いを，明確に見分けている。	テクストのニュアンスに応じた読解の仕方を選択したり，調整したりしながら，ジャンルの範囲内又はジャンルを超えて，テクストを柔軟に分析する能力を示している。
Ⅳ	**解釈** Interpretation		課題を明らかにするために，他者のサポートに頼りながら，目的に沿った読解を行うことができる。	読解の目的に基づいて解釈のやり方を選択し，自覚的に内容分析を行うことができる。	特定の学問分野に特有の読解方法や解釈方法について理解し，当該読解の目的に基づいて，それらを適用できる。	特定の学問分野に特有の読解方法や解釈方法について理解し，当該読解の目的に基づいて，それらを適用できることに加え，それを超えたところで継続している対話の一部としての応用的な読解に進んで参加する姿勢を示している。
Ⅴ	**読者の声** Reader's Voice	テクストに関する学術的な対話への参加	著者の意図を保持しつつ，それと関連付けるようなやり方において，テクストにコメントすることができる。	テクストについての基本的な理解を共有するのに貢献するようなやり方で，他者によって統制された会話において，テクストについての議論を行うことができる。	進行中の議論を深めたり促したりするために，テクストに対して，断片的であっても有効な解釈や疑問の提示を行うことができる。	学問的なコミュニケーションを進めたり続けたりするために，自立した知的，倫理的な性向をもって，テクストについての議論を行うことができる。

I2

量的分析（Quantitative Literacy）

数値データを適切に扱い，様々な文脈で量的問題を推論し，課題の解決につなげることができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**解釈** Interpretation	数学的形式（方程式，グラフ，図，表等）で表された情報の意味するところを理解し説明する能力	数学的形式で表された情報に関して説明を試みているが，情報の基本的な解釈に誤解があり，間違った結論を導いている。	数学的形式で表された情報を，ある程度正確に説明している。しかし，計算や単位などに関して，小さなミスをおかしている。	数学的形式で表された情報を，正確に解釈している。	数学的形式で表された情報を，正確に解釈しており，そうした情報から適切な推論を展開している。
Ⅱ	**表現** Presentation	情報を様々な数学的形式（方程式，グラフ，図，表等）に変換する能力	情報を数学的表現に変換しているが，その結果は不適切又は不正確である。	情報を数学的表現に変換しており，その結果は部分的に適切又は正確である。	自己の主張を説明するために適切な情報を選び，これを望ましい数学的表現に変換している。	自己の主張を説得的にするために適切な情報を選び，その情報に関する理解をさらに進めて，数学的表現に巧みに変換している。
Ⅲ	**コミュニケーション** Communication	立証又は裏付けの過程において，量的な根拠を用いる能力	立証又は裏付けの過程において，自分の主張を効果的に相手に伝えるために，適切な量的根拠の提示が必要との認識はあるが，実際には定性的な表現が多用され，充分かつ明確な数値的サポートが提供されていない。	立証又は裏付けの過程において，量的な情報を使用しているが，形式的又は内容的に一部不備があり，自己の主張を効果的に相手方に伝えることには結びついていない。	立証又は裏付けの過程において，量的な情報を使用しており，形式的又は内容的にほぼ不備がなく，自己の主張を相手方に効果的に伝えられている。	立証又は裏付けの過程において，自己の主張を相手に伝えるために，量的な情報を巧みに使用している。量的な情報の形式は簡明で，内容も一貫性が高く，相手方との更なるコミュニケーションを誘発している。
Ⅳ	**計算・演算** Calculation		計算又は演算を試みているが，正しい解は導けていない。	行われた計算又は演算は正しい解を導けていないか，あるいは問題の完全な解決のために要求される全体の一部分のみをカバーしているに過ぎない。	行われた計算又は演算は基本的に成功しており，問題解決のために要求される全体をカバーしている。	行われた計算又は演算は基本的に成功しており，問題解決のために要求される全体をカバーしている。計算のプロセスは明快，簡潔で優美である。
Ⅴ	**応用・分析** Application/ Analysis	分析の限界を認識しながら，量的分析をもとに判断して，適切な結論を導く能力	データの量的分析を仮の，又は初歩的な判断のための根拠として使用できているが，結論は疑わしい。	量的分析を判断の根拠として使用できており，結論も確からしい。	量的分析を合理的な判断をもとに使用できており，作業を通じて示された結論は筋が通っており適切である。	量的分析を思慮深い判断の根拠として使用できており，作業を通じて示された結論は入念で洞察に富んでいる。
Ⅵ	**仮説** Assumptions	量的分析から重要な仮説を構築し，評価する能力	仮説の説明を試みている。	明確に仮説の説明をしている。	明確に仮説を説明したうえで，さらになぜその仮説が適切なのかについて，説得力のある理論的根拠を提示している。	明確に仮説を説明したうえで，さらになぜその仮説が適切なのかについて，説得力のある理論的根拠を提示している。加えて，最終的な結論の信憑性は仮説の正確さによって限定されるということの自覚が示されている。

I3

情報分析（Information Analysis）

情報の収集と取捨選択，分析と加工を有効かつ円滑に行うことができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**情報の範囲と性質の決定** Determine the Extent of Information Needed		・問題ないし課題の解決のために必要な情報を，それが収載されている可能性の高い媒体を特定せずに，ランダムに検索している。 ・必要とされる情報の検索のためには，情報の性質に即して，主要な概念･キーワードを決定することが必要であることを認識している。	・問題ないし課題の解決のために必要な情報が収載されている可能性の高い媒体の範囲を，ある程度限定できる。 ・必要とされる情報の主要な概念･キーワードを，感覚的に決定している。	・問題ないし課題の解決のために必要な情報が収載されている可能性の高い媒体の範囲を，十分に絞り込んでいる。 ・必要とされる情報の主要な概念･キーワードを，情報の性質に即して合理的に特定している。	・問題ないし課題の解決のために必要な情報が収載されている可能性の高い媒体を，十分効率的かつ効果的に特定している。 ・必要とされる情報の性質に基づいて，その主要な概念・キーワードを効果的に決定している。
Ⅱ	**情報の入手** Access the Needed Information		手当たり次第に情報にアクセスし，関連性や本質に欠けた情報を検索している。	単純な検索法を使用して情報にアクセスし，限られたソースや類似したソースから情報を検索している。	多様な検索法で，いくつかの関連する情報ソースを使用して情報にアクセスしている。	良くデザインされた検索法で，最も適切な情報ソースを効果的に使用して，情報にアクセスしている。
Ⅲ	**情報及びその源泉の評価** Evaluate Information and Its Sources		入手した情報が，ある仮定を基礎としているために，限界を有し得ることを認識しつつある。	入手した情報を批判的に検証し，それが基礎としている仮定の幾つかに疑問を呈している。	自己の知識を必要に応じて補強しながら，入手した情報を批判的に検証し，それが基礎としている仮定の幾つかに疑問を呈している。自己の見解と入手した情報とに共通し，又は関連する背景を考慮している。	十分な知識に基き，自己の見解と，入手した情報の仮定を徹底的に比較分析し，いずれを選択すべきか慎重に評価している。加えて，情報源の信憑性に十分な注意を払っている。
Ⅳ	**情報の利用** Use Information Effectively		入手した情報を，他者に伝達することができる。ただし，その情報は断片的であり，引用，加工に誤りがあるなど，意図された目的に対して不十分である。	入手した情報を，再構成して，他者に伝達することができる。ただし，その情報は統合が不十分であり，意図された目的は達成されていない。	入手した情報を，再構成し統合して，意図した目的にそって，他者に伝達している。	入手した情報を，明瞭さと深みをもって再構成し統合して，意図した目的にそって，他者に有効に伝達している。
Ⅴ	**倫理的・法的問題の評価** Access and Use Information Ethically and Legally		以下の情報利用法のうちの1つを表現できる。 ・引用や出典の表記，言い換え･要約･引用の選択を正しく行うこと。 ・もとの文脈に照らし正しいやり方で情報を使用すること。 ・情報帰属元のクレジットを明記すべき情報か否かを識別すること。 ・公表された情報，機密情報，及び所有権のある情報の使用に関する倫理的･法的な制限を守ること。	以下の情報利用法のうちの2つを表現できる。 ・引用や出典の表記，言い換え･要約･引用の選択を正しく行うこと。 ・もとの文脈に照らし正しいやり方で情報を使用すること。 ・情報帰属元のクレジットを明記すべき情報か否かを識別すること。 ・公表された情報，機密情報，及び所有権のある情報の使用に関する倫理的･法的な制限を守ること。	以下の情報利用法のうちの3つを表現できる。 ・引用や出典の表記，言い換え･要約･引用の選択を正しく行うこと。 ・もとの文脈に照らし正しいやり方で情報を使用すること。 ・情報帰属元のクレジットを明記すべき情報か否かを識別すること。 ・公表された情報，機密情報，及び所有権のある情報の使用に関する倫理的･法的な制限を守ること。	以下の情報利用法のすべてを表現できる。 ・引用や出典の表記，言い換え･要約･引用の選択を正しく行うこと。 ・もとの文脈に照らし正しいやり方で情報を使用すること。 ・情報帰属元のクレジットを明記すべき情報か否かを識別すること。 ・公表された情報，機密情報，及び所有権のある情報の使用に関する倫理的･法的な制限を守ること。

J1

継続的学修基盤（Life-Long Learning Skills）

コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを，自らの思考及び行動のパターンとすることができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**好奇心** Curiosity		テーマやトピックに低い程度の関心を示し，これを浅いレベルで検討するのみで，基礎的な事実をこえた洞察や情報をほとんど提供しない。	テーマやトピックにある程度の関心を示し，これを探究しようとしているが，論拠は必ずしも確かでなく，洞察や情報をところどころ提供するに止まる。	テーマやトピックに関心を示し，これを積極的に探究して，洞察や情報を重要な点について提供している。	テーマやトピックに旺盛な関心を示し，これを深く探究して，十分自覚的に認識されておらず，あるいはほとんど知られていない情報を提供するほか，重要な点で洞察に富んだ意見を提示している。
Ⅱ	**自発性** Initiative	自律性の一部であり，自ら発想し行動する意欲	与えられた課題をこなす過程で，要求される以上の成果や，付加的な成果を意欲的に追い求めている。	与えられた課題をこなす過程で，要求される以上の成果や，付加的な成果を意欲的に追い求め，現実に成果を生んでいる。	課題を自主的に発見し，その解決のために意欲的に行動している。	課題を自主的に発見し，その解決のために意欲的に行動している。その機会を通じて，知識，スキル，能力や経験を自立的に修得している。
Ⅲ	**自立性** Independence	自律性の一部であり，自らをコントロールし，課せられた課題を超える知識や経験を積極的に探究する姿勢	過去の学修を浅いレベルで再検討しているが，学びや日々の生活での出来事が，自分の成長にとってどのような意味をもっているかを明確に認識をしていない。	過去の学修をある程度の深さで再検討する中で，学びや日々の生活での出来事が，自分の成長にとってどのような意味をもっているかを認識している。	過去の学修を深く再検討する中で，学びや日々の生活での出来事が，自分の成長にとってどのような意味をもっているかを十分明確に認識している。	過去の学修を深く再検討する中で，長期間にわたる成長のために，学びや日々の生活をどのように行うべきかに関する自己の方針が，根本的に変化したことを認識している。
Ⅳ	**転移** Transfer	新たな状況を理解し、その中で合理的に行動できるように，過去の学修経験を省察し，知識・スキルを応用して新たな状況に適応すること	過去の学修を曖昧に参照するものの，そこから得られた知識やスキルを，新たな状況を理解し，その中で行動できるように，応用することはしていない。	過去の学修を参照し，そこから得られた知識やスキルを，新たな状況を理解し，その中で行動できるように，応用しようとしている。	過去の学修を参照し，そこから得られた知識やスキルを，新たな状況に応用し，その状況の理解と行動に結び付けている。	過去の学修を参照し，そこから得られた知識やスキルを，新たな状況に革新的又は創造的なやりかたで応用し，その状況の理解と行動に結び付けている。
Ⅴ	**継続と省察** Continuity and Reflection	自らの長期的な成長のために必要な方針を，過去の知識・経験を再検討するなかで抽出するとともに，方針に向けた計画を継続的に実践すること	過去の知識・経験を再検討することが，自らの成長のために必要なことを十分に理解しないままに，過去の学修を表面的に再検討している。	過去の知識・経験を再検討することが，自らの成長のために必要なことを理解して，過去の学修をある程度の深さで再検討している。	過去の知識・経験を再検討することが，自らの成長のために必要なことを十分に理解して，過去の学修を深く再検討している。その結果として，自らの長期的な成長のために必要な方針を獲得しつつある。	過去の知識・学修を注意深く再検討し，長期間にわたって自己を成長させる基礎となる方針を獲得している。また，その方針に向けた計画を具体化させている。

J2

創造的思考（Creative Thinking）

既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し，
一定のリスクをとりながら，結果に結び付けることができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	**進行期** Developing	**発展期** Proficient	**定着期** Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	**概要**			**成績ターゲット 3000/4000**	
Ⅰ	**リスクテイク** Taking Risks	限界を乗り越える，新たな発想と手段を用いる，論争的な問題にあえて取り組む，といった一定のリスクをとって，リターンにつなげようとする姿勢	目標達成・課題解決のためのデザインやアプローチは，常識的な限界内に留まっている。	目標達成・課題解決のためのデザインやアプローチは常識的な限界内に留まるが，新たな視点を模索しようとしている。	目標達成・課題解決のためのデザインやアプローチは，常識的な限界を超えて，新しい内容を有している。	目標達成・課題解決のためのデザインやアプローチは，未だ検証されておらず潜在的なリスクを含むような内容を積極的に考慮したうえで，目標・課題が現実に達成・解決されている。
Ⅱ	**目標設定** Target Setting	アプローチ選択を踏まえた，高い目標を設定と，その達成条件の十分な分析	目標を定性的に設定している。複数のアプローチを十分に検討していない。また，スコープ，タイムマネジメント及びコストについて，曖昧さが残る。	目標を定量的に設定している。過去の類例を参考として，複数のアプローチを考慮し，スコープ，タイムマネジメント及びコストについても，合理的に決定している。	複数のアプローチを考慮したうえ，挑戦的な目標を設定し，その達成に向けたスコープ，タイムマネジメント及びコストの詳細を，経験にとらわれない独自の発想に基づいて，決定している。	複数のアプローチを考慮したうえ，挑戦的な目標を設定し，その達成に向けたスコープ，タイムマネジメント及びコストの詳細を，経験にとらわれない独自の発想に基づいて，ただし定量的な根拠をもって，決定している。
Ⅲ	**矛盾の受け入れ・止揚** Embracing Contradictions	一つの価値を選択するために，別の価値を全否定するのではなく，それらが有している内容のうち積極的な要素を摂取し，より高い価値として保持する考え方	代替的な，多様な，又は相互に矛盾をはらんだ見地やアイデアが存在することを認識している。	代替的な，多様な，又は相互に矛盾をはらんだ見地やアイデアのそれぞれに価値を認め，最終的に選択したアプローチに他の価値の一部を取り込んでいる。	代替的な，多様な，又は相互に矛盾をはらんだ見地やアイデアのそれぞれに含まれる良い点を試行錯誤的に組み合わせ，最終的なアプローチとしている。	代替的な，多様な，又は相互に矛盾をはらんだ見地やアイデアを，完全に調和させている。（それぞれの見地やアイデアの矛盾を相互に調和的に解決し，より高い次元の価値にかえている。）
Ⅳ	**革新的思考** Innovative Thinking	アイデア・主張・疑問への着想についての新奇性と独自性	利用できる種々のアイデアを，今までとは違った角度で見直そうとしている。	新奇な，又は独創的なアイデア・疑問を着想し，その検証・利用を試みている。	新奇な，又は独創的なアイデア・疑問を着想し，その検証・利用を現実に行っている。	新奇な，又は独創的なアイデア・疑問についての着想を，個別的に検証・利用するに止まらず，その延長で新しい知見や理論を創造している。
Ⅴ	**関連付け・統合・転換** Connecting, Synthesizing and Transforming		既存のアイデアや解決方法の間にある，対立やつながりを認識している。	既存のアイデアや解決方法を，新奇なやり方で関連付けている。	既存のアイデアや解決方法を，首尾一貫性をもった体系の中に統合している。	既存のアイデアや解決方法を，全く新しい形式に変換し，あるいは体系に位置付け直している。

K1

ライティング・コミュニケーション（Written Communication）

文章によって自らの考えを表現し，読者に過不足なく伝達することができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	**進行期** Developing	**発展期** Proficient	**定着期** Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	**概要**			**成績ターゲット 3000/4000**	
Ⅰ	**目的及び文脈の理解** Context of and Purpose for Writing	対象読者・目的や，主題をとりまく状況の考慮。	対象読者の知識量を想定して書くというような，文章作成の目的と文脈に関して，関心を示している。	目的や文脈についての理解を前提として，文章作成にあたり，読者の理解力，その予備知識の差異に基づく，論理構造や表現の工夫の必要性について，認識を示し始めている。	目的や文脈についての理解を前提として，文章作成にあたり，読者・目的・文脈を考慮していることを，明確に示している。	目的や文脈についての完全な理解を前提として，必要とされる全ての要素を考慮した，要請に十分に応える文章作成の技量を示している。
Ⅱ	**構成・内容の展開** Content Development		文章の幾つかの部分において，当該文章の作成目的に適合した，効果的な構成や簡潔な表現を用いている。	文章の大部分において，当該文章の作成目的に適合した，効果的な構成や簡潔な表現を用いている。	当該専門分野における十分な背景理解と知識の適用を前提として，文章の全体において，当該文章作成の目的に適合した，効果的な構成や説得的な表現を用いている。	当該専門分野における十分な背景理解と知識の適用によって，課題が現実に解決されていることを前提として，当該文章作成の目的に適合した，効果的な構成や説得的な表現を用いている。文章全体が一体感をもっている。
Ⅲ	**ジャンルと分野固有規律** Genre and Disciplinary Conventions	文章のジャンルに応じた形態的な約束事，学問分野に固有の形式上の要請の充足。	文章の構成や表現の選択について，一貫して特定の体系に依拠しようとしている。	当該文章作成の目的にふさわしい，形式的，内容的な約束事を重要な部分で理解し，それに従っている。	特定の学問分野による形式上の要請に配慮しつつ，当該文章の作成目的にふさわしい形式的，内容的な約束事を網羅的に理解し，一貫性をもって使用している。	特定の学問分野や文章作成目的に関する広範な約束事（構成，内容，表現，書式，文体選択を含む）に対し，細かい注意を振り向け，巧みに運用している。
Ⅳ	**引用と出典** Source and Evidence		アイデアを裏付けるために，資料を使おうとしている。	考えを裏付けるために，信頼できる（もしくは関連性がある）資料を使おうとしている。	考えを裏付けるために，信頼でき，関連性のある資料を，根拠として一貫して使っている。	考えを文章中で展開するために，質が高く，信頼でき，関連の深い資料を根拠としてうまく使いこなしている。
Ⅴ	**統語法と洗練** Syntax and Mechanics		文法その他統語法に多くの誤りがあるために，意味の伝達が妨げられている。	文法その他統語法の誤りは限定的であり，読者に意味をほぼ伝達できている。	文法その他統語法の誤りは軽微であり，直接的な表現を用いて，確実に読者に意味を伝達できている。	文法その他統語法はほぼ完璧であり，明快・優雅かつ流暢な表現で，読者に文意を確実に伝達し，効果的な余韻を残している。

K2

オーラル・コミュニケーション（Oral Communication）

自らの考え，信念を，聞き手に口頭で的確に伝達することができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	進行期 Developing	発展期 Proficient	定着期 Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	概要			成績ターゲット 3000/4000	
Ⅰ	**内容の構造化** Organize		構造的なパターン（導入，本文，結論，とそれらの間の連絡）をプレゼンテーション中に組み入れる努力がみられるが，十分に機能していない。	プレゼンテーション中に構造的なパターン(導入，本文，結論，とそれらの間の連絡）が部分的にみられる。	プレゼンテーション中における,構造的なパターン（導入,本文,結論,とそれらの間の連絡）が全体的にみられる。	プレゼンテーション中における,構造的なパターン（導入,本文,結論,とそれらの間の連絡）が明確で,プレゼンテーションに一体感がある。
Ⅱ	**言葉選び** Language		聴衆を十分に意識しておらず，かつ言葉を選ぶ方針が明確でなく，プレゼンテーションの有効性は最小限にとどまっている。	聴衆を意識し始めているものの，言葉の選び方が，平凡で陳腐であり，プレゼンテーションの有効性が，部分的な範囲を支えるに止まっている。	聴衆を意識しており，良く考えられた言葉を選ぶことにより，プレゼンテーションの有効性がほぼ全範囲にわたり支えられている。	聴衆のニーズを十分に把握したうえ，想像力に富んだ言葉の選び方をすることにより，プレゼンテーションの有効性が全範囲で支えられ，印象的で説得力のあるものとなっている。
Ⅲ	**話しの運び** Delivery		話術（姿勢，ジェスチャー,アイコンタクト,声の表現力，テンポ,抑揚）が,プレゼンテーションの理解を妨げており，話者が落ち着きなくみえる。	話術（姿勢，ジェスチャー,アイコンタクト,声の表現力，テンポ,抑揚）が,プレゼンテーションを理解可能にしているが，話者が自信なさげである。	話術（姿勢，ジェスチャー,アイコンタクト,声の表現力，テンポ,抑揚）が,プレゼンテーションを興味深くしており，話者が落ち着いてみえる。	話術（姿勢，ジェスチャー,アイコンタクト,声の表現力，テンポ,抑揚）が,プレゼンテーションを説得的にしており，話者が，洗練され自信のあるようにみえる。
Ⅳ	**補助資料作成** Supporting Material		サポート技術（説明,例示，図解，統計，比喩，引用による権威付け）がある程度用いられているが，質量ともに不充分であるためにプレゼンテーションを最低限支持するに止まり，発表者の信頼性や権威を十分に裏付けられていない。	幾つかのサポート技術（説明,例示,図解,統計,比喩,引用による権威付け)が,プレゼンテーションを部分的に支持し,発表者の信頼性や権威をある程度高めている。	多様なサポート資料(説明，例示，図解，統計,比喩，引用による権威付け）が適切に配置され，プレゼンテーションをおおよそ支持して,発表者の信頼性や権威を裏付けている。	多様なサポート資料(説明，例示，図解，統計,比喩，引用による権威付け）が適切に配置され，プレゼンテーション中の核心的な情報や分析を補助して，発表者の信頼性や権威を十分に裏付けている。
Ⅴ	**中核的メッセージ** Central Message		中核的なメッセージは推測できるものの，プレゼンテーションにおいて明確には述べられていない。	中核的なメッセージは基本的に認識可能であるが，強調が不十分で,記憶に残るものではない。	中核的なメッセージが明確に打ち出されており，かつ補助資料と一貫性がある。	中核的なメッセージが正確さと強調を伴って説得的に示されており,かつ補助資料によっても強力に支持されている。

L1

チームワーク（Teamwork）

集団的に課題解決を行う際に，自己の立場や責任を認識し，互いに集団の連帯を強めることができる。

	能力要素 Competency		能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	**進行期** Developing	**発展期** Proficient	**定着期** Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	**概要**			**成績ターゲット 3000/4000**	
Ⅰ	**対話への参加** Contribute to Team Meetings	（メンバーシップの要素） 議論を前進させるような，主張の長所を明確にした提案。	対話に関与しようとするが，グループの目的を具体的に前進させるまでには至らない。	対話に関与するに止まらず，ときにグループの目的を前進させるような，新たな提案や示唆を与える。	対話に参加し，他者の考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を提案する。	対話に積極的に参加し，代替的な提案を，当該提案の長所を明確にしつつ追加的に行い，グループが目標に向けて前進することに貢献する。
Ⅱ	**他者による貢献の促進** Facilitates the Contribution of Team Members	（メンバーシップの要素） メンバーの意見の建設的な統合。	発言の順番を回したり，他者の意見を遮ることなく傾聴することで，チームのメンバーをチームの活動に参加させることを促している。	他者の見方について，言いなおし，具体化・明確化のための質問を行うこと等によって，チームのメンバーが話し合いに貢献するのを促進し，チームの活動を活性化させ始めている。	他者の貢献を建設的に積み重ねたり統合したりすることによって，チームのメンバーが話し合いに貢献するのを促進し，チームの活動を前進させている。	他者が参加していない時には，そのことに気付き参加を促すとともに，そうした他のメンバーの貢献を建設的に積み重ねたり統合したりすることによって，チームのメンバーが話し合いに貢献するのを促進し，チームを一体化させ前進させている。
Ⅲ	**信念とビジョンの提示** Belief and Vision	（リーダーシップの要素）	集団又はそのプロジェクトの成功のために，共通の信念やビジョンが不可欠であることを認識している。	集団又はそのプロジェクトの成功のために，共通の信念やビジョンが不可欠であることを認識するとともに，実際に信念とビジョンを提示しようとしている。	集団又はそのプロジェクトの成功のために，共通の信念やビジョンが不可欠であることを認識するとともに，時間軸（現在，過去，未来）及び資源（人材，能力，コスト）について十分な検討を経た信念とビジョンを，現実に提示することができる。	集団又はそのプロジェクトの成功のために，共通の信念やビジョンが不可欠であることを認識するとともに，時間軸（現在，過去，未来）及び資源（人材，能力，コスト）について十分な検討を経た信念とビジョンを現実に提示し，集団内でのその共有を確保することができる。
Ⅳ	**建設的な雰囲気の醸成** Fosters Constructive Team Climate	（リーダーシップの要素）	以下のうちの１つを行うことで，建設的なチームの雰囲気を支える。 ・礼儀正しく建設的なコミュニケーションを行うことで，チームのメンバーを丁重に扱う。 ・チームやその作業に対する肯定的な態度を伝えるため，肯定的な話し方や書き方の調子，表情・ボディーランゲージを用いる。 ・課題の重要さや，それを遂行するチームの能力に対する自信を表明することで，チームメートを動機付ける。 ・チームのメンバーに対して，支援・励ましを与える。	以下のうちの２つを行うことで，建設的なチームの雰囲気を支える。 ・礼儀正しく建設的なコミュニケーションを行うことで，チームのメンバーを丁重に扱う。 ・チームやその作業に対する肯定的な態度を伝えるため，肯定的な話し方や書き方の調子，表情・ボディーランゲージを用いる。 ・課題の重要さや，それを遂行するチームの能力に対する自信を表明することで，チームメートを動機付ける。 ・チームのメンバーに対して，支援・励ましを与える。	以下のうちの３つを行うことで，建設的なチームの雰囲気を支える。 ・礼儀正しく建設的なコミュニケーションを行うことで，チームのメンバーを丁重に扱う。 ・チームやその作業に対する肯定的な態度を伝えるため，肯定的な話し方や書き方の調子，表情・ボディーランゲージを用いる。 ・課題の重要さや，それを遂行するチームの能力に対する自信を表明することで，チームメートを動機付ける。 ・チームのメンバーに対して，支援・励ましを与える。	以下の全てを行うことで，建設的なチームの雰囲気を支える。 ・礼儀正しく建設的なコミュニケーションを行うことで，チームのメンバーを丁重に扱う。 ・チームやその作業に対する肯定的な態度を伝えるため，肯定的な話し方や書き方の調子，表情・ボディーランゲージを用いる。 ・課題の重要さや，それを遂行するチームの能力に対する自信を表明することで，チームメートを動機付ける。 ・チームのメンバーに対して，支援・励ましを与える。
Ⅴ	**内部的対立への手当て** Responds to Conflict	（リーダーシップの要素）	対立を認識し，把握した上で，それに取り組む姿勢を示すことができる。	自ら，代替的な視点，考え，意見を受け入れることにより，対立の打開に着手できる。	対立から離れて，対立が生み出す当座の課題に目を向け直させることにより，当事者を対立の解消に向けた建設的な議論・取り組みに参加させることができる。	対立に直接言及し，対立が生み出す本質的な課題に目を向け直させるとともに，集団全体の結びつきの重要性や将来に向けた価値を明示して，対立の解消に向けたに議論・取り組みを，前進させることができる。

M1

統合的・応用的学修（Integrative and Applied Learning）

知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに，
これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。

能力要素 Competency			能力開発段階 (Development Phase)			
			1	2	3	4
			萌芽期 Beginning	**進行期** Developing	**発展期** Proficient	**定着期** Exemplary
				成績ターゲット 1000/2000		
	要素細目	**概要**			**成績ターゲット 3000/4000**	
Ⅰ	**知識と経験の連絡** Connections to Experience	知識と経験との一般的な関連付け。関連する経験と学術的な知識との具体的な関連付け。	生活経験と，自己の興味との類似性や関連性が認められる学術的なアイデアや文章との間のつながりを認識している。	生活経験と，学術的な知識とを比較し，差異と類似性を十分に把握するとともに，自己と異なる見方の存在と妥当性も認識している。	学問分野の理解のために，様々な文脈から生活経験の例を効果的に選び，概念的に発展させて応用している。	学問分野での概念・理論・枠組みについての理解を深め，そして自己の見地と可能性を広げるために，様々な文脈から生活経験の例を効果的に選び，学術的な知識との間のつながりを意義深く統合している。
Ⅱ	**専門領域の知識の連結** Connection among Disciplines	学問分野とのつながり，学問分野における見地・知識のつながり。	他律的ながら，2つ以上の学問分野やその見地からの事例・事実・理論を関連付けてみることができる。	他律的ながら，2つ以上の学問分野やその見地からの事例・事実・理論を関連付けて，説明することができる。	自律的に，2つ以上の学問分野やその見地からの事例・事実・理論を関連付けて，研究に組み入れることができる。	研究上の成果を学際的に合成して，新たな研究のイメージを作り出している。あるいは，自律的に，2以上の学問分野やその見地からの事例・事実・理論を結合させて，研究上の結論を導き出している。
Ⅲ	**転移** Transfer	ある状況で得たスキルや能力，理論，方法論等の，新たな状況への適用・応用。	ある状況で得た基本的な方法・スキル・能力・理論・方法論を，新しい状況で用いている。	ある状況で得た基本的な方法・スキル・能力・理論・方法論を，新しい状況で用いることにより，問題・課題の理解を前進させている。	ある状況で得た基本的な方法・スキル・能力・理論・方法論を，新しい状況で用いることにより，問題・課題を解決している。	ある状況で得た基本的な方法・スキル・能力・理論・方法論を，新しい状況において独創的な手法で用いることにより，困難な問題・課題を解決している。
Ⅳ	**統合的コミュニケーション** Integrated Communication	文章表現，口頭表現を含む種々のコミュニケーション技術の統合による，複雑な情報のやりとり。	コミュニケーションを要素に含む課題について，適切な形式のコミュニケーション技術を適用しはじめている。	何を伝えるか(内容)と，いかに伝えるか（形式）とを十分に判別しながら，基本的な型・言語・グラフ等を選択することによって，コミュニケーションを要素に含む課題に取り組んでいる。	何を伝えるか(内容)と，いかに伝えるか（形式）とを，目的や聴衆を意識しながら有効に結びつけ，型・言語・グラフ等を選択することによって，コミュニケーションを要素に含む課題をやり遂げている。	言語と意味，思考，表現の相互依存関係を明らかにしながら意味を増すようなやり方で，型・言語・グラフ等を選択することによって，コミュニケーションを要素に含む課題をやり遂げている。
Ⅴ	**自己評価と省察** Reflection and Self-Assessment	過去の経験に学びつつ，新しく挑戦的な文脈に対応しながら，自己評価や省察的・創造的作業を通じて自己意識を成長させる。	自己のパフォーマンスを，成功か失敗かという一般的な記述語で表現している。	特定のパフォーマンスや出来事の中での，自己の強みや課題を明確に認識し，自己認識の成長を伴って，今後の別の文脈に適切に対応する可能性を高めている。	長期間にわたる自己の学習の変化を評価しており，心的，物理的な種々の文脈要因（ストレス，倫理的考慮を含む）を認識している。	多様で長期的な文脈をまたいで存在することになる将来の自己を思い描き，過去の経験の十分な評価を元に，具体的な目標と計画を立てている。

履修系統図（カリキュラムマップ）
能 力 開 発 と 授 業 科 目

総合教育科目

科目区分			科目ナンバー	授業科目（必修：◎，選択必修：○，選択：印なし）	自主創造コンピテンス（主として対応：◎、対応：○、関連：◇）														年次進行（履修開始期）							
					マインドセット			スキル／ナレッジ（自ら学び、考え、道をひらく力）											1年		2年		3年		4年	
					A 日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢	B 自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢	C 倫理観と公共心	D 文化的素養・市民的教養	E 学識・専門技能	F 探求力・課題解決力	G 状況把握力・判断力	H 論理的思考力・批判的思考力	I 理解力・分析力	J 創造的挑戦力・達成力	K 表現力・対話力	L 協働力・牽引力	M 省察力		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
リベラルアーツ科目	リテラシー科目		RMGT 1201	◎自主創造の基礎	○	◎	◇			○		○			◎		◇									
			RMGT 1202	アカデミック・ライティングの基礎	◇			◎					○		○											
			RMGT 1203	◎ライティング・スキルズ	○	◎	◇			○			○	○		◎	◇									
			RMGT 1204	コンピュータ・情報リテラシー									◎		○											
			RMGT 1205	日本を考える	◎						○					○	◎		集							
			RMGT 1206	データサイエンスの世界	◇	◇		○	◎	○	○	◇	○		◇		◇		集							
			RMGT 1207	◎リサーチ・スキルズ1		◇	◇		○	◎		○	○		○		◇									
			RMGT 1208	◎リサーチ・スキルズ2		◇	◇		◎		○		◇		○	◎	○									
	コミュニケーション科目	英語科目	RMGT 1701	○英語Ⅰ	○			○					◎		○											
			RMGT 1702	○英語Ⅱ	○			○					◎		○											
			RMGT 1703	○英語Ⅲ	○			○				○	◎		○											
			RMGT 1704	○英語Ⅳ	○			○				○	◎		○											
		日本語科目	RMGT 1711	○日本語Ⅰ	○			○							◎											
			RMGT 1712	○日本語Ⅱ	○			◎					○		○											
			RMGT 1713	○日本語Ⅲ	○			○							◎											
			RMGT 1714	○日本語Ⅳ	○			◎					○		○											
		拡張外国語科目	RMGT 1721	中国語Ⅰ	○			○							◎											
			RMGT 1722	中国語Ⅱ	○			○							◎											
			RMGT 1723	中国語Ⅲ	○			○					○		◎											
			RMGT 1724	中国語Ⅳ	○			○					○		◎											
			RMGT 1731	韓国語Ⅰ	○			○							◎											
			RMGT 1732	韓国語Ⅱ	○			○							◎											
			RMGT 1733	韓国語Ⅲ	○			○							◎											
			RMGT 1734	韓国語Ⅳ	○			○							◎											
			RMGT 1741	英語演習1					○			○	◎		○											
			RMGT 1742	英語演習2					○			○	○		◎											
			RMGT 1743	英語演習3					○			○	◎		○											
			RMGT 1744	英語演習4					○			○	○		◎											
		スポーツ科目	RMGT 1211	◎スポーツ実技1		○		◎																		
			RMGT 1212	◎スポーツ理論		○		◎																		
	探究科目	人文科学探究科目	RMGT 1101	人文科学探究1	○	○		◎				○	○													
			RMGT 1102	人文科学探究2	○		○	◎				○	○													
			RMGT 1103	人文科学探究3			○	◎				○	○													
			RMGT 1104	人文科学探究4			○	◎				○	○													
			RMGT 1105	人文科学探究5			○	◎					○													
			RMGT 1106	人文科学探究6			○	◎					○													
			RMGT 1107	人文科学探究7	○			◎					○													
			RMGT 1108	人文科学探究8	○			◎					○													
			RMGT 1109	人文科学探究9	○			◎					○		○											
		社会科学探究科目	RMGT 1121	社会科学探究1	○			◎					○													
			RMGT 1122	社会科学探究2	○			◎					○													
			RMGT 1123	社会科学探究3	○			◎					○													
			RMGT 1124	社会科学探究4	○			◎					○													
			RMGT 1125	社会科学探究5				◎	○																	
			RMGT 1126	社会科学探究6				◎	○																	
			RMGT 1127	社会科学探究7	○			◎					○													
			RMGT 1128	社会科学探究8	○			◎					○													
			RMGT 1129	社会科学探究9	○			◎					○													
		自然科学探究科目	RMGT 1141	自然科学探究1				◎				○	○													
			RMGT 1142	自然科学探究2				◎				○	○													
			RMGT 1143	自然科学探究3				◎				○	○													
			RMGT 1144	自然科学探究4				◎				○	○													
			RMGT 1145	自然科学探究5				◎				○	○													
			RMGT 1146	自然科学探究6				◎				○	○													
			RMGT 1147	自然科学探究7		○		◎					○													
			RMGT 1148	自然科学探究8		○		◎					○													
			RMGT 1149	自然科学探究9		○		◎					○													
		学際探究科目	RMGT 1161	学際探究1				◎	○	○	○		○													
			RMGT 1162	学際探究2			○	◎					○													
			RMGT 1163	学際探究3			○	◎			○	○	○													
			RMGT 1164	学際探究4			○	◎					○													
			RMGT 1165	学際探究5			○	◎					○													
			RMGT 1166	学際探究6			○	◎					○													

危機管理学部 専門科目

科目区分		科目ナンバー	授業科目（必修：◎，選択必修：○，選択：印なし）	自主創造コンピテンス（主として対応：◎、対応：○、関連：◇）													年次進行（履修開始期）							
				マインドセット			スキル／ナレッジ（自ら学び、考え、道をひらく力）										1年		2年		3年		4年	
				A 日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢	B 自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢	C 倫理観と公共心	D 文化的素養・市民的教養	E 学識・専門技能	F 探求力・課題解決力	G 状況把握力・判断力	H 論理的思考力・批判的思考力	I 理解力・分析力	J 創造的挑戦力・達成力	K 表現力・対話力	L 協働力・牽引力	M 省察力	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	基盤科目	RMGT1301	◎レジリエンス	◇	○	○		◎	○			○												
		RMGT1401	◎リーガルシステム					◎			○	○												
		RMGT1307	○リスクマネジメント					◎				○												
		RMGT1402	○市民法システムⅠ					◎			○	○												
		RMGT1403	○行政法システム					◎			○	○												
		RMGT1404	○国家ガバナンスⅠ					◎			○	○												
		RMGT2401	○国家ガバナンスⅡ					◎			○	○												
		RMGT2402	○市民法システムⅡ					◎			○	○												
		RMGT2403	○企業法システム					◎			○	○												
		RMGT2404	○国際法システム			◇		◎	◇	◇	○	○												
		RMGT1308	○政治システム			○	◎	○				○	○	○										
		RMGT2405	○刑事司法システム					◎			○	○												
		RMGT2406	○企業コンプライアンス					◎			○	○												
		RMGT2407	○家族法システム					◎	◇	◇	○	○												
	基幹科目 中核概念科目	RMGT1302	◎インテリジェンス					◎			○	○												
		RMGT1303	◎ロジスティクス					◎				○												
		RMGT1304	◎セキュリティ			◇		◎		◇		○												
		RMGT1305	◎リスクコミュニケーション					◎				○												
	基幹科目 共通概念科目	RMGT1306	◎ヒューマニズム	◇				◎				○												
		RMGT1309	○イノベーション論					◎				○												
		RMGT1310	○ボランティア論		○	○		◎				○												
		RMGT1311	○エコロジー					◎				○												
		RMGT1312	○社会心理学（ソーシャルサイコロジー）					◎				○												
		RMGT2301	○グローバル文化論	○			○	◎			○			◇										
		RMGT2302	○ネットワーク論			◇		◎	◇	◇	○	○												
		RMGT2303	○ダイバーシティ論					◎	◇	◇	○	○												
		RMGT2304	○グローバルガバナンス					◎	◇	◇	○	○												
		RMGT2305	○PR論（パブリックリレーションズ）					◎				○												
		RMGT2306	○プライバシー論			◇		◎		◇	○	○												
		RMGT2307	○哲学・現代思想（フィロソフィ）	◇				◎				○												
	展開科目 災害マネジメント領域科目	RMGT3501	○自然災害論			◇		◎	◇	◇		○												
		RMGT3503	○災害対策論					◎				○												
		RMGT3502	地域防災論			◇		◎		◇		○												
		RMGT3504	災害情報論			◇		◎	◇	◇		○												
		RMGT3505	事業継続論（BCP・BCM）					◎		◇	○	○												
		RMGT3401	災害マネジメント特殊研究１			◇		◎	◇	◇	○	○												
		RMGT3506	災害マネジメント特殊研究３			◇		◎		◇		○												
		RMGT3507	災害マネジメント特殊研究２					◎	◇		◇	○												
		RMGT3508	災害マネジメント特殊研究４					◎				○												
		RMGT3511	○社会安全政策１			◇		◎		◇		○												
		RMGT3513	○こどもインクルージョン(行政マネジメント)					◎			○	○												
		RMGT3512	テロリズム論	◇				◎	◇	◇	○	○												
		RMGT3514	社会安全政策２【刑事法ガバナンス】[犯罪と法Ⅱ]					◎			○	○												
		RMGT3515	国民保護			◇		◎	◇	◇		○												
		RMGT3411	パブリックセキュリティ特殊研究１			◇		◎	◇	◇		○												
		RMGT3516	パブリックセキュリティ特殊研究３			◇		◎	◇	◇		○												
		RMGT3517	パブリックセキュリティ特殊研究２					◎	○		○	○												
		RMGT3518	パブリックセキュリティ特殊研究４					◎				○												
		RMGT3521	○国際政治学					◎				○												
		RMGT3523	○平和構築論			◇		◎		○		○												
		RMGT3522	国家安全保障			◇		◎		○		○												
		RMGT3524	国際安全保障			◇		◎	○			○												
		RMGT3525	防衛政策					◎				○												
		RMGT3526	グローバルセキュリティ特殊研究１			◇		◎	○	◇		◇												
		RMGT3421	グローバルセキュリティ特殊研究３			◇		◎		◇	○	○												
		RMGT3422	グローバルセキュリティ特殊研究２					◎			○	○												
		RMGT3527	グローバルセキュリティ特殊研究４					◎				○												
		RMGT3531	○情報技術					◎	◇		○	○												
		RMGT3533	○情報管理論			◇		◎	◇	◇	○	○												
		RMGT3431	情報法			◇		◎	◇	◇	○	○												
		RMGT3532	サイバーセキュリティ			◇		◎	◇	◇	○	○												
		RMGT3534	メディアコミュニケーション			◇		◎	◇	◇		○												
		RMGT3535	情報セキュリティ特殊研究１					◎	◇		◇	○												
		RMGT3536	情報セキュリティ特殊研究３			◇		◎		◇		○												
		RMGT3432	情報セキュリティ特殊研究２					◎				○												
		RMGT3537	情報セキュリティ特殊研究４		○			◎				○	○	◇										
	統合科目 プロジェクト科目	RMGT1601	○プロジェクト１		○			◎					◎	○	○	○	集							
		RMGT1602	○プロジェクト２		○			◎					◎	○	○	○		集						
		RMGT4601	○プロジェクト３		○			◎					◎	○	○	○			集					
		RMGT4602	○プロジェクト４		○			◎					◎	○	○	○				集				
		RMGT1901	○キャリア・デザインⅠ		◎	○								◎		○								
		RMGT2901	○キヤリア・デザインⅡ		◎	○		◎						◎		○				集				
		RMGT4603	○ゼミナールⅠ		◇	◇		◎		○		◇		○	◎	○								
		RMGT4604	○ゼミナールⅡ		◇	◇		◎		○		◇		○	◎	○								
		RMGT4605	○ゼミナールⅢ		◇	◇		◎		○		◇		○	◎	○								
		RMGT4606	○ゼミナールⅣ		◇	◇		◎				◇		○	◎	○								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M								

危機管理学部　能力開発と授業科目

卒業の認定に関する方針（DP）	教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）
日本大学危機管理学部（学士（危機管理学））は，危機管理の重責を全うしようとする使命感と高度なリスクリテラシー（危機管理能力）を備えた人材を輩出すべく，日本大学教育憲章に基づき「日本大学の目的及び使命」を理解し,「自主創造」を構築する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（危機管理学））における能力を修得したものに，「学士（危機管理学）」の学位を授与する。	日本大学危機管理学部（学士（危機管理学））は，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。 リーガルマインドに裏打ちされた多角的で着実なリスクリテラシーを開発することを目的として，「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を中心とする危機管理に不可欠な能力を養成するために，リテラシー教育，コミュニケーション教育，探究教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目のシラバスに明示される学修到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の8つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を図るための授業科目（ゼミナール，卒業論文）の修得状況やと到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

日本大学教育憲章		要素		獲得要素	授業科目
		能力（コンピテンス）	能力要素（コンピテンシー）		
自ら学ぶ	1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	〔DP1〕市民的素養を基礎として，高い倫理観に根差して，法学と危機管理に関する高度な学識と技能（リーガルマインド，リスクリテラシー）を運用する能力	〔DP1-D〕市民的素養・市民的教養 市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。	〔CP1-D1〕市民的素養と参加 コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。	アカデミック・ライティングの基礎 データサイエンスの世界 英語Ⅰ〜Ⅳ 日本語Ⅰ〜Ⅳ 中国語Ⅰ〜Ⅳ 韓国語Ⅰ〜Ⅳ スポーツ実技 1 スポーツ理論 人文科学探究 1 ～ 9 社会科学探究 1 ～ 9 自然科学探究 1 ～ 9 学際探究 1 ～ 6 政治システム
			〔DP1-E〕学識・専門技能 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。	〔CP1-E1〕学識・専門技能 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。	データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1・2 英語演習 1 ～ 4 社会科学探究 5・6 学際探究 1 レジリエンス リーガルシステム リスクマネジメント 市民法システムⅠ 政治システム 行政法システム 国家ガバナンスⅠ・Ⅱ 市民法システムⅡ 企業法システム 国際法システム 刑事司法システム 企業コンプライアンス 家族法システム インテリジェンス ロジスティクス セキュリティ リスクコミュニケーション ヒューマニズム ボランティア論 エコロジー 社会心理学（ソーシャルサイコロジー） ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス 哲学・現代思想（フィロソフィ） PR 論（パブリックリレーションズ） プライバシー論 自然災害論 災害対策論 地域防災論 災害情報論 事業継続論（BCP・BCM） 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 3 災害マネジメント特殊研究 2 災害マネジメント特殊研究 4 社会安全政策1 こどもインクルージョン（行政マネジメント） テロリズム論 社会安全政策2 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 パブリックセキュリティ特殊研究 2 パブリックセキュリティ特殊研究 4 国際政治学 平和構築論 国家安全保障 国際安全保障 防衛政策 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 グローバルセキュリティ特殊研究2 グローバルセキュリティ特殊研究4 情報技術 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 1 情報セキュリティ特殊研究 3 情報セキュリティ特殊研究 2 情報セキュリティ特殊研究 4 プロジェクト1〜4 キャリア・デザインⅡ ゼミナールⅠ〜Ⅳ
	2 世界の現状を理解し、説明する力	〔DP2〕国際的教養人としての感性	〔DP2-A〕日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。	〔CP2-A1〕グローバル感覚 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識することができる。 〔CP2-A2〕異文化適応 異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。	自主創造の基礎 アカデミック・ライティングの基礎 ライティング・スキルズ 日本を考える データサイエンスの世界 英語Ⅰ〜Ⅳ 日本語Ⅰ〜Ⅳ 中国語Ⅰ〜Ⅳ 韓国語Ⅰ〜Ⅳ 人文科学探究1・2・7〜9 社会科学探究1〜4・7〜9 レジリエンス ヒューマニズム グローバル文化論 哲学・現代思想（フィロソフィ） テロリズム論
			〔DP2-B〕自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。	〔CP2-B1〕自己啓発 自己の存在意義を知り、自らを高め続ける努力を継続することができる。	自主創造の基礎 ライティング・スキルズ リサーチ・スキルズ1・2 スポーツ実技1 スポーツ理論 人文科学探究1 自然科学探究 7 ～ 9 レジリエンス ボランティア論 情報セキュリティ特殊研究 4 プロジェクト 1 ～ 4 キャリア・デザインⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ〜Ⅳ
自ら考える	3 論理的・批判的思考力	〔DP3〕問題を適切に把握して、合理的な判断につなげられる能力	〔DP3-G〕状況把握力・判断力 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。	〔CP3-G1〕状況把握 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。	日本を考える データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ2 学際探究1・3 国際法システム 家族法システム セキュリティ ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス プライバシー論 自然災害論 地域防災論 災害情報論 事業継続論（BCP・BCM） 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 3 社会安全政策1 テロリズム論 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 平和構築論 国家安全保障 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 3 ゼミナールⅠ〜Ⅲ
			〔DP3-H〕論理的思考力・批判的思考力 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。	〔CP3-H1〕論理的思考 理路整然とした思考によって、問題・課題を合理的に解決することができる。 〔CP3-H2〕批判的思考 論理的で偏りのない思考、そのように自らの推論を内省する態度をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。	自主創造の基礎 データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1 英語Ⅲ・Ⅳ 英語演習1〜4 人文科学探究1〜4 自然科学探究1〜6 学際探究3 リーガルシステム 市民法システムⅠ 行政法システム 国家ガバナンスⅠ 国家ガバナンスⅡ 市民法システムⅡ 企業法システム 国際法システム 刑事司法システム 企業コンプライアンス 家族法システム インテリジェンス グローバル文化論 ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス プライバシー論 事業継続論（BCP・BCM） 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 2 こどもインクルージョン（行政マネジメント） テロリズム論 社会安全政策2 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 グローバルセキュリティ特殊研究2 情報技術 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 1
	4 問題発見・解決力	〔DP4〕問題を探求し、状況を的確に分析する能力	〔DP4-F〕探究力・課題解決力 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。	〔CP4-F1〕探究と論拠 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うことができる。 〔CP4-F2〕課題解決 オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。	自主創造の基礎 ライティング・スキルズ データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1 学際探究 1 レジリエンス 国際法システム 家族法システム ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス 自然災害論 災害情報論 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 2 テロリズム論 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 パブリックセキュリティ特殊研究 2 国際安全保障 グローバルセキュリティ特殊研究1 情報技術 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 1
			〔DP4-I〕理解力・分析力 文章表現，数値データを適切に扱いつつ，情報の収集と取捨選択，分析と加工を有効かつ円滑に行い，課題の解決につなげることができる。	〔CP4-I1〕理解・分析と読解 文章表現における意味と含意を抽出し、分析及び理解することができる。 〔CP4-I2〕量的分析 数値データを適切に扱い、様々な文脈で量的問題を推論し、課題の解決につなげることができる。 〔CP4-I3〕情報分析 情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行うことができる。	アカデミック・ライティングの基礎 ライティング・スキルズ コンピュータ・情報リテラシー データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1・2 英語Ⅰ〜Ⅳ 日本語Ⅱ・Ⅳ 中国語Ⅲ・Ⅳ 英語演習1〜4 人文科学探究 1 ～ 9 社会科学探究 1 ～ 4，7 ～ 9 自然科学探究 1 ～ 9 学際探究 1 ～ 6 レジリエンス リーガルシステム リスクマネジメント 市民法システムⅠ 政治システム 行政法システム 国家ガバナンスⅠ 国家ガバナンスⅡ 市民法システムⅡ 企業法システム 国際法システム 刑事司法システム 企業コンプライアンス 家族法システム インテリジェンス ロジスティクス セキュリティ リスクコミュニケーション ヒューマニズム ボランティア論 エコロジー 社会心理学（ソーシャルサイコロジー） ネットワーク論 ダイバーシティ論 グローバルガバナンス 哲学・現代思想（フィロソフィ） PR 論（パブリックリレーションズ） プライバシー論 自然災害論 災害対策論 地域防災論 災害情報論 事業継続論（BCP・BCM） 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 3 災害マネジメント特殊研究 2 災害マネジメント特殊研究 4 社会安全政策1 こどもインクルージョン（行政マネジメント） テロリズム論 社会安全政策2 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 パブリックセキュリティ特殊研究 2 パブリックセキュリティ特殊研究 4 国際政治学 平和構築論 国家安全保障 国際安全保障 防衛政策 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 グローバルセキュリティ特殊研究2 グローバルセキュリティ特殊研究4 情報技術 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 1 情報セキュリティ特殊研究 3 情報セキュリティ特殊研究 2 情報セキュリティ特殊研究 4 ゼミナールⅠ〜Ⅳ
自ら道をひらく	5 挑戦力	〔DP5〕新たな可能性を追求し果敢に挑戦し続ける行動力	〔DP5-J〕創造的挑戦力・達成力 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。	〔CP5-J1〕継続的学修基盤 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとすることができる。 〔CP5-J2〕創造的思考 既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、一定のリスクをとりながら、結果に結び付けることができる。	ライティング・スキルズ 政治システム 情報セキュリティ特殊研究 4 プロジェクト1〜4
	6 コミュニケーション力	〔DP6〕グローバルに行動できるコミュニケーション能力	〔DP6-K〕表現力・対話力 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。	〔CP6-K1〕ライティング・コミュニケーション 文章によって自らの考えを表現し、読者に過不足なく伝達することができる。 〔CP6-K2〕オーラル・コミュニケーション 自らの考え、信念を、聞き手に口頭で的確に伝達することができる。	自主創造の基礎 アカデミック・ライティングの基礎 コンピュータ・情報リテラシー データサイエンスの世界 リサーチ・スキルズ1・2 英語Ⅰ〜Ⅳ 日本語Ⅰ〜Ⅳ 中国語Ⅰ〜Ⅳ 韓国語Ⅰ〜Ⅳ 英語演習1〜4 人文科学探究 9 政治システム グローバル文化論 情報セキュリティ特殊研究 4 プロジェクト1〜4 キャリア・デザインⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ〜Ⅳ
	7 リーダーシップ・協働力	〔DP7〕多様な価値を受容し、対立を乗り越え、協働を通じて社会の安定、安全と世界の平和を希求する公共心	〔DP7-C〕他者理解・倫理観・公共心 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。	〔CP7-C1〕倫理的思考・社会認識 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。	自主創造の基礎 ライティング・スキルズ リサーチ・スキルズ1・2 人文科学探究 2 ～ 6 学際探究 2 ～ 6 レジリエンス 政治システム 国際法システム セキュリティ ボランティア論 ネットワーク論 プライバシー論 自然災害論 地域防災論 災害情報論 災害マネジメント特殊研究 1 災害マネジメント特殊研究 3 社会安全政策1 国民保護 パブリックセキュリティ特殊研究 1 パブリックセキュリティ特殊研究 3 平和構築論 国家安全保障 国際安全保障 グローバルセキュリティ特殊研究1 グローバルセキュリティ特殊研究3 情報管理論 情報法 サイバーセキュリティ メディアコミュニケーション 情報セキュリティ特殊研究 3 キャリア・デザインⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ〜Ⅳ
			〔DP7-L〕協働力・牽引力 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。	〔CP7-L1〕チームワーク 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。	ライティング・スキルズ 日本を考える リサーチ・スキルズ2 プロジェクト1〜4 ゼミナールⅠ〜Ⅳ
	8 省察力	〔DP8〕課題発見・仮説構築・仮説検証・課題解決・省察のプロセスを主体的に反復する思考様式	〔DP8-M〕省察力 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。	〔CP8-M1〕統合的・応用的学修 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。	自主創造の基礎 ライティング・スキルズ 日本を考える プロジェクト1〜4 キャリア・デザインⅠ・Ⅱ ゼミナールⅠ〜Ⅳ

コモンルーブリック 主要参考文献

Association of American Colleges and Universities, AAC&U VALUE Rubrics（2007-2009）：http://www.aacu.org/value/rubrics（最終アクセス：2017.1.11）

松下佳代「パフォーマンス評価による学習の質の評価」京都大学高等教育研究第 18 号（2012）75 頁−114 頁：http://hdl.handle.net/2433/169740（最終アクセス：2017.1.11）

工藤一彦「学習・教育到達目標の評価用ルーブリック」（ver. 2015.3.23）：http://www.jabee.org/public_doc/download/?docid=6393（最終アクセス：2017.1.11）

Robert J. Marzano & John S. Kendall, The New Taxonomy of Educational Objectives（2nd ed., Corwin Press, 2007）

R.J. マルザーノ・J.S. ケンドール著（黒上晴夫・泰山祐訳）『教育目標をデザインする』（北大路書房，2013）

日本大学危機管理学部
NIHON UNIVERSITY COLLEGE OF RISK MANAGEMENT
〒154-8513 東京都世田谷区下馬3-34-1
https://www.crm.nihon-u.ac.jp/